

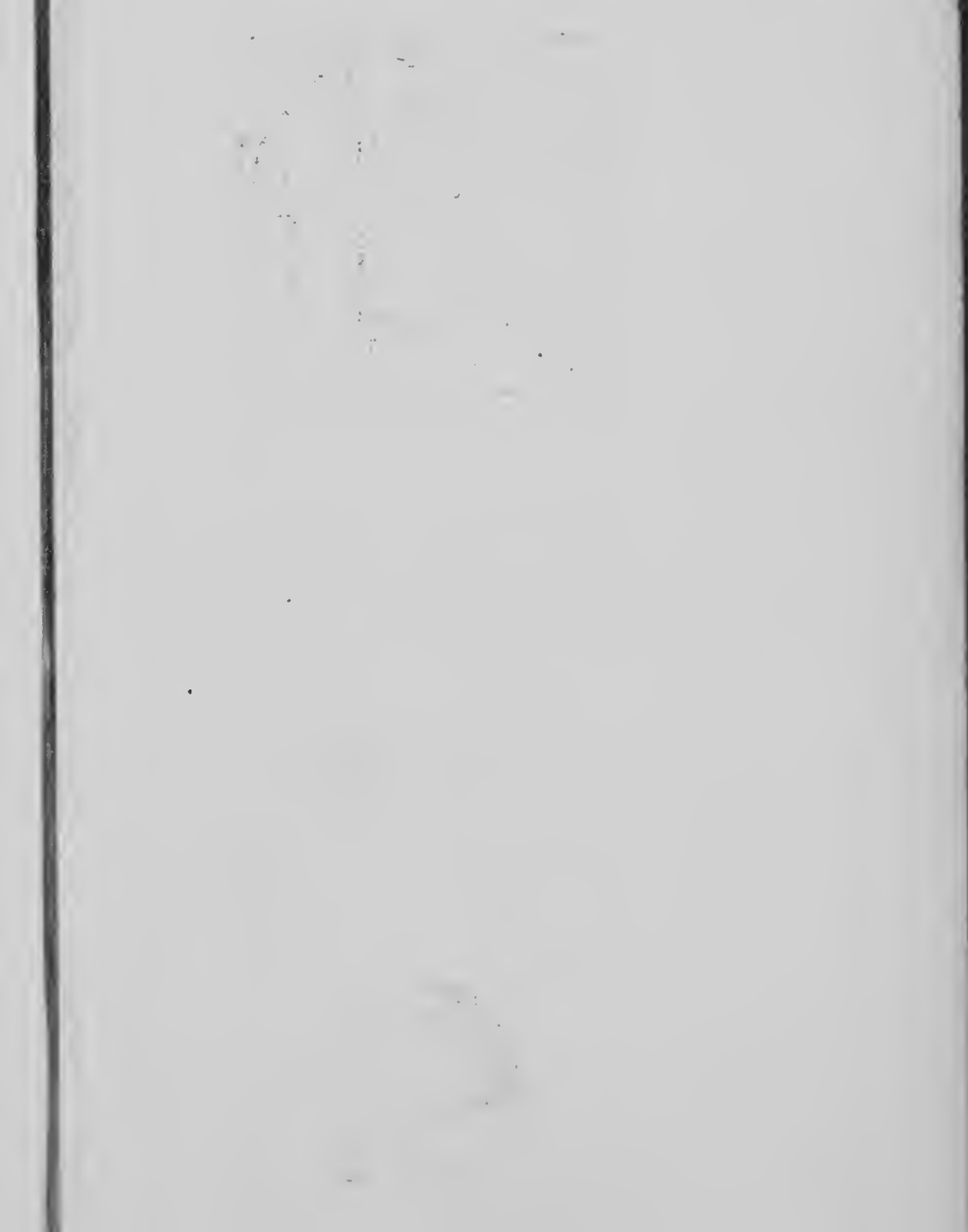
博士 五來欣造 著

ソアツシズムと其國家理論

特別
附錄

伊太利勞働憲章
獨逸ナチス綱領

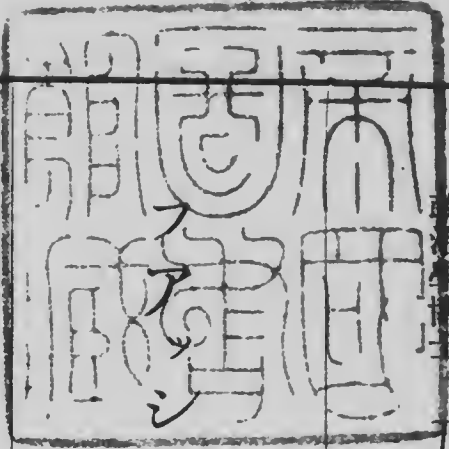
東京 青年教育普及會發行

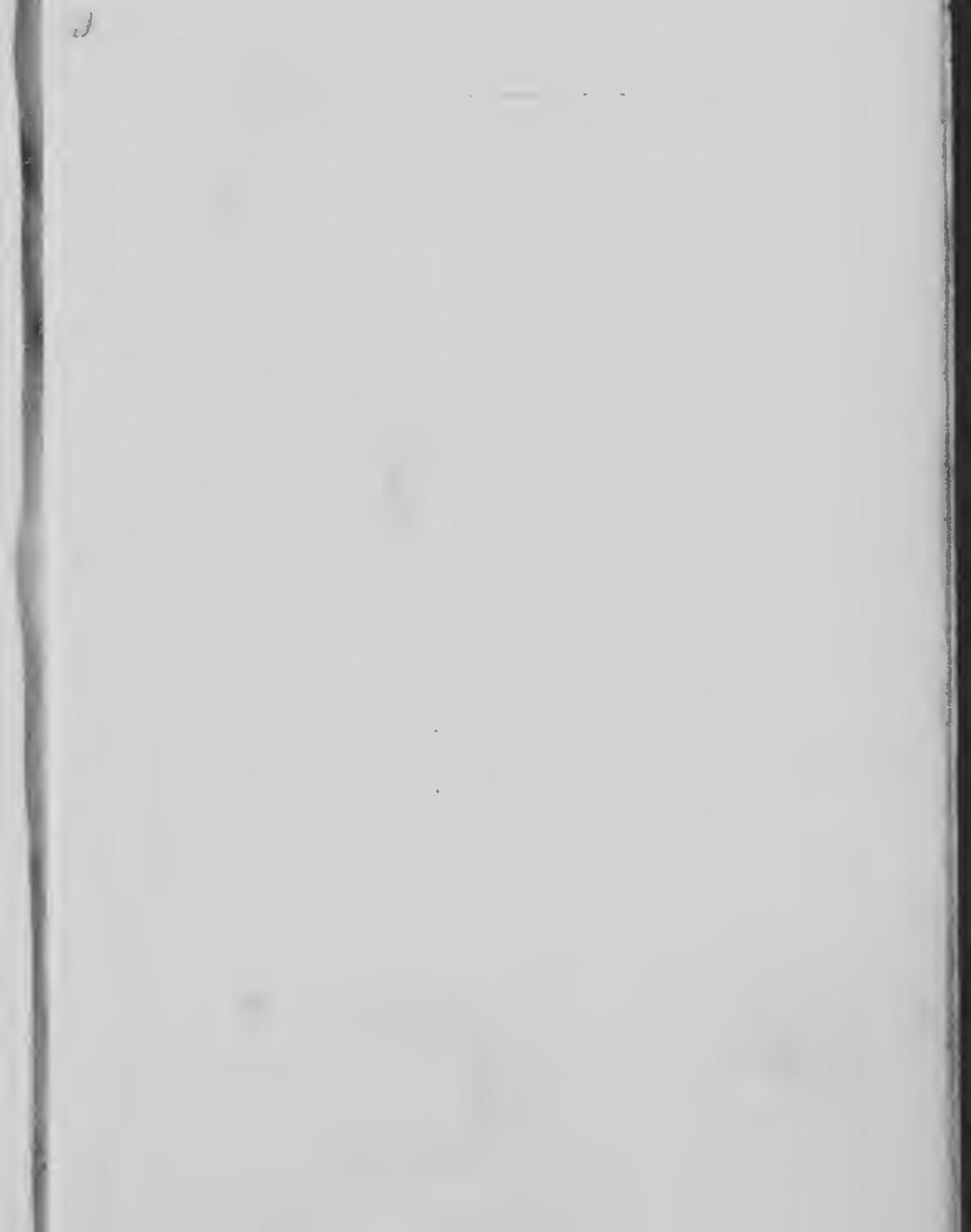


政治學博士 五來欣造 著

ス
ア
ジ
ズ
ム
と
其
國
家
理
論

東京 青年教育普及會發行





序

私は大正六年以來日本に於けるマルキシズムの跳梁を見、世界の文明も、國家の運命も最早や終末に頻したのではないかと思つた。そして之れを征伐するにはファツシヨの外はないと決心した。そこで私は伊太利に行き三ヶ月半留まり、ムツソリニーにも會ひ、獨逸に行き八ヶ月留まり、ヒットラーに聞き、ファツシズムの精神を會得して、さて日本で實行に移さうと考へた時、滿洲事變が起つた。

滿洲事件は軍人の傑作である。一舉にして政治上に滿洲國を獨立せしめ、思想的に日本の運命を救つた。さしも日本を動物の國と化せしめんとしたマルクス主義も此軍事的暴風に依つて天日を被ふ黒雲の如く吹き飛ばされて仕舞つた。それはたしかに日本獨特のファツシヨ運動であつて、其精神に於て、世界のファツシヨと同一のものであつた。

然るに不幸にして此ファツシヨの精神の何たるかは、日本に於て理解されなかつた。それは單なる暴力であり、獨裁政治であるかの如く誤解された。其爲めに却て健全なるファツシヨ運

動の發達を妨げたかの觀がある。

私は此我國に於ける思想上の缺陷を補はんが爲めに此書を出した。そして夫れは來るべき、
フアツシヨ理論大系の緒論に過ぎぬ。讀者が此書に依つてフアツシヨの健全なる概念を得ば、
望外の幸である。

昭和十年三月廿八日

滿洲行の汽車一の谷を過ぐる頃

著 者 識

フアッシズムと其國家理論 目次

第一章 フアッシズムの起源

- 一、議會政治の行詰……………一
- 二、ブルジョアの時代から無産者の時代へ……………六
- 三、階級的利己主義の彈壓……………一二

第二章 全體主義と多數主義の對立

- 一、フアッシズムの定義……………二二
- 二、英國を亡ぼさんとした多數主義……………二六
- 三、多數主義から全體主義へ……………三四
- 四、獨逸の全體主義……………三九

第三章 伊太利フアッシヨの四特質

目次

二

一、道德國家……………	四四
二、組合國家……………	五四
三、經濟國家——（統制經濟の創造）……………	六九
四、勞働者を國家に呼戻す政策……………	八四
第四章 ヒットラーとナチス運動……………	

一、ヒットラーの人物……………	九三
二、ヒットラー成功の原因……………	一〇一
三、ヒットラー政權を得……………	一〇八
四、ヒットラーの獨裁政治……………	一一八
五、ヒットラーの將來……………	一二〇
第五章 ファッシズムの國家理論……………	
第一節 伊太利ファッショの國家理論……………	一三八
一、個人主義の沒落……………	一三八

二、ファッシズムの科學的原理……………一四三

第二節 ナチスの國家理論……………一四七

一、ディトリッヒ博士の所論……………一四七

二、ドイツ教授の所論……………一五二

三、ローゼンベルグの所論……………一五六

第六章 結論……………一六二

特別附錄

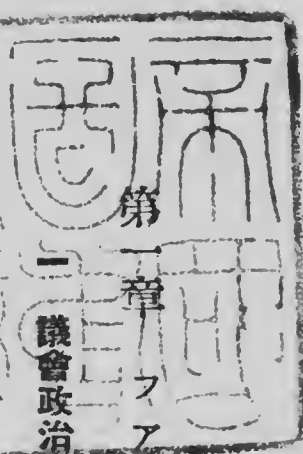
伊太利勞働憲章……………一六七

獨逸ナチス綱領……………一七八



フアッシズムと其國家理論

政治學博士 五 來 欣 造



第一章 フアッシズムの起源

一 議會政治の行詰り

世界に於ても、日本に於ても、千何等かの變化が來りつゝある事が感ぜられる。確かに世の中は變ちんとしてゐる。此の變革時代の支配原理これをフアッシズムと云ふ。然し此のフアッシズムが如何なるものであるかと云ふことに就ては、是れを明確に答へ得る者が甚だ稀れである。或人はフアッシヨは獨裁政治であると云ひ、或人はこれを暴力なりと云ふ。無論フアッシヨには獨裁政治や暴力が多くの場合附物であるに相違ないが、獨裁政治もなく暴力もないフア

ツシヨもある。それは後に説く所のマクドナルドの實行した英國ファッシヨの如きがそれである。つまり伊太利のロツコが説いた如く、獨裁政治や暴力はファッシヨの方法であり、手段であつて、決して其の目的でもなく本質でもない。然らばファッシヨの本質は何か。

此のファッシヨの性質を知らうと思へば、先づファッシヨ運動が、如何にして起つたかの事情を極めることが大切である。即ちその起源を論するのが便利である。そして何のためにファッシヨが起つたかと言へば、それは議會政治の行詰りから發生したものである。

議會政治の行詰りとはそも／＼何を意味するか。これに對して最も確な答辯を與へたものは、伊太利の司法大臣であつて、ムツソリーニの片腕であるロツコ Rocco である。彼は言ふ「現代議會政治の缺點は何處にありやと云へば國家の目的を忘れがちだと言ふ事である。それは議會政治が數の政治であり、多數決の政治であるといふ所から來る當然の結果である。即ち國民の多數が專制政治がいゝと云ふ事であるならば、專制政治にもなり、共產政治がいゝといふ事であるならば、共產主義にもなる。そこでファッシヨは國家の目的を忘れんとする此の議會政治に、國家の眞の目的を教へてやらうと云ふのである。」

實際上、議會政治は船頭多くして、船山に登るの感がある。日本といふこの大きな船を、誰れが動かしてゐるかと言へば、二千萬の有權者である。彼等はその船を何處へ着けようかといふ事が分らない。瀬多に着けようか、唐崎に着けようか、その目的の港が分らない。そしてとんでもない危い港に、船を着けようとしてゐるのが、現代の日本であり、又世界の議會政治である。その危険なる港とは何かと言へば、共產政治である。

元來議會政治は個人主義の上に建てられてゐると言はれてをる。個人主義も、カントや福澤翁の個人主義なら結構である。何となればそこには權利が教へられると共に、義務が説かれてゐる。利益が教へられると共に、道德が説かれてをる。カントは自己の人格を尊重するのみならず、他人の人格をも尊重せよと説いた。福澤翁は自己の獨立自尊を尊ぶと共に、他人の獨立自尊を尊べと説いた。これならば個人を尊重すると共に、國家を尊重することになり、人類を尊重することにもなる。然るに不幸にして、最近はその個人主義が墮落して利己主義といふものになつた。そしてその原因とするところは唯物主義の結果である。

マルクスと云ふ男はこの議會主義の弱點を知つてゐた。デモクラシーは數の政治であり、多

數決の政治である。そして勞働者は資本家より常に多數である。だから勞資兩階級を闘はせれば、勝利は必ず勞働者に歸して、世界は共產主義になる。そこで問題は、その階級闘争を起さねばならぬが、これが爲めには勞働者を利己主義にする必要がある。勞働者を利己主義にするために最も有效な方法は、彼等に唯物主義を教へるにかぎる。

元來唯物論と言ふものは、人間を物質の變形と考へ、猿や、犬の親族と考へる事である。從てその道德觀も猿や犬の道德觀になる。犬の道德觀は何か。パンをやれば寄つてくる。棒を握り上げると逃げる。彼等にとつては、快樂は善にして苦痛は惡なりといふことである。これがすべての唯物主義者の道德觀である。

近世唯物主義者の父と言はれる英のホッブス(Hobbes 十七世紀)は「人は快樂を愛し、苦痛を惡む。その愛するところの快樂は善にして、惡む所の苦痛は惡である。この善を欲し惡を嫌ふことは、水の低きにつく如く必然的である。必然的なものは合理的であり、合理的なものは正しくして正當である。從て我等は快樂を求め、苦痛を避けるの權利がある。」と言つてゐる。これは十八世紀のフランスの唯物主義者でも、十九世紀のドイツの唯物主義者でも變り

がない。此の如く善とは快樂にして、惡とは苦痛なりといふ學說を功利主義とも云ひ、又利己主義とも云ふ。

マルクスはこれと同一の道德觀をもつてをる。即ち彼の唯物史觀なるものは、要するに資本家も、勞働者も、各々その利益を求めて、一步も譲らないといふ人生觀から出發して、こゝに階級闘争の學說を主張し、共產黨宣言の冒頭に、「すべて從來の社會の歴史は階級闘争の歴史である」と言つてゐる。そして彼はこの利己主義なる勞働者を國際的に結合せしめ、「萬國の無產者よ、團結せよ」と言ふ言葉を以てその共產黨宣言を結んでゐる。つまりマルクスは勞働者に教へて、只その賃銀を増すこと、勞働條件を改造することを以て、唯一の目的となさしめ、それがために産業が衰へようが、國家が亡びようが、眼中におく必要がないと説いたのである。かうした唯物主義を以て勞働者に利己主義を教へる當然の結果として、勞働者は益々その多數を恃んで、資本家に突き當り、遂に少數の資本家を、多數の力を以て壓倒する。そうして出来るものは勞働者の政府即ち共產政治である。だから議會政治に唯物主義を教ふれば、その當然の結果として共產政治になるべき筈である。我等はこれを方程式を以て、云ひ現はすことが

出来る。

羅曼羅蘭の「社會主義」論

かくして議會政治は數學の方程式の正確さを以て、どん／＼共產政治の方に進みつゝあつたといふ事が、最近ヨーロッパの形勢であつた。この大勢を早くも感知して、こゝでこの勢を防がなければ人類の文明も、國家の運命も、もはや終りであると考へたのが、ファツシヨの運動を起した伊太利のムツソリーである。そしてファツシヨは人類のこの迷路に迷ひ入らんとする危機を救つて、國家とは何ぞやと言ふ問題を掲げ、眞の國家の目的を示して之を忘れんとして居る議會政治の國々に示したのである。それが彼の文明的一大鴻業である。

二 フルジヨアの時代から無産者の時代に

これは理論の上からファツシヨの起源を説明したのであるが、更にこれを事實の上から考へて見ると、やはり同じ様な結論に達する。歐洲は世界大戰を一期として、その前と後とでは、非常な相違がある。相違があつただけではなく、形勢が全く一變した。世界大戰前に於ては、

歐洲は資本家全盛の時代だつた。然るに大戰後に於ては、勞働者全盛の時代となつた。

大戰前は何が故に資本家全盛であつたかと言へば、それは金がうなつてをつたからである。

ヨーロッパの金なるものは何處から出て來たか。それは東洋人を搾取して得たものである。世界の人口が二十億あつて、その半分の十億は極東にある。日本、朝鮮の一億、支那の四億、印度の三億五千萬、その他シベリヤや南洋を合せて、大體十億である。この十億の人類は半文明的であつて、生産者としては未だその偉力を發揮しないが、消費者としては、此の上ない歐洲産業の顧客であつた。従て英、獨、佛その他の國々は皆東洋人の消費力を食ひものにして盛んに金を儲け、それで贅澤をしてゐたのである。パリやベルリンの豪華な生活は何處からその金が來たかと言へば、皆東洋人の懷からである。東洋人は一步文明に起ち遅れたがために、さんさんに彼等の食ひものにされたのである。所が世界大戰に於て歐洲が戦争にかまけてゐる最中に、日本人と米國人が、その顧客を取つてしまつた。軍需品工業のために歐洲はその生産力を十倍化して、盛に品物を作つて見たが、さて東洋はこれを買つてくれない。さうかと云つて米國や日本の品物も歐洲品の競争によつて儲けが少くなつた。そこに世界の生産過剩の原因が

あり、そこに世界の不景氣の原因がある。

だから世界大戰前の歐洲の景氣と云ふのは大したものであつた。到る處に金がうなつてゐた。そしてそれが我々東洋人が、提供したものだと思へると癪に觸る。先づその一例を物語らう。フランスの南部に、コート・ダ・ジュール、(Côte d'Azur) 譯せば「瑠璃の濱邊」と言ふ所がある。それはマルセイユから伊太利境迄、弓なりになつた五十里の地中海の沿岸である。こゝは地上の天國とも言ふべき非常に景色のいゝ所で、然も冬中雨の降らない暖い所である關係から、世界の避寒地となつてゐる。アルプスの連峰が北方に連つて、北風を防ぐ屏風となり氣候が何時も小春日和で緑の椰子の葉が青空に繁り、黄金色のミモザの花が道の邊に咲き亂れ、地中海は紺碧の色に輝いて、五十里の海岸、白砂青松、長汀曲浦の美を極め、正に地上の天國と云ふ名に背かない。私はその中心地である、ニースの町の丘に登つて、この大觀を眺めた事がある。雪に被はれたアルプス山の白壁を展べた姿、空も海も藍色を湛へて、靜かに輝いてをる地中海、緑の松と共に涯しもない汀に碎ける波の白い曲線、その間に白壁粉壁燦然として聳えてゐるニースの町、すべては平和と光榮に輝いた人類歡樂境の姿であつた。

此のニースの町にはいつて、有名なカチノのカフェを覗く。そこには丸い大きなホールが出来てゐて、二萬人の人が小さな丸いテーブルを前に、一杯のカフェを半日がかりでチビリ／＼飲んで腰かけてゐる。彼等是一日そこに坐して何にもしない。彼等に對して、人生の目的は何ぞと問ふたなら、何にもしない事にあると答へるだらう。さうしたカフェがもう一つ海の真中の突き出しの上にある。そこにはレヴューもダンスもすべての享樂の道具が備つてゐる。此等の人々は抑々何處から來たのであるか。それは世界中から集つたのである。フランスやドイツやロシアやイギリスの金持といふ金持は申すに及ばず、北アメリカの鋼鐵王、南アメリカのコーヒ王迄、すべて世界の富豪は毎年暮の十月から翌年の四月迄をシーズンとして、そこに集つて來る。その數實に二千萬と言はれる。従てその地方一帯はマルセイユから伊太利ゼノア迄の海岸は悉く數寄を盡した別荘の連續である。

ニースの町の東八里に、モナコといふ所がある。一名モンテカルロと言ふ。それは地中海の海岸、アルプスの岩石が海に迫つて、最も狹隘な地勢をなしてゐる。そこに一ヶ村位の小さな獨立國がある。これをモナコの公國といふ。それはフランスの國土に圍まれてゐるのである。

この獨立國の不思議とする所はその國の小さい割合に有名な富國であるといふ事である。然も人民から一文も税金をとりたてない。然らばその富の原因は何處にあるかと言へば、その國は賭博の親元をして立つてゐるのである。その町にカチノといふクラブがある。金銀珠玉を鑲めめた海岸に聳え立つ一大殿堂である。その中に百臺からの賭博臺が並べてある。そしてその賭博臺のぐりりには各々五十人からの人がたかつかつてゐる。政府の役人が一臺に三人位づゝ立合つて、金を賭けさせる。政府は親元である。はる者は最低五フラン（當時二圓）から最高二百萬フランである。だから千フランはるものもあれば、一萬フランはるものもある。これに對抗するため政府はその博打臺に十萬フランからの金貨を積上げてある。山吹色の光が極めて食欲的である。それが百臺のどのテーブルにも十萬フラン位づゝ積上げてある。時々喝采が起る。何かと思つて行つて見ると、バンク・エ・ソーテ（銀行が破産した）といふのである。即ち政府が負けて全部現場にある金をとられたのである。然しそれは例外の場合である。多くの場合に於ては客の方が金をとられる。一千フラン、二千フランは何でもないが、時として百萬フランに及ぶ事がある。さうすると客はピストルをポケットから出して、額（ツツ）へ一發ズドンとやる。

もの慣れた官吏達はバラ／＼と駆け寄つて床板を剥がして、死骸を縁の下におろす。勝負は又

もの慣れた官吏達はバラ／＼と駆け寄つて床板を剥がして、死骸を縁の下におろす。勝負は又平氣で続けられる。その町の一隅に「身投げの鐵橋」といふのがある。だから役人はだん／＼負けて行く客を見ると、その傍へよつて來て、「あなたのお國はどちらですか」と聞く。ドイツだイギリスだと答へれば「旅費を差上げますから、どうぞおひきとり下さい」と言ふ。それは自殺を恐れるからである。

かうした光景は、如何に——戦前の歐洲に金がうなつて居たかを物語るものである。そしてその金は我々東洋人が提供したのだと思ふと癢に觸る。所が戦後再びそこへ行つて覗いて見ると、その山吹色の金貨は幻の如く消え失せて、手垢のついた紙幣がこれに代つてをる。金貨は皆アメリカにふつ飛んだのである。

この變化は同時に歐洲の政治の變化を物語る。戦前勢の盛だつた資本家は屏息して、労働者がのさばり出した。到る處に労働黨が政治を執つてその權力を振ふことになつた。そしてその原因はと言へば、極めて簡單である。それは世界大戰は資本家とその製品の販路を爭ふために起したものであるが、その戦争で血を流した者の多數は労働者であつたといふことである。そ

こで歐洲政界に一大波瀾が起つた。その波瀾の最大なるものはロシア革命である。今日歐洲が何のために苦しんでゐるかと言へば、その原因は二つ。一つは世界大戰であり、他の一つはロシアの共產政治である。前者は資本家の利己主義から起り、後者は労働者の利己主義から起つた。

三 階級的利己主義の彈壓

かうした形勢は戰後全く一變するに到つた。戰爭前に於ては資本家が全盛を極めたに反して、戰後は却つて労働者が全盛を極める様になつた。それは世界大戰に於て血を流したものの多數が労働者であり、而もそれが資本家の利益のために血を流したからである。即ち彼等の信念に依れば、労働者は平常資本家のために搾取された上に、更に資本家のために血迄流さねばならぬ事になつた。

殊にロシアに於ては此の狀勢が甚しかつた。戰前のロシア國民は横暴なる貴族の利己主義のために苦しんだ。ロシアの貴族の横暴は日本人の想像以上である。彼等は一人にして日本國位

の土地を所有して居た。或は日本の三四倍もある土地を一人で持つて居たとも云はれる。世界

の土地を所有して居た。或は日本の三四倍もある土地を一人で持つて居たとも云はれる。世界の六分の一を占めてゐるロシアのことであるから、それはさまで怪しむに足らない。何が故にかゝる大地主が出来たかと云へば、それは日本の貴族に比してロシアの貴族が横暴であつたからである。維新の改革當時に於ける日本の大名は、政治を明治政府に奉還したのみならず、更にその土地を百姓にかへした。そしてその代償としては單に金録公債と稱する僅かの公債證書をもらつただけである。所がロシアの大名は封建制度の凋落と共に、政治はこれをロシアの皇帝に還へしたけれど、自分の領土全部を自分の私有地とした。そしてその百姓は農奴（セルフ）と言ふものになつた。その農奴といふのは土地に付着したる奴隸であつて、土地が賣られると共に彼等農奴も亦之れと共に賣られた。彼等は土地から離れて職業を選択する自由がない。その上に一週間に四日、五日といふ貴族の土地を無料で耕やす義務を持つてゐる。私は嘗つて露國大使故本野一郎子爵と共に、ロシアの田舎に狩に行つた事がある。そしてその百姓は貴族のために如何に搾取されてゐるかを見た。彼等は黒パンを喰べて、寢臺も持たず、藁の中に、着み着のまゝで寝るべくよぎなくされた。彼等は踏んだり蹴たりして酷使された。そして貴族は

驚くべき豪奢な生活をして居た。彼等がパリ一邊に遊びに來ると、千ルーブルの札を卷煙草に吹いて、勞働者の汗を煙にして了つた。フランスにリヤーン・ド・ブジーと云ふ美人があつて、ロシヤの貴族に氣に入つてモスコゝに連れられて行つた。彼女は絶世の美人である。彼女は貴族に乞ふて百萬フランの眞珠の頸飾を買ふ事を許された。そこですぐパリーの寶石商を電報を以て呼び寄せた。そして彼女はその眞珠を買はずに、八十萬フランを自分の分として懷に入れた、二十萬フランを寶石商にコミツションとして渡して、貴族には十フランか二十フランの偽せ物を見せて、體裁をゴマかしたといふ話を聞いてゐる。これがロシヤの貴族である。佛のサンデカリズムの哲學者、ジオルヂユ・ソレルは「革命とは何かと言へば、要するに社會の無益にして有害なる分子を社會外に葬むることである」と言つたさうだが、ロシヤの貴族は單に社會に無益であつたのみならず、實に有害であつたのである。従て革命は當然來らねばならぬ勢であつた。

かくの如くにして、當然來たるべき勞働者の擡頭は先づロシヤから始まつた。然も世界大戰最中の一九一七年に勃發した。それが共產革命である。そしてそれは資本家の利己主義に對す

る労働者の利己主義の爆發である。即ち世界大戰に於てロシヤの兵士が悉く獨逸方面に出動したる隙を狙つて、労働者農民が蜂起した。それは明らかに無産者の利己主義の爆發に過ぎない。その證據とする所は、レーニンが人民を誘惑したるスローガンによつて分かる。所謂ケレンスキの二月革命なるものは人民を満足させる事が出来なかつた。そこでレーニンは三つの利己主義を以て彼等を誘惑した。第一に我、汝等に平和を與へん。第二は我、汝等に土地を與へん。第三に我、汝等にパンを與へんと云ふことである。平和には高尚な意味もあり得るだらう。キリスト教の平和、佛教の平和はその例である。然しその當時に於てレーニンの與へんとした平和は極めて物質的な、下劣な、利己主義な平和だつた。即ち其の當時ロシヤはドイツと戦つて、連戦連敗到底勝味がなかつた。戦争には飽きた。命は惜しい。國が亡びてもかまはぬ。かうした動機での平和は動物の平和であり、物質主義の平和であり、マルクス主義の平和である。從てロシヤの共產主義はその本質に於て利己主義であるといふ事は明白であつて、その共產主義が却つて國家を滅亡に導き、文明を破壊に導き、その結果ロシヤの人民を非常なる不幸に導きつゝあるといふ事は當然の歸結と云はなければならぬ。

此の共產主義が西ヨーロッパに飛火した。そしてそれはイタリアであつた。こゝにも、戦後に於ける勞働者の利己主義が爆發したのである。元來イタリアの社會主義者は、世界大戰の際イタリアの參戰に反對したのである。然るにムツソリー一派の愛國主義者は考へた。獨逸兩國の勝利は、若しイタリアが參戰しなかつた場合、三國同盟の責任を果さなかつたといふ口實の下に、戦後獨逸が必ずイタリアの土地を要求するに相違ない、従て聯合國に加擔して獨逸を倒し、アドリアチック海沿岸の覇權を握るのが如何にしてもイタリアのために必要である。かうした見地から、イタリアはどうく聯合國に組して戦つた。その犠牲は大きかつた。八十萬の青年を殺し、非常な借財をした。そしてヴェルサイユ條約で戦後得た所のものは甚だ輕少なものであつて、ドイツの植民地は皆イギリスやフランスのために取られて了つた。イタリアの國民は絶望した。此の南歐熱血の民族は熱狂すると猛烈に興奮する代りに、失望すると絶望のドン底に陥ちる。そして戦後此の失望の時代が來た。幻滅の時代が來た。此の機會を捕へて起ち上がったのが即ち社會主義者である。

一九一八年、世界大戰の終結を告げたその翌年に於けるイタリアの状態は慘憺たるものであ

つた。即ち戰前の社會主義者は一變して共產主義者となつた。彼等はロシヤ萬歳、レーニン萬歳を叫んで、暴力によつてイタリアを共產化せんとした。そして一部は實に之を實行したのである。或朝イタリアの全部の都會に對して、共產黨本部から命令が下つた。勞働者の委員會が組織せられ、工場を占領し、雇主を逐ひ出し、技師を放逐し、そしてそれを無產者の所有と宣言した。同時に農村に於ては、殊に大地主の多い南部イタリアに於ては、人民の迷信的なのを利用して、土地分配の聖人セント・レーニンの像を百姓に分配し、僧侶は彼等に家屋や田畑を占領する事を命じた。共產黨の農業組合は、貧民の間に土地を分配し、ソヴェット共和國の名に於て、新たな所有權を與へた。

都會に於ては各工場にストライキが起り、政府の無力につけ込んで、各工場は占領せられ、私の訪問して來た有名なトリノの世界的自動車會社フィヤットの如きは、一週間も赤旗が其の屋上に翻がへつたと言ふ。只彼等共產主義者はその勝利の餘りに容易であつたが爲に却つて失敗した。即ち彼等は所有者を追拂ひ、企業家を放逐し、技師を追出したのはよかつたが、此技師を追ひ出した結果は、その工場を運轉するに際して、その生産方法を教へて呉れる者のない

爲めに困つた。それには金も要り、原料も要る。現場にあつたものはたちまち使ひ果した。彼等は技師が持つてゐるだけの知識がない。そこで労働者は腕を拱いて命令の下るのを待つてゐるだけで、さてその命令する所の技師や企業家がない。さうかと言つて彼等に相談をもちかけるのは自分等の無力を白白し、失敗を物語るだけである。無論ブルジョアはその申出を拒絶し、消極的抵抗を實行した。そこでお極りの飢饉が始まつた。肉も果物も野菜もない。恐怖が民衆の間に漲り始めた。労働者は罪をブルジョアに歸して大虐殺が始まらんとした。然し人は本當の貧民でない限りは皆逃げて姿を隠した。

その際に當つてムツソリニーが登場した。彼は未だ大衆からは知られなかつた。只彼は新聞記者であり、社會主義者であり、猛烈な參戰論者であつた。戰場に於ては四十二ヶ所の手傷を負ふた愛國者であつた。頭腦明晰な現實的な彼はその政治家に獨特な鋭い直覺力を以て、祖國は今や底知れぬ淵に滑り込みつゝあることを見てとつた。彼はイタリアが苦痛のドン底に落ち、絶望の眼を以て保護者を求め搜してゐる事を知つた。

彼はイタリア中の出征者に武器を持つて立上るべく命じた。イタリアの秩序を守り、人民の

生命財産を保護するために彼等に總動員を命じた。新しい軍隊が彼の聲に應じて立ち、彼の周圍に集つた。それはイタリーの中産階級の人々であり、殊にその青年であつた。數週間にして愛國的な出征者等は若き青年隊を導いて、全イタリーに秩序を立てた。無限の喜びと慰安と感謝とが潮の如く湧き起つた。始めて國民に一道の希望の光が生れ出た。嬉ばしき信念の氣分が全イタリーに流れた。昨日迄共產黨の難題や暴力や總べての侮辱を諦を以て忍んで來た人々に、たちまちにして一種の勇氣が念頭に浮び出るのを感じた。昨日の悲哀者が頭を撞げて受けた打撃をその暴行者に復讐し始めたのである。

従てムツソリニーのファツシヨ運動なるものは、全く出征者の憤から起つたものである。之を單なるムツソリニーといふ個人の仕事と思つてはならぬ。これを單なる野心家のクーデターと思つてはならぬ。それは共產主義者の利己主義に對する國民の自衛運動に過ぎない。従てファツシヨの第一の行動は、無産主義者に對する利己主義彈壓の形をとつたのは當然と言はなければならぬ。

かうした無産階級の利己主義は更に財政の上にも現はれた。それは世界大戰の進行中に於て

は、イタリーは無産階級の生活を保證するといふ意味に於て、勞働者に對して食料の無料配給といふ政策を行つた。この制度は戦争が終はると共に、當然廢止せらるべきものであつた。然るにその當時の無氣力なる民主主義の政府は勞働者の勢に恐れて、之れを廢止することが出来なかつた。それが爲に、イタリーの豫算の缺損は毎年三百億リラー即ち我が三十億圓に達したと言ふ。そしてその赤字が四年間續いた。若しそのまゝで進んだなら、イタリーは到底破産を免れなかつた。從てムツソリーは國家に一大改革の必要な事を悟つた。此の改革を實行するためには、自ら政權を取らねばならぬ。此の政權を取るためにはローマに進出せねばならぬ。かうした必要から彼は一九二二年十月二十九日、ローマに進軍してこゝにフアツシヨの獨裁政治を始める事となつた。そして先づ彼が執つた第一の政策は、勞働者に對する食料の無料配給の廢止である。此の一決斷によつて、イタリーの赤字はたちまち無くなつたばかりでなく、更に剩餘金が出るに到つた。從つてフアツシヨの第一の仕事は、かうした無産階級に對する、利己主義の彈壓である。

所が最近イタリーにも不景氣の風が訪れて、失業が續出することになつた。さうするとムツ

ソリニーは從來の方針を變へて資本家の利己主義の彈壓を始めた。即ち資本家に必要以上の労働者を使用せしめようと言ふのである。「お前の所では五百人の労働者を使へ」、「私の所では三百人しか必要がございません」「然しどうしても五百人使はねば困る」「さうたつて仰るなら、私は工場の戸を閉めます」「さうか、お前は工場の戸を閉めるか、お前の工場の戸を閉める時は、牢屋の戸の開く時だぞ」と。かくして資本家もとう／＼屈服する事になつた。

だからファツショと言ふものは、何の爲に起つたかと言ふ事が明白になる。即ち勞資兩階級の利己主義を彈壓して國家の滅亡を防がうといふのである。一方に於ては資本主義の缺點即ち資本家の横暴を彈壓してその害惡から國家を救はんとし、他の一方に於ては、無産階級の利己主義の現はれる共産主義の運動を彈壓して、國家の滅亡と文明の潰滅を防がんとする。此れがファツショの目的であつて、勞資の階級的我儘を抑へて、國民全體の利益を計らんとするものである。そこにムツソリニーの獨創がある。

第二章 全體主義と多數主義の對立

一 ファツシヨの定義

以上説く所の如き原因からファツシヨが発生して、階級的利己主義の彈壓を其の目的とし、こゝに國民全體の利益を、資本家階級の利益よりも、又勞働者階級の利益よりも重要なものと考へる思想が、ファツシヨの本質であるとするならば、そこに當然新しき經濟原則が生れねばならぬ。果してムツソリニーは一九二七年に「勞働憲章」と稱する三十ヶ條から成る一種のファツシヨ憲法を公布したのである。資本主義の改定といふ事がその主要な眼目となつてをる。一九二八年五月六日ムツソリーはローマに於て、此の法の精神を説明し、叫んで云ふ。「常に精神は大事件の挺である。若し其處に道德的熱狂と情熱と忠誠と理性が働かなければ何事もなすことが出来ない。大計畫とか大草案とか法律とか云ふものも、そこに理想の強き嵐がこれを鼓吹するの でなければ、一つの死文字に終はるであらう。」

斯の如きムツソリニーが精神をこめた勞働憲章は如何なるものであるか。第一條に先づ國民至上主義が宣言されてをる。「伊太利國民は一個の有機體にして、それを組成する個々人又は團體の持つものよりも、力と繼續期に於て更に優越せる生活目的と行動方法とを所有するものである。國民は一箇の道德的、政治的及び經濟的統一體にして、綜合的にファツシスト國家を具現するものである。」

此の宣言は如何なる個人よりも、如何なる團體よりも、イタリー國民が優越せることを説くものであつて、從來の個人を以て國家よりも大切なりと説く所のデモクラシーや、一階級を以て國民全體よりも大切なりと説く所のマルクス主義に反對するものである。即ち如何なる個人と雖も國民の一部分に過ぎず、その個人から成立する如何なる部分的團體でも、國民の一部分に過ぎない。要するにファツシヨ國家は、從來動ともすると、國民全體に對して反抗しがちであつた個人や團體が、國民全體の前にはその利益を譲らなければならぬと言ふことを規定したものである。

更に勞働憲章は進んで生産の目的を説いてをる。從來資本主義の解釋に依れば、生産は生産

者だけの利福のためであつた。生産者とは資本家と労働者を含む。従て産業は資本家が金儲のためであり、又労働者が賃銀を得るためである。然るにフアツシヨは其等の資本家、労働者の利福以外に、更に國民全體の利福といふことが産業の目的であるといふことを説いてをる。其第二條に曰く。「労働は、智腦的、技術的、又は筋肉的等のそのすべての形態に於て一個の社會的義務である。此理由に於てのみ労働は社會によつて保證される。國民的觀點から考察するならば、生産の複雑な形態は一個の統一體をなして、その生産の目的は生産者の福利として及び國民の力の發達として、一に歸するものである。」

此の條文の中には生産者の福利と國民の力の發達とが併行して記載せられる様であるが、第一條が既に、イタリー國民といふ一個の有機體が個人よりも團體よりも優越せる一つの存在である以上、當然生産者の利福は國民全體の利福よりも下にあらねばならぬ譯である。つまり労働及び、其の結果である所の生産なるものは、資本主義の社會に於ける如く私の性質を失つて、或公の性質をもつものとなる。産業はもはや個人の私的事業ではなくして、國民全體の富を増す爲めの公的手段となつたのである。それは「労働は一個の社會的義務である」と宣言す

る所以である。

要するにムツソリニーの宣言する所は、資本家とか労働者とか云ふ社會の一部の利益よりも、國民全體の利益の方が更に優越せるものであつて、前者は後者に一步を譲らねばならぬといふ事がファツシヨの精神である。その當然の結果として、此の労働者も資本家も國家産業の構成部分であつて、從て此の兩者は互に協力せねばならぬものである。だからファツシヨの當然の結果として來たるものは、マルクスの説く所の階級闘争は終を告げて、こゝに階級調和の時代が來なければならぬといふことである。これがファツシヨの精神であつて、マルクスの理論が到る處に排斥せられ、世界が漸く人類全體の觀念に歸着したのはこのためである。

私はドイツに行つて有名な經濟學者ゾンバルトに面會した。私は彼に「ファツシヨとは何か」といふ問題を提出した。彼は之に對して面白い説明を與へた。「十九世紀は經濟の時代であつた。從て資本家も労働者も、各々經濟的利益を重んじ、こゝに勞資の争即ち階級闘争が生れた。然るに二十世紀は政治の時代である。從て政治が經濟を統制して、資本主義は統制經濟の時代となり、こゝに階級調和の時代となつたのである」と。

此の説明も亦ムツソリニーと同一義であつて、勞資兩階級は政治の力、即ち國家の力によつて、其の利己主義を國民全體のために犠牲にせねばならぬ事を説くものである。

二 英國を亡ぼさんとした多數主義

かうしたイタリーに發生したる政治論を以て全體主義と呼ぶ。此の全體主義はデモクラシーの多數主義に對して、起つたものである。英國の思想家ベンザムはデモクラシーの理論を説いて「政治の目的は最大多數の最大幸福に在り」と言つた。成程政治は凡べての人の満足をかふ事は出来ない。従てせめて多數の者の満足をかふために、最大多數者の最大利益を計るといふ事が常識としては最も正しい様に聞える。實際上この常識論が十九世紀全體を支配して、政黨政治は只多數の賛成を得て、その多數者の利益を計ることゝなつた。是が政黨政治である。マルクスは此の理論を社會問題に利用して、社會の最大多數者たる勞働者の利益を計る事が政治の目的であると説いたのである。此の多數主義は二十世紀に到つて遂に行詰に達したのである。そしてこれに對して起つたものがフアツシヨの全體主義である。

そして此のデモクラシーの多數主義、マルクスの多數主義の行詰を最も的確に示したものは、私の旅行中に於て起つた所の英國のボンド下落の一場面であつた。斯の如き事件に遭遇したといふことは私にとつても、日本の國家にとつても、一つの天佑であつたと思ふ。此の事件程勞働者の利己主義が國を亡ぼすものだといふことを最も的確に物語つたものはないからである。

私は一九三一年九月の末イタリーを立つてフランスに行かうとした。そのために銀行に行つて金を受け取ろうとした。日本を立つ時には、ヨーロッパへは英貨ボンドで金を持つて行くのが一番安全であると正金銀行では忠告してくれた。それはボンドは信用が厚くて相場の下る心配が絶対にないからである。而るに意外にも此の英貨が私が銀行に行つた日にガラ落ちを始めた。私は懷をしらべて見ると一日に九百圓の金が煙の如く飛んでをる。私は無論ビツクリした。然るにフランスに行つて見ると、日本の正金銀行の支店長が一日に三十萬圓損して、それがため鹹になつてゐる。私が驚いただけでなく、確かに世界が驚いた。昔に世界が驚いただけではなく、英國人自らが驚いてゐる事が明らかにされた。

私はベルリンに於て日本の小幡大使に屢々招かれたことがあつた。或時大使から「ロンドンの松平大使が遊びにお出でになつたから是非話に來い」と云ふことであつた。松平大使から種々面白い話を聞いたが、その中最も私に興味を與へたものは、シドニー・ウエツプの述懐談である。ウエツプは有名な社會主義の學會フェビアン・ソサイエティの創立者で、勞働黨内閣の一閣員であつた。彼は嘆息して、「折角の事で勞働黨の内閣が出来たのだから、勞働者の賃銀を増し、失業手當を増したのである。然るに何んぞ計らん。かくの如きボンド慘落といふ災厄が降つて湧いたとは誠に以て意外である」と言つたさうである。

然しながらよく考へれば意外な事はない筈である。無暗矢鱈に勞働者の賃銀を上げば生産費は嵩むから、物價は騰り、物價が騰れば外國人は物を買ひに來ないから輸出は減つて輸入は増加する。そこに貿易は逆調になつて、國家の經濟力は弱はる。それは明白な道理である。

最もよい例は綿絲である。英國綿絲は嘗つて世界の到る處に獨占的な勢を以て賣り弘められたのである。私の若い時分には、支那の綿絲は英國品だけで、日本品は齒がたゝなかつたのである。然るに今日は日本綿絲が英國綿絲を支那から驅逐したゞけではない。英國の植民地印度

ある。然るに今日は日本綿絲が英國綿絲を支那から驅逐したわけではない。英國の植民地印度でも日本品が英國品を驅逐し、更に進んで同じく英國の植民地埃及に於いても、綿はたくさん出来るにも拘はらず、綿絲は悉く日本品であると言ふ。更に日本綿絲は英國に迄侵入して、英國紡績の中心地マンチエスターの紡績職工は日本のメリヤスのシャツを着て働いてをるといふ有様である。

何が故に英國紡績が日本紡績のために侵略されたか。それは只労働者の我儘だけがその原因である。英國には労働組合といふものがあつて、盛んな時には八百萬人の組合員を算した。そして一九二六年には總同盟罷業迄起して英國政府を困らした。今日に於ては此の組合員は三百五十萬に減じてゐるけれども、その勢は常に強い。その組合の命令する所に依れば、紡績職工は二臺の機械を使ふ事が出来ても、一臺しか使つてはならぬ。又夜間労働は絶対に禁止であるといふのだから、工場は八時間で火を消さねばならぬ譯である。かう云ふ状態で英國綿絲が外國と競争しても、負けるのが當り前である。まして日本の娘子軍から出来てをる紡績職工に對抗することは不可能である。日本の外國貿易の最高を占めてゐる生絲でも、綿絲でも茶でも皆女の手によつて作られてゐるといふ事は不思議である。つまり賃銀の安い者が貿易上に於け

最後の勝利を占めるものであらねばならぬ。そこで國際勞働會議などでは、日本の産業をソーシアル・ダンピング即ち「勞働投げ賣り」といふ名前を以て呼んでゐる次第である。つまり英國の産業が萎縮したといふことは勞働者の利己主義の結果で、日本の産業の勃興して行くのは、勞働者が利己主義でないからである。

又英國に於ては失業保險といふ制度がある。此の制度は勞働者が職を失ふと、毎月五十圓の月給を貰つて、遊んで食つてをるといふことになる。従て勞働者は失業するとテームス河で釣をしたり、内職したりして居る。佛國の經濟學者、ジグフリードは「二十世紀に於ける英國の危機」といふ書物を書いて、このまゝで行けば英國の經濟、産業は衰亡に終はると豫言してゐる。實際上英國の資本家も勞働者も、只少く働いて多く儲けることだけを考へてゐる。ロンドンのウィークエンド即ち週末の休暇は土曜、日曜、月曜の三日を含んで、事業家は夫れ郊外の別荘へ行つて遊んでゐる。従つて一週間に働くのは僅かに四日間で、而も毎日の執務時間も午前十時に出て、十二時から二時迄食事を取り、午睡をし、二時頃から六時頃迄動くのが普通の習慣である。勞働者も亦これに倣つて働かずに食はうとする。失業すると大喜びで、就業す

の習慣である。勞働者も亦これに倣つて働かずには食はうとする。失業すると大嬉びで、就業す

ると苦い顔する。その失業者が二百五十萬あつて、一ヶ月につき五十圓の月給を貰つて、遊んで食べて居るのであるから、どんな國家でも立ち行く筈のものではない。

差し當り英國の豫算は赤字になり、マクドナルド首相は始めはフランスから金を借りて其の缺損を補つたが、二回目の赤字にはフランスも、もう金を貸さない。そこで英國の信用がグラツキだした。英蘭銀行には各國が金貨を預け入れてゐたのが、第一に先づ和蘭がその金貨を引出し、デーンマークがこれにつき、スエーデン、ノールウエーがこれに倣ふといふ次第で、英國の金貨流出が非常に甚だしくなつた。マクドナルド首相は金の輸出禁止といふ法律を出してこれを防がうとしたが、時既に遅く、英國の信用が減じてポンドのガラ落が始まつたのである。

だから英國ポンドの慘落の原因は全く勞働者の我儘利己主義の結果である。勞働者は社會に於て非常に大切なものである。その大切な理由は數が多いからである。その多數の勞働者が勤勉であるのと我儘であるのとは非常な差違を生ずる。我國の勞働者の如きは、小學校に於て忠君愛國の教育を受け、社會に出でゝ浪花節を聞き、講談本を読み、芝居を見、所謂義務主

義の教育を受けてをるから今日の如く兵隊としても強く、勞働者としても勤勉である。これが今日日本の産業が世界を征服せんとしつゝある原因である。所がこゝに勞働ブローカーと稱するマルクス主義者がはいつて來て、勞働者に利己主義を教へ、英國流の懶惰と我儘を教へる。幸にして今日は滿洲事件で此等左翼主義者が氣がついたからよかつたが、若し三四年前のマルクス全盛で進んで行つたなら、日本も英國の狀態だけではなく、更にロシヤの如き饑饉に陥つたかもしれない。

そこでさすがに英國の首相マクドナルドは自分の政策の過つてゐたのに氣がついた。日本の政治家ならば、そこで内閣を投げ出すのが普通であるが、彼マクドナルドは自分の責任を痛感し、英國をこの亡國的危機から救ひ出さねばならんと考へた。即ち反對黨の保守黨、自由黨に渡をつけて、國民内閣なるものを組織した。所謂學國一致内閣である。この内閣の當然の政策としてとるべきものは只勞働者に犠牲を要求する政策の外はない。即ち賃銀を引き下げ、失業手當を減することである。この政策に對してはヘンダーソン一派の勞働組合派の諸大臣が反對した。英國の勞働組合は二百年の傳統を持つてをる。即ち勞働者の利益を保護するために存在

した。英國の勞働組合は二百年の傳統を持つてをる。即ち勞働者の利益を保護するために存在するものである。若し斯の如き犠牲を勞働者に要求するならば、これ勞働組合の精神に反するものであり、殊に英國國民の九割二分が商工の民であり、勞働者である結果から見て、斯の如き政策をとる内閣は必ず選舉に於て失敗するであらうといふ意見を持して内閣を辭職することとなつた。

これに對してマクドナルドは反對の意見を持した。英國勞働者は愛國的である。若し國家の存在が危いといふことであるならば、常に自分の利益を犠牲にすることを知つてをる。そこで勞働組合派の意見が正しいか、自分の意見が正しいか、その曲直を判斷させるために、一九三一年十月に議會を解散して國民の輿論を問ふた。然るにその選舉の結果は意外であつた。マクドナルド内閣は未だ嘗つて得たことのない大多數を得たのである。即ち英國勞働者は若し國家が危いといふことであるならば、我々の賃銀を減じてよい。我々の失業手當を引き下げてよいといふのである。殊に世界を驚かしたのは、イースト・ロンドンの貧民窟の人々が悉く投票を保守黨に集めたことである。

三 多數主義から全體主義へ

英國民は偉大なる國民である。彼等は理性に富み、愛國心が強い。公の爲に私情を犠牲にすることを知つてをる。十八世紀にフランスのヴォルテールが英國に遊んで嘆じて云つた。「英國の一番下等なものの政治論はフランスの一番上等な者の政治論より更に優秀である」と。此の事實は二百年後の今日に於てやはり變りがない。殊に私の敬服する所は彼等の政治常識である。彼等は何が自分の利益であるかといふ事を知つてをる。即ち全體が榮えれば自分も亦その幸福を受けるといふこと之れである。英國が繁榮すれば、勞働階級も亦幸福になるといふこと之れである、これがマルクスと反對の意見である。マルクスに従へば勞働者の懷がよくなるといふ事が何よりも大切である。賃銀が上るといふことが何よりも大切である。それが爲に産業が亡びようが、國家が滅亡しようが、それは眼中にないといふのである。英國民が「先づ全體を盛んにせよ。然らば部分も亦其利益をうけるであらう」といふのに反して、マルクスは「先づ部分を盛んにせよ。全體はどうなつてもいい」といふのである。これが全體主義と多數主義

づ部分を盛んにせよ。全體はどうなつてもいい」といふのである。これが全體主義と多數主義との相違である。

元來勞働者といふものは一つの國家にとつて非常に重要な部分である。それはその數が多いからである。日本勞働者の如く小學校に於ては、忠君愛國の教育を受け、卒業すると浪花節を聴くとか、講談本を読むとか、芝居を見るとか、常に國家主義によつて養はれてをる。所がこゝに勞働ブローカーといふものが現はれて、マルクス主義によつて彼等の利己主義を挑發し、勞働者は賃銀さへ増せばいいのである。勞働條件が改善すればいいのであると教へる。マルクスに依れば、一國の産業とか、國家の文明とかいふ事は眼中にないのである。かういふ次第で勞働者が勤勉であるといふことと、怠惰であるといふことは、一國の興廢に關係することが甚だ大である。それは勞働者は多數であるからである。

それでマクドナルドも此の點に着眼し、國家の衰亡を救ふために、賃銀を引き下げ、失業手當を減ずることを勞働者に承諾せしめたいといふことは極めて至當である。即ち彼は利己主義を捨て、國民本位に立ち歸へつたのである。これはとりもなほさずファッショである。私は此の間の事情を調査すべく英國に渡つたが、マクドナルドは勞働黨を脱退し、新に國民勞働黨

を組織した。其の黨員は僅か十三名に過ぎないが、彼は新しい政見を以て立ち上つたのである。同黨の宣言に云ふ。「英國の勞働黨はケーヤ・ハーデイといふ勞働者が置いて、私がこれを助けて今日に到らしめたものであるけれども、この眞の勞働黨の目的は、普通の外國の勞働黨と異なり、單に勞働者だけの利益を目的とするものに非ずして、國民全體の利益を目的とするものである」と云つてをる。

これは明らかにファッショである。即ち全體主義であつて、多數主義ではない。ムツソリーノの説く所と何の異なる所がない。只ムツソリーノは暴力を以てこの全體主義を強制したのに反して、マクドナルドは議會政治によつて、此の全體主義を實行しただけである。それは全く英國民の理性が發達し、愛國心に富み、政治常識に於て秀れてゐるからである。

此の多數主義と全體主義の區別を明白にするといふ事は、現代に於ける社會問題の鍵である。従て此れを詳論することが必要である。私の教鞭をとつてをる早稻田大學の中にも、ブルジョアの子弟がゐて、それがよくマルクスに同情し、共產主義に資金を提供したりすることがある。その理由とする所は「我々少數のブルジョアが貧乏な生活をしてをるといふことは

多數の勞働者に對して相濟まん。この多數者の幸福を計ること最も人道的な行爲であつて、又同時に道德的な仕事である」といふことである。此の議論は動機としては仲々感服すべきものであるが、思想に徹底を缺いてをる。成程勞働者は社會の多數である。多數であるが決して國民全體ではない。その一部に過ぎない。若し國民の一部だけの利益を計るならば、假令それが多數であつても、其の國は亡びるのである。それは英國のポンド下落が明らかに實證する所である。だから我等はもはや多數の利益を計つてはならぬ。全體の利益をはからねばならぬのである。英國の思想家ベンザムの言葉はデモクラシーの原理として、十九世紀全體を支配した。それは「政治の目的は最大多數の最大幸福をはかるにある」といふことである。成程常識から考へて見ると、政治はどうせ凡ての人の満足をかふことは出来ないのだから、せめて最大多數の者の満足をかへばいゝではないかと考へられる。所が英國國民の最大多數である勞働者だけの最大の利益をはかつて、國が亡びんとしたのである。我等はもはや多數の利益をはかつてはならぬ。全體の利益をはからねばならぬ。この全體と多數の混同、これが今日の世界に於ける思想問題混亂の原因である。

我國の政黨政治の行詰りも、その原因とする所は全く此の一點に在る。即ち政黨が國民の多數を得て、政權を執り、その多數者だけの利益をはからんとした。そこに五・一五事件の起きた原因がある。だから政黨政治でも、若し其の政黨自身の利益をはからずして、國民全體の利益をはかるといふことであつたならば、今日の如く行詰りはしない。不幸にして今日の政黨は、歐羅巴に於ては階級代表的である。従て或一政黨が勢力を得て政權を執れば、その階級だけの利己をはかることになる。此の點に於て歐洲に於ては議會政治を以て全體主義を實行しようとするれば、各黨聯合の國民内閣を作るか、或はイタリー、獨逸の如く一國一黨主義に據る外はない。我國の政友・民政は階級代表でないから、單獨内閣を作つても、理論上に於ては自黨の利益をはからず、國民全體の利益をはかりうる筈であるが、實際上是選舉權を買収してまで多數を得んとするから、自黨だけの利益をはかつて、全體の利益を犠牲にせんとする傾きを生ずる。だから日本の議會政治を以て全體主義を實行しようとするれば、聯立内閣を作る外はなく、所謂憲政の常道なるものはこれを實行出来なくなる。結局の所、松岡洋右君の政黨解消論や久原房之助君の一國一黨主義が正當であると見ねばならぬが、さてこゝには實行上の困難がある。

四 獨逸の全體主義

此の事情は獨逸に於ても同様である。一九一八年獨逸に於ては世界大戰の終りにマルクス派の一派、社會民主黨が帝政を覆して、共和政治を建てた。その憲法はワイマールに於て定めたので、此の共和政治の一派をワイマリアンと云ふ。此のワイマリアンの大多數は無論社會民主黨だつたが、首相は時々中央黨から出た。然しその政治の内容は全く社會民主黨がその實權を握つて、官吏は巡查迄社會民主黨であると云はれてをる。此の社會民主黨の政治は一九一八年から一九三二年迄十四年間續いた。その政治の内容を研究して見ると、要するにそれは労働者のための政治であつた。凡ての金を労働者の爲に使つた。従て社會政策に於ては殆んど完備し労働者は甚だ幸福であつた。従て獨逸の津々浦々迄建築が立派になつた。労働者組合の家屋は改築せられ、慈善病院は増築せられ、無産者の通ふ小學校は改造せられ、公園も亦擴大せられた。然るにその爲に獨逸全體は貧しくなつた。市町村が金を労働者の爲に費した結果として、その町村負債金額は二百四十億マルクの巨額に達した。(一マルクは時價約一圓三十錢)然

かもそれは皆外債である。日本の町村の負債は東京横濱の震災に拘らず、總計三十億圓に過ぎない。然るに獨逸町村の負債は日本の十倍に當る。從て獨逸は非常な窮乏に陥り、六百萬人の失業者を生じ、乞食が國內に充滿した。二千萬の勞働能力あるものゝ中で六百萬人の失業は、三人に一人の失業である。從て米國新聞記者は嘲けつて、「獨逸人は宮殿の中に餓死しつゝあり」と云つた。

これはオーストリアの如く社會民主政治の國、濠洲の如き勞働黨の支配した國に於ても凡て同様の結果を來たしたのである。即ち世界全體を通じ、世界大戰後に於ては、勞働者は血を流したといふ理由から急に彼等の勢力が増大し、資本を食ひ荒らして、遂に行詰りに達したといふ情勢に在る。

そこでヒットラーが起つた。彼の仕事は要するにこの利己主義になつた勞働者に警告を與へて、祖國の爲に犠牲を拂ふべきことを教へた點に在る。從て彼のモットーは「ゲマインヌツツ、フォーア、アイゲンヌツツ」といふこと即ち『全體の利益を自分の利益の前にせよ』といふ事である。全體の利益とは國家の利益であり、自分の利益とは自分の懷の利益、自分の階級の利

益を指するのである。

自分と他者の利益とは國家の利益であり、自分の利益とは自分の懐の利益、自分の階級の利益を指すのである。

私は一九三二年の二月始めてヒットラーの演説を聞いた。彼は學生に向つて説いて云つた。「私と現首相ブリュニングとの相違はこゝに在る。ブリュニングは外國に柔かく當る爲に、國內に於て階級闘争を行はしめた。私は外國に強く當る爲に、國內に於ては階級調和を行はんとしをる。」更に彼は云ふ。「學生諸君は如何に學問があつても、決して政治のリーダーにはなれない。若し政治のリーダーにならうと思へば宜しく勞働者の魂を持て」と。

一方に於て階級調和を説き他の一方に於て勞働者の魂を説く。一見矛盾の様に聞える。然し決して矛盾ではない。時勢の變遷を示してをるのである。階級調和論は從來は學者によつて説かれるか、政治家によつて説かれるか、資本家によつて説かれた。勞働者は之れに對して耳をかさなかつた。所謂馬耳東風に聞き流した。然るに今日は時勢が變つた。即ち勞働者が階級調和を説く様になつたのである。然も偉大なる勞働者が現はれて階級調和を説く様になつたのである。ムツソリニーはそれであり、マクドナルドはそれであり、ヒットラーはそれである。

ムソリニーは勞働者である。鍛冶屋の息子である。私はイタリーのヴェネチヤ宮殿に於てム

ツソリニーの手を握つて見た。それは肉の厚い、大きい、暖い手であつた。確かに労働者の手である。それより十三年前私はヴェルサイユの宮庭に於て、英國の宰相ロイド・ジョージの手を握つてみた。此れも肉の厚い、大きい、暖い手であつた。よく考へて見ると、共にそれが鍛冶屋の手であつたのである。ロイド・ジョージの伯父は鍛冶屋であつて、伯父の世話になつて、彼は辯護士となり、今日の地位を得たのである。つまりムソリニーもロイド・ジョージも、若い時は共にハンマーを執つたのである。マクドナルドもスコットランドの貧農の子で、若い時は労働した。ヒットラーはオーストリーの建築労働者である。かうした偉大なる英雄が労働者から起つて、その仲間と呼びかけ、「お前達はもはや、利己主義であつては駄目だ。マルクス主義は駄目だ。國民全體の爲に犠牲を拂ふべき時が來たのだ。全體主義の爲に戦へ、國民の爲に戦へ」と叫んだ。労働者も學者や政治家や資本家の云ふ事は聞かないけれども、労働者の云ふ事なら聞く。そこにファッショの力がある。

要するにファッショとは労働者だけでも國民ではない。資本家だけでも國民ではない。その兩方合した者が國民である。此の國民といふ全體は労働階級よりも資本家よりも、更にその上

兩方合した者が國民である。此の國民といふ全體は勞働階級よりも資本家よりも更にその上に立つべきものであつて、かうした意味でファツショは國民主義と云はねばならぬ。從來の國民主義とはやゝその意味が違ふ。

此の國民主義は精神に於て、到る處に同一である。只イタリーに於ては國民が無知であつて、共產主義の暴力といふ形に於て利己主義を主張したのである。従つてムツソリーも亦自ら暴力によつてそれを彈壓した。英國の國民は愛國的であり、理智が發達してをるから、議會主義によつて此のファツショが成つた。所が獨乙はその中間を行つて、或程度迄議會政治の形をとり、最後に獨裁政治に轉じたのである。即ちファツショは各國各様の現はれがあることを知らねばならぬ。

第三章 イタリー・ファッシヨの四特質

一 道徳國家

私は一九三一年八月の末ローマに於てムツソリニーと會見した。それはローマの中心ヴェネチヤ宮殿の彼の事務室に於てであつた。土曜日の午後七時、面會に来る様にとの事でその玄關に駆けつけた。ヴェネチヤ宮殿は十五世紀に建てられた優雅な一大ビルディングで、世界大戦前はオーストリーの大使館に當てられたものである。その宮殿の二階がムツソリニーの事務室に當てられてゐて、ヴェネチヤ廣場に青年や軍隊を集めては、ムツソリニーが其バルコニーから演説するのが習慣になつてをる。それは二百疊敷ばかりの長方形の大ホールである。私は西側の入口からはいつて行つたが、先づ第一に私を驚かしたのは、老なる部屋に一つの繪畫もなく、一つの彫像もなく、全く裝飾品といふものはないことである。只壁に柱の繪が描いてあるだけが其飾りである。部屋の東北隅に斜に大きなテーブルが置かれ、その右手には大きな電

るだけが其飾りである。部屋の東北隅に斜に大きなテーブルが置かれ、その右手には大きな電氣ランプのスタンドがあり、その左手には大きな電話の受話器がある。テーブルの上には四五枚の紙があり、そのテーブルの前方には五六脚の椅子が、秩序もなく置かれてある。ムツリニの服装は極めて質素であつた。ヅク短かい體格にまとはれたる洋服は、高く見積つても五十圓の代物である。鼠色の上衣、白のチョキとズボン、おまけにズツクの白靴と來てゐる。何と見てもスポーツマンの仕度である。私はいつて行くとテーブル前の椅子の傍に立つてゐた彼は、五六歩進んで來て私の手を握つた。そして私を導いてその一脚の椅子に腰を下ろさせ、自分は椅子に手をかけて、立話を始めた。大使館で聞く所に依ると、日本人は大抵立話五六分間で寫眞をくれて追拂はれるといふ事である。私も同一の運命に置かれてゐることを知つた。そこで私は先づ大急ぎでとつておきの質問を發した。それは「共產主義の將來如何」といふ事であつた。すると彼は驚くべき表情をした。眼を見開いた。我々の眼は普通慣についてゐるのだが、ムツリニの眼だけは縦についてゐる。即ち玉子を立てた様な目をしたのである。やつぱり偉人といふものは特殊な表情を持つて居る。そこでムツリニは私の質問に答へた。「それは共產主義といふものは貧乏から生れるものである。地震や洪水の時に食物がないと云ふ

ことになる、何んにでも嚙りつく。従て共產主義になれば何かいゝ事はないかといふ考へである。十七世紀の三十年戦争の時、獨逸は非常に困憊した結果、共產運動が起つてをる。もう一つの共產主義の原因は不道德である。最近獨逸は人情が變つて無産階級だけでなく、資本家迄欺偽をする様になつた。これが注意すべき點である。此の冬六百萬の失業が八百萬人に増加したら、恐らくは獨逸は赤化するのではないか。これが心配な點である。」

そこで私は大抵追拂はれる時の來たのを知つたから、大事な質問を提出した。それは「あなたのファッショは四つの政治から出來てをるのではないか。第一は道德國家、第二には組合國家、第三は經濟國家、第四は労働者を國家に呼び戻す政策即ちこれである。」とムツソリニーは私をちつと見てそして云つた。「君は多くの歐羅巴人よりよく物が解る」と。彼はテーブルをグルットと廻つて自分の事務机に腰を下し、兩手で頤を支へながら、私を見つゝ三十分間の有益なる問答をした。従て私は私のファッショ觀に對して與許しを得た感がした。

そこで第一の道德國家から説き起さねばならぬ。元來イタリーと云ふ國民は愛國心のない國民である。その主なる原因は中世紀から今日迄、イタリーは統一された一國となつたことがな

兵である。その主な原因は中世紀から今日迄、イタリアは統一された一國となつたことか

い。皆小さな國々に分裂して相争つてゐた。而も北部の最も豐饒なミランを中心としたロンバルヂヤ州は、二百年の間オーストリヤの爲に征服され、南端のネブルス國はスペインの爲に征服されフランス革命、ナポレオン當時には全國がフランスの爲に支配された。中央のトスカーナとかローマ法王領とか、北部のヴェネチヤ王國とか、西部のビエモン王國とか、支離滅裂に分裂して全く統一が無かつた。おまけにその國は大抵利己主義な君主であつて善政を施かなかつた。十六世紀にフロレンスに、有名な政治家であり歴史家であり、政治學者であるマキアベリといふ人物が生れた。彼は『君主論』といふ一書を表はして當時の君主に教へたが、その金科玉條とすべきは「君主は獅子の如く獐猛にして狐の如く狡猾なるべし」といふ事であつた。即ち君主はあくまで利己主義であれといふのである。

従てイタリア人なるものは一般に政治に對して反感を持つてゐる。有名な諺がある。「ラ・ボリチカ・エ・ブルタ・ベステイア」即ち「政治は醜き動物なり」と云ふ事である。彼等は政治に同情がないから國家を愛することが出来ない。國家を愛する事が出来ないから無政府主義者になる。十九世紀及び二十世紀に於ける歐米の君主・大統領の暗殺者は常にイタリア人であつた。

フランスの大統領カルノーを殺し、オーストリーの皇后を殺し、米國大統領マツキンレーを殺し、最近フランクリン・ルーズヴェルトが米國大統領になると早速、暗殺に出かけた者はイタリアの無政府主義者であつた。

かうした愛國心のないイタリア人は決して勇氣がないといふのではない。彼等は非常なる勇敢な國民である。此の點に於ては一脈ローマ人の血液を傳へてをる。殊に情熱的國民として、非常に復讐を愛する。但しこの復讐は日本人の如く正義觀が混じてゐないから、それが復讐されては、復讐し返し、四代も五代もその復讐が繼續してゐる事がある。イタリア人は女でも敵に襲撃せられて負傷した時、決して警察にその加害者の名を云はない。警察に復讐して貰ふといふ事は卑劣であると考へてゐるからである。唯イタリア人は個人としての勇氣はあつても、國家の軍人として勇氣がないのである。それは愛國心缺乏の爲である。ムツソリニーは即ちこの愛國心を國民に植ゑつけて、立派な軍隊を造り上げようと考へた。それが彼の愛國教育の目的である。

従てムツソリニーは青年の愛國教育の爲に非常の金を費つた。一九三一年の八月私はロー

マに居たが、毎週交替に各地方から五六萬人の青年をローマに召集し、これが爲に特別の練兵場を作り、各種の武器を與へ、ムツソリニーが檢閲をしてをる。鐵砲も與へ、飛行機も與へ、大砲も與へるといふ工合である。青年は武器を好むものであるから非常に喜んで、ムツソリニーの風貌を望んでは、愛國心に燃えてゐるといふ有様である。

或人がムツソリニーに對して「あなたの後繼者は誰れか」といふ質問を發した。ムツソリニーは之れに答へて、「私の後繼者は私の子供でもなく、ファツシヨの黨員でもない。それは天下の青年である」と云つたさうである。松岡洋右氏がムツソリニーに會つて尋ねた時にも同様の答を得てをる。其の精神を考へて見れば、青年を愛國的に育てゝおけば、彼の死んだ後でも、ファツシヨの精神だけは残るといふのが彼の信念である。その證據は英國のマクドナルドの政治を見れば明白となる。元來ファツシヨはデモクラシーの病氣に對する外科療治である。従つて獨裁政治が永久に支配する譯に行かない。但し議會主義が復活する時には、多數の利己主義の病が療やされねばならぬ。それがムツソリニーの愛國教育の目指す所である。

此の愛國教育は小學校の時代から始められる。これをバリラの教育と云ふ。バリラとは子供

の名前である。十九世紀の半ば頃、イタリアの北部は未だオーストリアの支配の下にあつた。當時オーストリアは煙草專賣の制度を始めて、イタリア人民にも之を買つて喫ませようとしたが、彼等は反感をもつて之を喫まない。そこで或日オーストリアの軍隊がゼノアの港を通つた時、一人の子供を捕へて、巻煙草に火を點けて、之を劍で子供の口に突き刺したら、子供は血を吐いて死んだ。然るにその子供の友人バリラと云ふ少年が之を聞いて大いに憤慨し、石をポケットに一杯詰めて、オーストリアの軍隊が通る時に、之を投げつけ始めた。軍隊は又これを追つかけた、バリラが逃げる光景を見て、ゼノア市民は大いに憤慨し、オーストリア軍が又子供をいぢめるといふので、全市急に蜂起し、一時オーストリア軍を市外に放逐することになつた。それが爲にイタリア國民は大いに勵げまされて、遂に獨立の軍を起し、フランスの助けを得て、一八七一年に完全に獨立を得ることになつたのである。だからムツソリニーは小學校の生徒に對する愛國教育をバリラの教育といふ。小學の教科書の中に、既にファツシヨの教育を説いてエー・エー・アラ・といふファツシヨの禮式を教へ込んでゐる。

ムツソリニーは更にファツシヨの民兵を以て、國民の道德教育を行つてゐる。彼の民兵三十

萬、彼はその半ばを以て、フランス伊太利の國境に送り、國防に當らせ、他の十五萬を以て警察の補助機關となしてゐる。一九一九年から一九二二年迄は、共產主義の最も横暴を極めた時代で、イタリア道德が頽廢の極に達してゐた時代である。その頃イタリアを旅行した者は一寸便所に立てば必ず帽子と外套と荷物がなくなるに決つてゐたといふ。當時の鐵道省の賠償金の統計を見ると、今日の數千倍に達してゐる。荷物を送つても大半は盜まれるに決つてゐたからである。汽車の發着時間は、歐羅巴中イタリア程不規則なものではなく、大抵一二時間遅れることに決つてゐた。それが今日は國際列車だけでなく、田舎の隅々まで、一分間も後れることがなくなつてゐるといふ。それ程人間の氣持が變つたのである。今日イタリアの汽車に乗ると、必ず二人のファツシヨ兵が車掌の後から切符を改めに來るだけで、その外に特別の監視はしないのであるが、今日イタリアの汽車内に盜賊といふものは全くなくなつてゐる。

或時一人のファツシヨの新聞記者が、賊の或家屋に侵入したのを見て、表から戸を叩いた。中から賊は叫んだ。「お前はファツシヨか、巡查か。ファツシヨならば出ないが、巡查ならば出る。巡查を連れて來い」とそれはファツシヨが單に罪人を捕へるだけでなく、鐵拳制裁を加へ

るからである。

かういふファツシヨの努力によつて、今日イタリアは全く面目を一新した。今日のイタリアは、昔の不規則が全く姿を消して、規律が上下を支配してをる。嘗ては乞食と賣笑婦とが道路に充滿してゐたイタリアに、それが全く姿を消してゐる。それは全くファツシヨの政治のお蔭である。

ファツシヨ政治の一つの特徴は、宗教を保護することである。ムツソリニーはイタリアの道徳を維持する爲には如何にしても宗教の力を借りねばならぬといふ。元來羅馬法王とイタリア國家との關係は、一八七一年イタリアの統一以來、國交斷絶の形であつた。それはイタリア國家がローマ法王の領地を沒收したからである。ムツソリニーに到つて始めて、六十年ぶりでの國交を回復した。そして僧侶に特權を與へて軍隊や學校に於て説教することを許した。かうした宗教を保護するといことが、ファツシヨ國家の特徴であつて、そこにソヴィエト國家との根本的相違がある。

ファツシヨ國家は傳統的なる文化全體を保存し、之を發達せしめようといふのである。共產

主義の國家は、從來の文化を根本的に破壊しようと云ふのである。傳統的な國家も、道德も、宗教も、家族も、悉く之れを破壊し去らうといふのが、ソヴィエト國家の目的である。これは唯物主義から來る當然の結果であつて、この文化破壊の共產黨の運動に反對して立上つたものが、即ちファツシズムである。

私はモスコに於て、ソヴィエト國家が盛に寺院を壊して、活動寫眞館に引直してゐるのを見た。ロシヤに於ては、結婚制度なるものは存在しない。今日結婚して地區の役場に登録しても翌日當事者の一方がそれに棒を引けば、結婚は最早存在しないのである。かのロシヤの婦人外交官コロンタイが、若き婦人の戀愛なしに、男に身を委せることを是認してゐるのは、如何に共產主義者が、この唯物主義の結果として、人類を動物と等しき雜婚の制度に導かんとしつゝあるかを示すものである。

ファツシヨはかうした破壊思想の反動として起つた運動であつて、人類の社會保存の止むに止まれぬ文化的現象である。これを新道德國家の出現といふ。

二 組合國家

フランスの思想に依れば、サンジカリズム即ち組合主義には二つあつて、一つを革命組合主義と云ひ、他の一つを全體組合主義と云ふ。革命組合主義とは、ジョルジュ・ソレル一派の強調した如く、マルクス主義の修正であつて、而もその左傾的修正である。即ち獨逸のベルンシュタインのマルキシズムの右傾的修正と相對抗する。ベルンシュタインはマルキシズムをデモクラシーに近づかしめ、其の革命的性質を緩和したのに反して、ソレルはマルキシズムを更に過激ならしめ、更に革命的要素を加へたのである。ソレルの信ずる所に依ると、マルキシズムは宿命主義である。即ちマルクスは歴史を唯物主義的眼光から觀察して、人類の進化は必然的になされるものであつて、封建時代は資本主義時代に、資本主義時代は社會主義時代に進化して行く。その過程は春夏秋冬の變化の過程の如く、人力を以て如何ともすることの出来ない、必然的法則によつて、宿命的に定められたものであると云ふ。斯の如く唯物史觀は、要するに社會の進化と人間の努力とは關係のないものであり、人は唯手を拱いて傍觀するとも、資本主

義は自ら社會主義に展開して行くものと云はざるを得ない。かくの如き學説は人を宿命説に導き、努力を否定して、ベルンシュタインの主張したる如く、若し社會をこのまゝにして放置するならば、社會は益々右傾し、社會主義までも遂に民主主義化すべしと見たのである。何となれば労働者が手を拱いて見てゐる間に、資本家は努力して社會運動を阻止するからである。かういふ見地から、ソレルは社會主義は宿命的に來るものには非ずして、人類の有意なる努力によつてのみ實現せられるものなりと主張し、從て階級闘争の觀念を更に激成するの必要ありと説き、無政府主義の觀念をマルクス主義に導き入れ、國家を否定し、議會を否定し暴力を以て唯一の戰鬥武器となさんと主張したのである。從來の労働爭議に於ては常に議會の代議士が仲裁に入つて問題を解決したのである。從て此の爭議解決は議會の議員を中間に入れるから、間接行動であつた。我等は將來爭議解決に於ては議會の議員の仲介を欲しない。勞資兩階級の直接の接觸によつて之れを解決せんとする。これ即ち暴力である。從て暴力は間接行動に非ずしで直接行動なりといふのである。

かうした革命的組合主義に對抗して、全體組合主義といふものが起つた。此の全體組合主義

は、前者が階級闘争を主張するに對して階級調和の實現を目的としたものである。元來マルクスの誤は階級を勞資の二つと見たことに在る。ロシヤ革命の時、勞働者は工場を占領し、資本家を追出し、技師を追出したが、その技師を追出したことが原因になつて、生産の不能に陥り、遂に飢饉に迄到つた。従て技師は資本家にも非ず、勞働者にも非ざる特殊の階級である。その結果として、フランス邊にはロシヤ革命後技師の組合が発生した。勞資の組合の外に、智能の組合が発生したのである。だから階級は勞資の二つに限らない。三つある譯である。更に詳しく社會を觀察する時は階級は決して上の三つに限らない。各職業は組合を作り、その代表機關を設けることによつて特殊の階級を成し得る。従て職業のある數だけ階級はあり得る譯である。だからその階級の代表者を一堂に集めれば必ずその間協力關係が成立ち、こゝに階級調和の機關が出来得る筈だと云ふのである。

この理由に就いてフランスのヴァロアは下の如き説明を與へてをる。こゝに山梨縣に葡萄酒の産業がある。その葡萄酒の企業家と葡萄酒の勞働者との間には利害が衝突する。然し葡萄酒商人に對しては、兩者とも葡萄酒を成るべく高く賣らうといふので、勞資の間に利益が一致す

る譯である。商人も亦他府縣の同業者に對しては資本家勞働者と利害に一致する。從てこゝに山梨縣の葡萄酒業組合が成立する。同じ理由で各縣に葡萄酒業組合が出来る筈である。その各縣の葡萄酒業組合は外國の同業者に對して利害が一致するから、こゝに全國的の葡萄酒業組合が出来る譯である。それと同じ道理で、鐵工業にも、紡績業にも、製絲業にも、國民的組合が出来たる譯である。それ等の組合は悉く外國同業者に向つて利害が一致するから、それが一堂に會すれば必ず日本の國益を計る會議が成立する譯だといふのである。これを職能代表議會の原理といふ。

此の組合議會の觀念は英國に傳はつてギルド社會主義となり、コールやラスキやウエツプなどに影響を及ぼし、所謂機能代表の理論を惹起した。その中コールの論ずる所が代表的である。彼は云ふ。「元來代表なるものは、委任狀に書き得べき或利益の代表でなければならない。代議政體の如き、人格を代表すると云ふことは無意味である。何となれば人格は普遍的であつて無數の利益を持つ。從て一の人格を他の人格が代表するといふことは全く無意義である。まして一人の代議士が一選舉區に於ける數十萬の人格を代表するといふことは全く不可能なことであ

る。從て代表は或組合の目的を代表せねばならぬ。或組合の機能を代表することではなければならない。從て代議政體は過去の制度であつて、將來は機能代表即ち職業代表によつて代られねばならぬ」と説くのである。

斯の如き理論を以て、之れを多元的國家論と云ひ、此の學説は一時歐洲を風靡したのである。然るにムツソリニーの天才は、此の多元的國家を一元的に組織して、之れを世界に示したのである。かういふ意味に於てイタリーの組合國家なるものは、全く二十世紀の新しき制度と云はねばならぬ。

此の組合主義はイタリーに於ては二つの方面に應用されてゐる。一つは勞資協調の爲に用ひられ、他の一つは組合議會の制度として用ひられる。先づ勞資協調の方から筆を起さう。ムツソリニーは各工場に命じて組合を作らせてゐる。勞働者にも工場毎に組合を作らせ、資本家にもその地方々々に應じて同業者の間に組合を作らせてをる。此の勞働者に對して工場の中に組合を作らせる目的は、マルクスの如く階級闘争の爲では無く階級調和の爲めである。即ち資本家に對して勞働者が團體協約を結び得るためである。團體協約とは、勞働者が別々に非ずして、

其の工場全體の勞働者が團體的に資本家に對して勞働條件を定めるものである。それは政府が間接に立會つて、其の時の經濟事情に應じ、適當に分配をなし、資本家は何程儲け、勞働者は何程の賃銀を受けることとする、つまり搾取のないのを條件とする。

無論その勞働條件は其の時に於ける經濟狀態に應じて之を定めるものであるから、經濟上の事情が變化すればその勞働條件に不滿が起きる。その不滿は勞働者から起きることもあれば、資本家から起きることもある。勞働者からならば、景氣がよくなつたのに賃銀が安過ぎると云ふであらうし、資本家から云はせれば、景氣が悪くなつたのに賃銀が高過ぎると云ふであらう。かくして爭議は起き得る。爭議は禁じられてゐない。唯その爭議が暴力によつて解決されることが禁じられてゐるのである。

ムツソリニーは勞働者の暴力である所のストライキも、資本家の暴力である所の工場閉鎖も共に犯罪として之れを檢舉してゐる。その理由とする所が面白い。即ち此等の暴力は被害者が加害者に對して暴力を以て行ふ私刑であると云ふのである。私刑は常に法律の發達すると共になくなる性質を持つてをる。昔政府が自分の親を殺した者を罰してくれない場合は、子供自ら

加害者を探し出して之に刑罰をほどこしたものである。之れを仇討と云ふ。これは私刑である。此の如き私刑は法律の發達と共になくなつた。それと同様に今日のストライキもロック・アウト即ち工場閉鎖も、法律の發達と共に消滅すべきものであると云ふ。かういふ理由からムツンリニーはストライキとロック・アウトの二つの暴力を刑罰を以て禁止したのである。

そこでムツンリニーは合法的にその爭議を解決する二つの方法を設けた。一つは即ち行政的方法であり、他の一つは即ち司法的方法である。行政的方法としては、コルボレエション即ち協働省といふものを設けたのである。サンデカ即ち組合は勞資離れゝに作られるものであつて、その間に何等協力の機關がない。元來フアツシヨ國家の觀念に依れば、勞資兩階級は互に鬭争すべきものでなくて、協力すべきものである。然るに双方の組合が對立してゐたのでは協力が出来ない。そこで各職業に就いて、勞働者側の代表者と資本家側の代表者とが、地方的にも協力し、中央に於ても協力せねばならぬ。この職業的に勞資兩階級の代表者の集合したるもの、之れを稱してコルボレエション即ち協働體と云ふのである。この協働體には八種類ある。

ある。

一、工業協働體

二、農業協働體

三、商業協働體

四、銀行業協働體

五、陸上運送業協働體

六、海上運送業協働體

七、旅客業協働體

八、興行協働體

これである。この各協働體はその中に勞資兩階級から同數の代表者を含み、それが外國にない協働省に集つて、協働大臣を議長とし、時としてはムツソリニーを議長として、全國の勞働爭議にして、各協働體に於て解決し得ざるものを、解決し得る職能を持つ。

若し此の行政機關に於て解決し得ざる場合は之れを司法裁判所に訴へることを許してをる。

この司法裁判は控訴院の判事三名、鑑定員二名、即ち五名の勞働法官を置いて、これを裁判せしめる。但し此の裁判所は團體契約上の爭議を裁判するものであつて、個人間の勞働爭議は普通の裁判所に於て之れを解決することにしてをる。然し實際には行政處分によつて爭議は大抵解決し、勞働裁判所に來るものは甚だ小數なりとされてをる。これが組合を以て勞働協調を計る制度である。

次に組合を以て議會を組織することがイタリアの新しい制度である。即ちムツソリーニは全國の職業を七つに分けた。

一、農業組合

二、工業組合

三、商業組合

四、海上運送業組合

五、陸上運送業組合

六、銀行業組合

七、自由職業組合

此の各組合を勞資兩階級の二つに分けて、その双方から各々同数の代議士の候補者を選出せしめる。その總數八百名である。この八百名について、ファッショの中央機關たる大委員會が、適任と認めるものを四百人選抜する。時としてはその組合が選出した代表者の以外に於て、大委員會が社會に名望ある學者文學者藝術家の中から、適宜に之れを選抜することもある。この選抜されたる四百名は代議士の候補者である。而も政府が選抜したるものであるから、政府の候補者である。この政府の候補者四百名は再び之れを民衆の投票に附する。その選舉權を有するものは、二十一歳以上の男子及び、十八歳以上の結婚して子供を得たる男子である。この選

舉に於ては、選舉人は政府の候補者四百人全體に對して團體的に之に賛成であるや否やを投票するのである。従てそれは政府に信任あるや否やを問ふことになる。

この政府の信任を問ふた第一回の選舉は、一九二九年であつてその投票の結果は、政府に信任を與へたものが八百五十萬人、之れに反對したる者僅かに十三萬六千人であつた。一九三四年に第二回の選舉を行つたが、賛成は千萬人に増し、反對は一萬五千に減じた。元來ファツシヨの政治なるものは獨裁政治ではあるけれども、民衆の後援による獨裁政治である。その結果として、ファツシヨは暴力を濫用してはならぬといふ結論が得られるのである。民衆は決して暴力を好むものではない。従てムツソリニーは、決して人を殺さない。無論共產黨に對して市街戦を行ひ、ファツシヨ黨員の殺された場合に復讐的に共產黨員を殺したことはあるけれども、彼が權力を執つてからこの方、反對黨の幹部はこれを悉く海外に放逐するか、團體的に之れを島流しにするといふ手段を取つてゐるけれども、決して暗殺はしないのである。ムツソリニーは暴力に對しては下の如く云つてをる。「ファツシヨの暴力は正當防衛的であつて、決して攻撃的ではない。従てその暴力は最少限度に行はれねばならぬ。」

又曰く「ファツシヨの暴力は逸事的であつて決して組織的でない」それは偶々行ふものであつて繼續的に行ふものではないといふのである。現に彼の權力を執つて以來行はれた暗殺は單に一回、マテオツチと稱する社會黨の代議士を殺したことだけであつて、これすらもムツンリー^{リニ}の知らぬ間に、下級黨員によつて行はれたものであり、下院の問題になつて、非常に彼を苦しめたものである。従てファツシヨの慣用する暴力は、大抵棍棒で殴るとか、蓖麻子油^{ヒマシユ}を飲ませるとか成るべく無害の方法を用ひる。

元來凡てのファツシヨは獨裁政治ではあるけれども、常に民衆の後援によつて行はれたものである。昔ナポレオンが十五年間の獨裁政治を行つた時、それは確に一種のファツシヨであつたが、このファツシヨも亦フランス民衆の後援によつて行はれたものである。一七九九年フランス革命はその末期に達し、赤色テロに次ぐに白色テロを以てし、互に相殺して止まる所を知らない。憲法は中止せられ、法律は行はれず、生命財産の安全は全く失はれて、旅行一つ安全に出来ないといふ状態に達した。其の時フランスの國民は誰れか立つてこの社會に秩序を恢復してくれるものはないかと考へたのである。この國民要望の聲に應じて立上つたのがナポレオ

ンである。彼は百五十名の馬上の軍人の先頭に立つて、先づ上院に赴き、上院の決議によつて會議をバリーの近郊サン・クルウの離宮に移し、軍隊を率ゐてこの離宮を圍んで了つた。そこで議會を暴力によつて解散し、自ら第一統領官となつて、遂にフランスの政權を握つたのである。然しバリーのクラブやカフェにはやはり革命黨が集つて、自分の足をすくはんとしてゐる。彼はどうしてもこゝに一大武勳を立て、フランス國民の心を捕へ、皇帝の位に上るのでなければ到底安んじて社會に秩序と安全とを與へることは出來ないと考へた。そこで彼は遂に一ヶ月の不在を以て、驚天動地の大勝利を博すべき方法を求め、かくして行はれたものが有名なるアルプス越えの戰略である。

彼は五萬の兵をスイスに近きデイジョンの町に集めた。その當時フランスは五大強國と戰つてゐるので、果してナポレオンがその兵を何處に用ひるのであるかを何人も解することが出來なかつた。兵が集まるや彼は早馬に鞭つて、デイジョンに赴き、その五萬の大兵を率ゐてスイスのデエネバに這入つた。そのデエネバ湖の北岸を東進してその東端に達するや、敵は本能寺にありといふ風に、急に馬首を南に向け五萬の兵を率ゐて、かねて調査したるアルプス連峰の

サン・ベルナル峠に到着した。彼はこの五萬の兵を以てアルプス山を越へ、イタリアのポー河の平原に雪崩を打つて撃つて出た。

その時丁度オーストリーの軍隊はイタリアとフランスの境、地中海の沿岸に於てフランス兵と戦つてゐた。その後方イタリアのチエノア港に於ても、佛の猛將マツセナーがナポレオンの命令によつて、一ヶ月の食糧を以て籠城を始め、既に二ヶ月の間城を守つて降らず、食物盡きて鼠を食ひ、草のソツプを食べてゐた。これオーストリー軍を牽制するためである。

ナポレオンがポー河の平原に出て、彼等の退路を絶つたと聞いた時、オーストリーの軍隊は遽かに引返して、ナポレオンとマレンゴの村外れに於て出會した。其の時ナポレオンの手元にあつた軍隊は僅かに二萬二千、オーストリーの軍隊は三萬五千である。戦はマレンゴの村外れに於て開かれたが、窮鼠却つて猫を噛んで、ナポレオンの軍隊は利を失つた。オーストリー軍は軍隊の行李を先頭に立てゝ、オーストリー街道を東に進み始めた。

その時ナポレオンの武將にして、埃及遠征からナポレオンを慕つて單身逃れ歸つた將軍ゾゼーは、一個師團を率ゐて敵の探索の爲にゼノア方面に赴いた。後方に於て大砲の轟くのを聞き

戰の始つたのを知つて引返した。彼が戰場に着いたのは午後三時であつた。ナポレオンは軍議を開き、諸將を集めて再び戰ふべきか、又は八方に手配した軍隊を集め再起を計るべきかを問ふた。ヅゼーは時計を懷より出して之を見て云ふ。「時は午後三時である。尙一回戰つて勝つに充分である」と。ナポレオンは「俺も亦同意見である」と。こゝに再戰に決し、猛然として敵に突き當つた。オーストリー軍は全軍崩壊して後方の河に突き落され、三萬の軍隊は悉く捕虜となつて了つた。ナポレオンは一回の戰にしてオーストリーの全軍を捕へ、一日にしてイタリー全部を回復し、多額の償金を得てパリに凱旋した。此の一戰はフランス國民をして熱狂せしめた。彼は直ちに自分をして終身官となすや否やをフランス國民に問ふた。それは普通選舉である。これに對して賛成したもの實に二百五十萬人、反對したもの僅かに八千人であつたといふ。

この投票によつて彼は帝位に上り、彼の十五年の獨裁政治が始まつた。それは確にファツシヨの政治である。彼は此の十五年間に於て、普通の人間の二百年間の分量だけ働いた。今日のフランスの凡ての制度はナポレオンによつて作られた儘である。軍制は無論のこと、行政の制

度でも、フランス銀行の如き財政の制度でも、リセの如き教育の制度でも、六大法典の制定でも、世界に理想的な自動車道路として知られたる幾何學的な直線道路でも、悉くナポレオンの作つた儘でないものはない。確かに此の善政はフランス國民の後援によつて行はれたものであつて、彼の十五年間の獨裁政治は確かにファツシヨ政治であつたのである。

一昨年 of 我國のファツシヨにしても、あれだけの暗殺事件が平常起つたとすれば、必ず朝野の大問題となつたに違ひない。それが割合に國民の同情を集めたといふのは抑々何によつたかと云へば、それは滿洲事變によつて國民の輿論が軍隊に向つてゐたことを利用したからであつて、全く國民の後援によるファツシヨの現れであると云ふことが出来る。此の意味からして暴力を濫用してはならないといふ結論も出てくる。もし暴力の濫用があるならば、國民は同情を中止しファツシヨは遂に失敗に歸するであらう。

兎にも角にも、伊太利の職能代表の政治は、成績極めてよく、外國人の之を傍聴したものは、殆んど大學の講座を聞くが如き感があると褒めるさうである。これを従來の議會が選舉は買収によつて行はれ、議員は暴力によつて日を暮した状態に比すれば、雲泥の差があると云は

れてをる。

三 經濟國家（統制經濟の創造）

イタリーのファッショ國家の文化的意義の中で最も大なるものの一つは統制經濟の創意である。マルクスの唯物史觀に従へば、社會の進化は宿命的なる必然法に従ふものであつて、封建國家から資本主義國家に移り、資本主義國家から社會主義國家に移るといふことは、春夏秋冬の順序が人力の如何ともすることの出来ない必然法によつて動くと同様に、必ず實現せらるべき事實であるといふのである。これをエンゲルスは科學的社會主義と稱し、この社會進化の順序こそは、マルクスの發見せる所であつて、科學的に證明せらるべき法則であるといふのである。

今日歐羅巴に於ては、かくの如き獨斷的な社會進化の法則をそのままに、科學と信ずる學者は一人もないと云つてよい。それは單にマルクスが社會主義の到達は人力の如何ともすることの出来ない必至の理法であるといふ、一つの社會主義宣傳の手段に過ぎないのであつて、そ

れは彼の獨斷的な社會哲學に過ぎないものであることは一般に信ぜられてゐる。何となれば、苟も科學的原理と稱されるものならば、如何にしてもその原理が實驗によつて證明せられねばならぬ。實驗によつて證明されたることなき人間の將來に對する臆斷は、それは我等が獨斷的哲學論と呼ぶのである。唯我國の青年學徒は科學と哲學の分歧點を知らずして、哲學を科學と心得、單なる信仰に過ぎざるマルクスの理論をも之れを科學と誤り信じたのである。マルクス主義が眞に科學的であるが爲には其の實驗たるロシヤの革命が成功せねばならぬ。然るにロシヤの革命は一九二一年に大飢饉に陥つて、一千萬人の人を殺し、今年又再び大飢饉がロシヤの倉庫といはれてゐるウクライナ、コーカサス地方に起つた。そしてその原因が全く共產主義の制度が、人間の努力を滅殺することにあることは學者の一般に認める所である。従て共產主義は實現不可能なる人間の理想即ち空想に過ぎないのである。

之れを要するに、マルクスの誤は共產主義を以て社會進化の必然的到達點と考へたことであつて、人類の自由を否定し、人は自ら理想を立て、これが實現に努力し得るといふ事實を否定し、人間は宿命的なる或理法によつて支配されるものと信じたことに在る。資本主義に缺點

あることは何人も之れを認める。唯資本主義に缺點があるといふこと、そして共產主義に同一の缺點がないといふことだけで、直ちに資本主義の後には共產主義が必然的に來ると速斷するのは大いなる誤である。資本主義は缺點があらう。共產主義に同一の缺點がないとしても、資本主義の後には必ず共產主義が來らねばならぬといふ道理はないのである。何となれば資本主義の缺點を持たないものは共產主義だけではないからである。共產主義以外にも資本主義の缺點を持たない制度はあり得るからである。人間は理智の動物であつて、自由に如何なる理想でも之れを描き出し得るのである。ムツソリニーのなしたる偉大なる功績は、その共產主義以外に資本主義の缺點を補ひ得る新しき制度を發見したといふことである。單に之れを發見したのみならず、而も之れを實行して着々功績を擧げたといふことである。それはムツソリニーの制度が完全無缺なるが故に彼の功績が偉大なりと云ふのではない。彼の功績の偉大なる所以は、共產主義以外にも資本主義の訂正は可能だといふことを示したことであつて、ファツシヨは單にその一例を示したに過ぎない。第二、第三のファツシヨはそれより無限に發明せられて、人類を共產主義の如く飢饉に陥れることなくして、而も資本主義の缺點を補ひ得べき制度の發明

し得られる可能性を示したのである。そこに彼の偉大なる天才の閃きがある。そこに彼の偉大なる、人類文明に對する功績があるのである。

此のムツソリニーの創意にかゝる經濟體系を人呼んで統制經濟と云ふ。獨逸人は之れを呼んで計劃經濟と云ふ。統制經濟とは自由主義の經濟、放任主義の經濟に對する一種の經濟體系の名前であつて、資本主義は個人企業を極端に獎勵して、國家はなるべく之れに干渉を加へず、企業の中のよきものと惡しきものとの淘汰作用は、その自由競争に委せて、その競争の力によつて經濟の發達と文明の進歩とを求めんとするものである。これに反して統制經濟は國家が個人企業に監督統制を試みて、その自由競争の弊害、無政府的なる經濟的亂闘を防ぎ、その餘弊として起る生産過剩、恐慌の頻發等を防がんとするものである。これが爲には國家は豫め個人企業の善惡に關して取捨選擇を行ひ、そこに政府の一定の産業計劃を加味せんとする。この意味に於ては統制經濟は即ち計劃經濟である。

獨逸の經濟學者ゾンバルトは資本主義の研究を以て有名であるが、彼は高度資本主義又は後期資本主義の特徴として、必ず統制經濟に終らねばならず、その統制經濟はアウタルキー即ち

自給自足の經濟を以てその特質とすべきことを論じてをる。そこに彼の觀察の正しさがある。今下にムツソリニーの統制經濟の種々なる特質を論じて見たいと思ふ。

(一、第一に注目すべき點は、ムツソリニーの統制經濟が明らかに資本主義の改定であり、更正であり、取りも直さず、改良せられたる一種の資本主義であるといふことである。ロシアの共產主義も亦一つの經濟國家であり、而も亦一種の統制經濟であり、計劃經濟である。唯この統制經濟は、その國家の統制作用が餘りに徹底的であつて、生産組織が悉く國家の計劃に出で、統制に出で、そこに少しも個人の創意を交へる餘地がない。即ち共產主義の中心制度は要するに産業國營といふことであつて、國家がその産業の經營者であり、從て毎年國民の必要とする物資に對して豫算を作り、その豫算に從て各専門の工場、専門の個人に命じて物資を生産せしめる。而もその生産せられた物資は個人の手を借りずして、國家の官吏の手によつて個人に配給される。從て生産に従事する勞働者も、その物資を分配する人々も、悉く官吏である。即ち共產制度は國家全體が官吏によつて成立し、個人の慾望は國家によつて決定され、個人は自らその好む所を得ることが出来なくて、國家の與へるものを以て満足せねばならぬといふことに

なる。云はどあてがひ扶持の制度である。

之に反してイタリーの統制經濟はかくの如き極端に走らない。唯國家がその利益の爲に産業の無政府狀態を制限する目的を以て、その生産と分配に監督を行ふ程度に止まる。從て個人企業を以て經濟體系の中心となし、唯此の個人企業を激勵し、刺戟し、保護、監督することを以て満足する。從て共產主義とフアツシヨの經濟制度の相違は、前者は個人企業を許さず、後者は之れを許可すといふことにある。唯後者はその個人企業に制限を加へて國家の利益を以て個人企業の主なる目的となすといふことをその特質とする。もとよりフアツシヨの國家は生産者個人の利益を尊重しないといふのではない。即ち從來の資本主義の如く、企業の目的は資本家の利益を得る爲、労働者の賃銀を得る爲の目的を認めるけれども、それ以上に更に國民そのものの力を増し、富を増すといふことを以て、主要なる目的と認めるのである。そこに資本主義の改定の要點がある。これイタリーの労働憲章第二條の規定する所である。曰く「労働は智的技術的、筋肉的、その凡ゆる形態に於て一つの社會義務である。この故に、又此の故によつてのみ、人は國家の保護を受ける。生産全體は國家的見地より一つの單位と見られるであらう。そ

の目標は凡て同性質であつて、之を要約すれば、生産者（資本家及び労働者）の幸福、及び國家偉力の發揚となり得べきものである。これ産業の目的を規定したものである。それは個人の幸福と國家の富強を等分に見てゐる様であるが、第一條に國家の個人に對する優越權を規定してゐるので、國家の富強が個人の幸福以上のものとなるのである。曰く「イタリー國家は之れを構成する個人若くは集團の所有する所のものより優越せる特殊目的、生活及び活動方法を具有する有機體である。そは道德的、政治的、經濟的の統一體を構成し、かゝる統一體の完全なる實現はファツシヨ國家に於て之れを見る」とこれである。更に個人企業を以て經濟體系の中心としてゐるものは労働憲章第七條である。曰く「協働國家は生産の領域に於ける個人創意を以て國家の利益を伸張する所の最も有效且つ有要なる方法と認める。個人企業は國家の主要なる機關たるが故に、その管理者は國家に對し生産の一般的政策に關する責任を有す。生産要素（労働及び資本）の協力により、權利義務の相互作用が兩要素に附加される。労働者は技術者たると作給雇人たると筋肉労働者たるとを問はず、何れも經濟的企業の事業に積極的に協力し、企業を指導する任務はその企業に責任ある雇主の双肩にかゝる」と。こゝでファツシヨが個人

企業を本位とすることが分り、唯之れを國家の機關と認めるだけである。

(二)、フアツシヨの經濟統制は之れを二つに分けることが出来る。一つは生産に關する統制で、他の一つは分配に關する統制である。生産に關して、個人企業がその體系の中心であるから、成可く之れを自由に委せる方針を取つてゐるが、これは人の知る如く、今日の資本主義に於て自由にすぎる個人企業は特に弊害を生んで、一方に於ては物資の生産過剰を來たし、穀物を焼いてゐるといふ場合に、他の一方に於ては、その同じ穀物がなくて餓死するといふ有様である。即ち資本主義を放任しておく、社會に不必要な生産をすることがあり、又必要な生産をなさない事がある。さうした個人企業の缺點に對して國家は干涉を試みねばならぬ。勞働憲章は第九條に之れを規定して云ふ。「經濟的生產に對する國家の干涉は、個人的創意が缺如し又は不完全なる場合、又は國家の政治的利益を危殆に陷れる場合にのみ行はれる。かゝる干涉は監督獎勵又は直接行政の形態を取ることを得」。これが大體に於て産業統制の方針であつて、フアツシヨはあくまで個人企業を中心として唯その足らざる所を補ひ、餘れるを制限し、國民全體の利益の爲に經濟的調節を行ふものであると云ふことが出来る。従て若しそれを云ひ表はす

に適當なる言葉を求めるならば、所謂生産の國家的合理化であると云ふことが出来る。

かくの如き生産統制と同時に、ファツシヨは分配的統制を行ふ。近世の國家は到る處に分配に關する勞資の闘争が行はれる。所謂階級闘争と稱して國家産業の成績を害すること夥しい。従てファツシヨはこの勞資階級に對して、その妥協の道を拓き、國家は資本家の利己主義を許さず、勞働者の利己主義も許さないといふ方針に基いて、兩者の利己主義の主張に對して彈壓を加へ、彼等をして互に讓歩せしめ、共に協力して國家の富の生産に従事せしめようといふのである。

此の目的の爲に、國家は資本家と勞働者とを同一地位に置き、勞資兩階級各々獨立に組合を作らしめ、更に最後に兩種の組合の接觸を計るがために、コルボレーション即ち協働體を作り、この兩種の協働體より同數の代表者を選ばしめて、之れを協働省に於て會合協議せしめ、國家の産業及び勞資の協調に就いて相談合せしめる計劃を立てゝゐる。勞働憲章第四條は此の精神を規定して云ふ。「生産の各主要素間の聯絡を具體的に表現するものは、雇主及び勞働者の相反する利益を協調し、高次の利益に従屬せしめることによつて達成せられる團體協約である」

この勞働憲章を基礎として作られたる分配上の國家統制は、又同時に生産の上に利益を及ぼすことは云ふ迄もない。即ち勞資兩階級が互に調和するといふことは、産業の發達の上に直接の利益があるだけでなく、更にイタリーが戦後に遭遇したる經濟恐慌の場合に於て、どうしても實行せねばならなかつたデフレーション即ち通貨の縮少の場合に、當然物價は下るとしても、勞働者の俸給の縮少がこれに伴はれなければ産業は立ち行かない。然るに協働省があつて、勞資階級の間に意志の疏通を計り、團體協約の改締が素直に出来る制度にある爲めに、賃銀引下げを行ふのに、勞働者の承諾が比較的容易に得られる譯である。この點が當時のイタリーに役立つたこと非常であつて、協働國家の生産に及ぼす利益は大であつた。

(三)、イタリヤの統制經濟は分配の統制が主であつて、生産の統制は比較的完全に行はれない。即ち生産は個人企業を原則とする結果、生産を統制する場合は、個人企業の力だけでは不十分であるから、之を補ふ爲に、國家の統制を行ふと云ふのが原則であつた。勞働憲章第九條は之れを規定してをる。そしてイタリーが最も力を入れたものは先づ農業上の奨励である。之が爲にムツソリニーは先づ外國の農産物の輸入に對して戰を開いた。之れを「小麦の戦争」

之が爲にムツソリニールは先づ外國の農産物の輸入に對して關を閉じた。之れを「小麥の戦争」

と云ふ。その方法として最も有效なものは、沼地の埋立てであり、昔からマラリヤの發生地として嫌はれてゐた沼地は機械の力によつて水を汲み取り、そこにデンマーク式の新農場を作つて、盛んに耕作を始めた。その經費は政府がその七割五分を負擔し、縣が一割二分五厘を負擔し、所有主が等しく一割二分五厘を負擔するといふ割合である。この工事に對しては政府が自ら指導の任に立ち、公共事業として之を完成せしめた。

その結果として得られたる效果は偉大であつて、その得られたる新地は全國面積三千百萬ヘクタールの中、二百三十八萬五千ヘクタールであると云ふ。その結果マカロニを食べるイタリアが、もはや外國品を完全に驅逐して、國產小麥だけを以て十分とする様になつた。

更にイタリアは工業に於ても非常な進出を見た。工業上に於ける國家の統計は保護貿易とは意味が違ふ。保護貿易は單なる特殊産業の保護獎勵であつて、輸入税を増加し、助成金を與へることが、その主なる仕事であるが、それが如何なる影響を國家全體の産業に與へるかと言ふことは全く顧られない。それに反して經濟は、國家の全體の利益の上に着眼して、その保護獎勵を行ふものである。そこに兩者の差別がある。従つて統制經濟の場合は國家の干涉は、個人

の利害が國家の利害と一致しない場合、或方面に於て個人の創意が需要に適さないと考へる場合に於て、始めて起るのである。時としては或地方に勞働者があり餘つて、他の一地方にそれが不足してゐる場合の如きは、政府がその勞働者を移送してやる。又或地方に生産過剰がある場合には、政府はその方面に於ける工場の設立許可を取消すであらう。

産業國家統制は確かに産業の合理化である。この合理化の結果として、産業は機械の力を増加するため、勞働者はその職を失ふに到る。これが獨逸の産業合理化の弊害であつた。イタリアでは能率改善の結果、解僱された勞働者達は政府の力によつて新しい就職口にありつくこととなる。

更に注目すべき産業統制の一現象は、國家が公共事業を起して、失業勞働者をその方面に引き附けたことである。殊に貯水池を作るとか、沼地を埋立するとか、道路の改築をするとか、電化計劃をするとか、その方面に失業者を使用したことは、非常に生産を助けた。殊にイタリア北部に於て、水力電氣を起したことは、石炭のないイタリアに對して非常なる効果を及ぼした。

銀行業に於ける統制經濟は、やはり個人企業を基本とする原則を守つた。個人の創意が公益に役立つことが不可能と考へられた場合にのみ、國家の干涉によつて、その缺點が補助されるのである。故に金融業に對する國家の統制經濟は、個人の事業の力の及ばない若干の金融機關を創設したことである。從て官設、半官設の金融機關に國家の働きは相當その重要性を増加した。唯政府の信用が重大なる爲に何人もそれに對して弊害を感じなかつた。

殊に政府は銀行の破綻に對して極度の保護を與へた。從て政府の保證のすぎることから来る弊害、即ち銀行家が投機事業に手を出して、成功すればその利益をせしめ、失敗すれば政府の助力に頼るといふ様な非難もないではなかつたが、何しろムツソリーの偉力は其等不都合なる銀行家を戰慄せしめるに充分であつて、立ち處に處分されること、殊に刑事上の罪人として嚴罰されることを恐れて、其等の弊害はないのである。これ等凡ての生産に對する統制の結果は、各方面に於ける産業の勃興を來した。その成績は下の如くである。

一九二二年から一九二七年迄の間に伊太利の生産は四割一分増加した。その間にフランスでは僅かに四割しか増加してゐない。ドイツでは三割六分五厘しか増加しない。合衆國では二割

六分、英國では一割六分五厘しか増加しなかつたのである。イタリーの製成品の輸出は一九二二年には一四八、六三四、〇〇〇であつたのが一九二九年には三三六、三二七、〇〇〇となり一九三〇年には二五八、〇八〇、〇〇〇、フランスでは一九二二年には一、〇〇五、五三四、〇〇〇であつたものが一九二九年には一、二三八、七二四、〇〇〇であり、一九三〇年には一、〇五四、二七〇、〇〇〇である。これは凡て弗單位であるが、イタリーの産業勃興の形勢は諸外國に比して非常に著しいものゝあることは明らかである。

(四) かくの如く統制經濟には何としても強固なる國家の權力が必要である。而もその權力は一人の獨裁者の手に握らねばならず、而もその獨裁者は偉大なる人格の持主であらねばならぬ。即ち國家全體の經濟を一人の意志によつて動かすと云ふならば、それは國民の深き信任を得て居ねばならず、國民は又之れに對して絶對服従の義務を持たねばならぬ。これと反對に、その獨裁主義者は國民に對して絶對服従を要求すると共に、非常なる責任を負擔せねばならぬ。ムツソリニーがそのモットーとして「信んぜよ、服従せよ、奮闘せよ」と叫んだ他の一面には彼自ら一大責任を痛感してゐるのである。ムツソリニーはその機關雜誌「ヒエラルキー」(位階關

係」を發行し、その第一號に説明して云ふ。「位階關係(階級)と云ふ時は、それは人間の價値の段階を意味するものである。従て責任と義務の階段を意味するものである。その結果として訓練を意味する。歴史は階級の連鎖に過ぎない。階級は生れ、發達し、衰微し、そして死滅する。我等の仕事は二重である。即ち一方にはその價値を失はない階級を支持すること、新しい階級の登位を準備することである。これが有用に過去と將來とを結び付ける方法である」

かくの如くにしてムツワリニの獨裁主義は、權利本位ではなくて、義務本位である。彼は

國民に對してファツショの三綱領として下の如く云つた。(一)我等の精神は祖國、本分、規律、

(二)我等には義務あつて權利なし、唯自己の義務を遂行することを主張し得る權利あるのみ、

(三)我等は實行あつて議論なしと。彼の政治が責任と義務とから出來てゐるを説いてゐる。

要するにイタリーの經濟國家が圓滿に進行してゐると云ふ事は、その獨裁者が全く憂國の志士であつて、私心なき誠實さを以て之を治め、又國民も之に對して絶對の信任を表明することから來てゐるのである。もし假に私心ある者が獨裁政治を行ひ、殊に統制經濟を行つたとするならば、その權力を濫用して、如何なる富でもくすねることが出來るであらう。かくの如き

獨裁主義を稱して專制政治とも云ひ、又虐政とも云ふ。これは獨裁政治の墮落した形であつて、かくの如き政治は到底永續性のないものである。ナポレオンが十五年間の獨裁政治を行つて、ウオタールーの戰に没落して、セント・ヘレナに流されようとした時、その私財なるものは數萬フランの借金だけであつた。ラフィットといふ實業家が駈附けてやうやく彼に金を與へて、當座の不自由がない様にしたと云ふ。かうした偉人の裏面には、強烈なる義務心が潜んで居り、この責任感あればこそ、偉大なる功名もなし得たのである。

今日の口に獨裁政治を説く者の非常に多いに拘らず、偕てその任に當らんとする人のないのは、かうした無私の人格者の缺乏の爲である。若し假りに今日の既成政黨が統制經濟をやつたならば、日本の富は一日にしてなくなつて了ふであらう。従てファツシヨは道德を以てその根幹とし、全身これ國家を以て任する大人格者を以てその中心とせねばならぬ。そこにその實現の困難さがある。

四 勞働者を國家に呼戻す政策

近世國家は共通の缺點を持つてをる。それは資本家と勞働者とが國家の外にあつて、動もすると國家を自分達の權力の下に征服しようと企てゝゐることである。大戰前資本主義旺盛の時代には、資本家が國家を自分のものにした。世界大戰後の歐洲に於ては、之れとは反對に勞働者が組合を作つて、國家を其の權力の下に置いた形である。此等の勞資階級は國家の中にゐることを欲しない。國家の外にゐて、國家そのものと對立する形であつた。資本家は世界大戰に於て一敗地に塗れ、全く國家に降参した形であるが、勞働者に到つては、今日迄動もすると國家の外にゐて、國家を敵國の如く考へ、之れと力を較べ、あはよくば之れを征服せんとする形勢にある。ロシヤは明らかに勞働者によつて國家が征服された形であり、一九二六年に起つた英國の總同盟罷業は同じく勞働者が國家を征服せんとした第二の企てであつた。當時英國の勞働組合にはその會員が八百萬人に達し、當るべからざる勢を有し、その代表者が英國首相ボールドウィンと會見した際の如きは、殆んど國際談判の觀があつた。首相ボールドウィンは數じて、勞働組合は國家内の國家であると云つたさうである。然し實際はそれは國家外の國家なのである。

伊太利の協働大臣ボツタイは説いて云ふ。「歴史的に考へれば、デモクラシーも亦その歴史的職能を行つてゐる。フランス革命前の専制國家は、唯君主と僧侶と貴族との國家であつて、所謂當時のブルジョア即ち市民はその外に立つてゐた。これを國家に編入したるものはフランス革命であつて、即ちデモクラシーの功績である。ファッシヨ國家は今やブルジョア及び勞働者の兩階級を國家内に編入して、彼等が國家を征服せんとする危険を防ぐものである。」

然しながら伊太利のブルジョアはファッシヨ革命以來全く國家に征服され、その中に編入されて了つた。勞働階級も亦大部分ファッシヨ國家の中に立戻つたけれども、舊共產系や社會主義系の勞働者は未だファッシヨ國家に信服せず、之れに反抗の氣勢を示してゐるかの觀がある。

現にムツソリニーが權力を執つてから、彼は四回の暗殺の企てに會つた。それは唯一回、軍人が彼を狙撃しようとした場合もあつたが、多くは社會主義者がフランスの國境から潜入して彼を殺さんとしたのである。その中でも彼の通路の最も狭き曲り角に待伏せして爆彈を投じた場合の如きは、運轉士が倒れてムツソリニーは辛うじて救はれた。その加害者を捕へて見れ

ば、某國の士官の持つピストルを携帯してゐたと云ふ。ムツソリニーはイタリーの各地方に命じて、某國の大使館や領事館を防禦せしめたが、不幸にしてヴェネチヤの某國領事館に命令するを忘れ、この爲に青年が某國々旗を引下して之れに侮辱を加へるといふ出来事迄惹起した。無論某國は抗議を申出た。ムツソリニーはその青年を叱りおくといふ名義の下にローマに召集し、却つて署名した寫眞を彼等に與へて無事に歸へらしたといふ話である。

かうした社會主義労働者の反感を柔げ、何とかして彼等をもう一度國家に立歸らしめて、彼等を天下の良民にしたいといふのが彼の政策である。この目的の爲に彼が第一に考へたのは、ドボラヴォーロ即ち「労働の後」といふ制度である。この制度には色々な種類があるが、こゝには四つのものを挙げる。第一は、先づ労働者が其の労働の後に慰安をとるべきクラブの制度である。これは各職業別に、地方々々に、國家の經費を以てクラブを立て、そこには労働者がスポーツを爲す設備を設け、また球撞きも出来ればカルタも出来、凡ての遊戲が出来る様にしてある。そこには活動も芝居の設備もある。又職業教育の夜學もあれば、外國語研究の講座もある。そこでは湯にもはいれる、飯も食へる、泊ることも出来る。私はローマで保險及び鐵道

のクラブを見たが、極めて善美を盡したものであつた。

その鐵道のクラブで、日曜の午後家族の慰安會がある。そこには勞働者の夫婦が子供を携へて見物に行く。その子供の中から選拔された或者が、ベーチェントをしたり、遊戯をやつたり、芝居をやつたりして、日曜の午後をステーチの上で遊び暮す。何せよ、藝術の國イタリーである。その照明から服裝から音樂まで、善美を盡し、而もその催しが濟んだ後で子供達にお土産迄くれる。それはまるでクリスマスの催しのやうである。教會が子供を接待するに何の不思議もないが、國家がかうした催しをすると云ふことは私には意外の感じがした。教會は女性であり、國家は男性である。その男性の國家が、母の如き優しい懷の中に無産者の子供を抱き取る。その柔かみ、その溫み、そこにムツソリニーといふ苦勞をし盡した政治家の、無産階級に對する優しい同情がある。

概してイタリー人はお祭好きである。殊にムツソリニーはこの點に關しては、經費を惜しまないかの感がある。ローマの守護尊者聖ヨハネの祭の爲に、國家が懸賞の歌を募集した。それは歌詞と樂譜と兩方である。私はその發表會に出たことがある。何せよ音樂の國イタリーのこ

とであるから、その應募者も非常な多数に上り、懸賞當選者にも非常な優秀なのがあつた。その中にムツソリニーに關しての一つの歌があつた。或勞働者の寡婦が八歳の子供を育てゝゐた。可哀さうに、その子供は生れながらの不具者で腰が立たない。子供は是非隣家の友人の様にバリラの隊に加はりたいと云ふ。母は「お前は立つことが出来ないから入隊は不可能だ」と云ふ、子供はどうしても聞かない。せめてドウツエ（イタリ語のリーダーの義で、ムツソリニーの尊稱）の姿を拜みたいといふ。たつての願に、母は子を負ふて大道に出た。その事が新聞に出た。ムツソリニーは之れに感動して、二着の黒シャツをその子供に贈つた。歌詞はその親子の間答を書いたもので、歌つたのは或イタリーの女優であつた。勞働者の服裝をして、悲壯な聲を上げて、自分の子供の不具を數ぐところ、イタリ語の分らぬ私にも、思はず涙が催された。これも皆ムツソリニーが民衆の心を捕へんとする企である。

次のドボラボーロ（勞働の後）の仕事は、テスビの車といふものである。即ち白色に塗つた細長い貨物自動車の中に、芝居の道具一式を載せて、それでイタリーの津々浦々迄地方巡業する。役者は一流の人々であるが、何せよムツソリニーの意志を體してやるのであるから少しも

威張つて居らない。モスコイでは一年に一回、勞働者は必ず一流劇場の見物が出来るさうだが、イタリアでは地方巡業をするから、津々浦々迄天下の名優の聲を聞くことが出来る。芝居ならば三臺、歌劇ならば六臺の貨物自動車である。私はローマでこのテスビの車の芝居を見たことがある。それは夏の夜のボルデーズの別荘と呼ぶ公園で行はれた。その公園はナポレオンの妹ポーリンが嫁入したボルデーズ公爵の邸宅で、一里四方に渡る大庭園のその真中には、有名な美術館があり、その庭の一隅で歌劇の興行が行はれたのである。

ローマの夏は雨が降らない。夜は涼しさをとるための好散歩時期である。ワットオの繪にある様な樫の大森林、その緑の敷物とも云ふべき芝生の上には、半野外劇の簡単な劇場が組立てられてゐる。それがテスビの車の劇場である。観客は三千人もあつたらう。その一番前の芝生の上には、ムツソリニーも見物に来てゐた。一流の名優が歌ふリゴレットの一曲、而も曲はイタリアの歌聖ヴェルディの傑作で、南國の情緒が美しい樂譜の間に波打つて、ローマの夏の夕べ、三千の聴衆は唯夢の如く聞きとれてゐた。そのオーゲストラから流れ出る名曲の節々、そこには勞働者の恨みも、階級の惡しみも流れて了ふ一種の魅力が確かに聞きとられたのである。

は勞働者の性にも階級の惡しきも流れて了ふ一種の魔力が確かに聞きとられたのである。

次の「勞働の後」の仕事は旅行である。イタリアは天下に知られたる藝術の國である。從て如何なる都市にも、ルネサンス時代の名畫や彫刻や名建築のない所はない。だから外國人は高い金を出して、わざ／＼それを見物に行く、全歐羅巴は云ふに及ばず、南北アメリカからも、東洋からも何千里を遠しとせずに見物に集る。所がイタリの無産階級はそれを見たことがない。丁度東京の貧乏人が京都や大阪を見たことがないのと同じである。そこでムツソリニーは之れを氣の毒に思ひ、日曜日毎に、三等の特急列車を出して、七割引の汽車賃で、イタリアの無産階級にイタリアの見物をさせる。ローマのものはネーブルスへ、又フロレンスへ、ミランのものはヴェネチヤへ、フロレンスへといふ風に、十リラの賃銀を三リラで旅行が出来るのであるから、無産者の喜びは例へやうがない。毎日曜滿員で、大抵前以て切符を買はねば、當日は乗れないといふやうな盛況であつた。これも苦勞人の政治である。

他の「勞働の後」の制度は病身の子供に對する國家の特別なる保護である。街の勞働者の子供であつて、その性質の虚弱なものに對しては、國家が毎夏一ヶ月間、海岸に於て保養させる。イタリアは雨の降らない國であるから、子供にテント生活をさせ、バラックで飯を食はせれば、

大抵四五人の嫁母で、二三百人の子供の世話が出来る。その子供の喜は非常である。私の住んでゐた家の門番の子供が一ヶ月海岸へ行つて眞黒になつて歸つたので、親達は大喜びあつた。

此れ以外にも、夏期になると、都會の子供は日曜毎に無料で、海岸にピクニックに出掛ける國家の制度がある。私は屢々子供を滿載した列車が、ローマの停車場から出掛けて行くのを見た。

かうした國民の憂苦をいたはる仁愛の政治、それが世界の何處にあらうか。フアツシヨは確かに苦勞人の政治である。之を見る者は必ず國を思ふ誠意に泣かされるであらう。

かくの如きムツソリニーの努力は、要するに彼の政治の目的たる協働國家を作ることにあつて、此の國家のうちで最も協働の精神に同化し難い分子は即ち勞働者であるから、これをして精神的に協働國家に同化せしめない以上、フアツシヨ政治の目的は達せられないからである。要するに此ムツソリニーの四の國家は皆彼の全體主義の現れである。

第四章 ヒットラーとナチス運動

一 ヒットラーの人物

ヒットラーは素と獨逸人ではない。彼は獨逸の隣國オーストリア人である。オーストリアには戰前種々の人種が住んで居た。其の支配民族は獨逸人であつて、他の洪牙利人とかチエツコ人とか、セルビヤ人とかは、埃太利敗北の結果として、今日は皆獨立して、純粹なる獨逸人だけが小なるオーストリア國を形造つて居る。ヒットラーは其のオーストリア國の西境南獨のバイエルン州に近きブラウナウと云ふ小さな町に生れた。

彼の父はオーストリアの税關の官吏であつたが、素と百姓出の眞面目な人物であつた關係から、其の息子も亦官吏に仕立てようとした。所が息子は繪が好きで、藝術家氣質の男であつた關係から建築技師に成らうと云ふ志願を起し、自由を束縛される官吏と成ることを嫌つた。其の爲に親子喧嘩が絶えなかつたが、とう／＼父が死んでから自由の身と成り、首府ヴィーンに

出て、美術學校の入學試験を受けた。所が幸か不幸か見事落第して了つた。そこでヒットラーは身を労働者に落し、建築の手傳をする労働者となつた。

労働者となつて第一に彼の體驗したるものは労働爭議であつた。彼はストライキを勧められ、之れを拒絶した爲に、其の職を二三回失つた。此の爭議に於て彼は労働者の間に行はれるマルクス主義の議論を聞いて戰慄した。これは確かに人類に投げられたる毒ガスであると云ふことを感じた。そこで彼はマルクス主義の研究に従事した。素と頭腦の優秀な男だけに、此の社會哲學を克服して得た所の結論は、要するにマルクス主義はユダヤ人の復讐哲學であると云ふことであつた。

そこで彼はユダヤ人とは何ぞやと云ふ問題に疑問を持ち始め、これを徹底的に研究したる結果、獨逸の惡文學の十中の八九は悉くユダヤ人の手に成つてゐることを發見し、此の獅子身中の蟲なるユダヤ人を驅逐しなければ、到底獨逸兩國は救はれる事なしと確信するに到つた。即ち彼はユダヤ人を研究して其の民族に關して下の如き判斷を下した。即ちユダヤ人は擱へ所のない嘘つきの名人であつて、丁度水母クラゲの如きものである。これを捕へれば指の間から逃げ出して

そして水に泳いで毒を吐いて居ると云ふ性格を有す。若し此の民族が依然として獨逸民族の間に居る限り獨逸は浮ぶ瀬がないと見たのである。

かうして見地から彼はユダヤ人とマルクス主義を徹底的に撃滅すべき事を自分の使命と感じたのである。かくして居る中に世界大戦が始つた。彼はオーストリア軍に加はるよりは獨逸軍に加はる方が氣持よく感じた。それは彼はオーストリアの皇室ハプスブルヒ家に對して一種の反感を持つて居たからである。彼は平常から此の皇室が動ともすると、オーストリアの他の民族に媚びて、獨逸民族を輕することを不快に思つて居たのである。かくして彼はバイエルンの軍隊に加つて聯合軍と戰つた。非常に勇敢で決死隊の組織された時に彼の加つて居らない事はなかつたと云ふ位であつた。三度傷ついて其の第三回日は毒ガスに眼をやられて、病院の中に眠つてゐる中、遂に平和と成つたのである。彼は獨逸軍が降つたと云ふ事を聞いて、非常に憤慨したと云ふ。

戰後彼は拔擢されて士官となり、兵士の教育を托された。其の頃獨逸は革命中で、新しき政黨が雨後の筍の如く起つたので、兵士の政治思想を取締る目的から、毎日バイエルン州の首府

ミュンヘンの町に出て政談演説を聞いて居た。或日彼は新に出來た獨逸勞働者黨(ドイチエ・アルバイター・パルタイ)の政談演説會を聞いて居た。それは黨員僅か六名の小黨であつたが、一人の大學教師が立上つて、バイエルン州は獨逸から離れてオーストリアと合併して獨立すべきだと云ふ演説をするのを聞いた。これは獨逸を弱くする爲のフランスの宣傳である。これを聞いたヒットラーは憤然として立上り、これに對して猛烈なる反駁を加へた。其の演説は一大傑作であつて、其の聴衆を驚かした。そこで獨逸勞働者黨の人々は彼の政治的材能を認め、頻りに入黨を勧めた。

今日に於てもヒットラーの雄辯は歐洲第一である事をフランス新聞が賞讃してゐる。私は嘗てベルリンに於て屢々彼の演説を聞いた。ポツツダム・シュトラッセのスポーツ・パラスト(體育宮殿)に二萬人の聴衆を集め、それで足らずに更に七千五百人をテニス・ハレーに集めて、始めはテニス場に顔を出し、演説はスポーツ・パラストでやつて、テニス場の方はラデオで聞かせると云ふ方法を取つて居た。此の二萬七千五百の聴衆が皆一マーク(當時五十錢今日一圓強)の入場料を拂つてゐるのだから驚くべきではないか。其の演説は一言一句悉く喝采である。確

かに此の雄辯はヒットラー成功の第一の原因である。

ヒットラーは入黨の勧誘を受けて、兵營に歸つて夜眠すに考へた。自分は建築技師に成らうか、抑も又政治運動をやらうかと考へた。鼠がパン屑を追かけて騒いで居る音を聞きながらベツトの中で夜中考へた。そして遂々政治運動をやることに決めて、其の結果として今日は獨逸の宰相から轉じて大統領に成り、三千七百萬の投票を集めて、一國一黨主義を實行すると云ふ所迄行つたのである。其の成功も亦驚くべきではないか。従て英雄は決して母の生む所のものではない。それは社會が生み、時局が生み、殊に國難の生む所のものである。

かくしてヒットラーは政治運動を始めた。而も軍人と一緒に政治運動をやつた。殊にヒンデンブルグの參謀長であるルーデンドルフと一緒になつて風雲を捲起した。其の爲にベルリンの社會民主黨の政府は頻りに心配を始め、バイエルン州の總督に警戒を命じた。

それは一九二三年十一月八日の晩であつた。ミュンヘンのビアホール（ミュンヘンはビールの名産地で三千人からはいれるビアヤホールがある）に市民を集め、バイエルン總督ドクトル・カールは頻りに聴衆に訓示演説をして居た。するとたちまち一群の青年が會場正面のドア

ーを排してどや／＼と入込んだ。彼等は突然一臺の機關銃を場の眞中に据ゑ付けた。隊長ヒットラーは二挺のピストルを兩手に持つて、演壇の方に近づいて行く。一人の警部が突然ヒットラーの腕に飛付いてピストルを奪取らうとする。兵隊上りの彼は腕力に秀れてゐたから、たちまちこれを叩き倒す。仲間が集つて警部の武装を解除する。

ヒットラーは驚いて演説を中止してゐる總督に近づき、これと軍司令官と警視總監の三名を別室に招き、卓上に四發のピストルの弾を並べて云ふには、「此の三發は諸君の爲である。後の一發は失敗した時の自分の爲である。諸君は我輩と共にクーデターをやらないか」と。クーデターは上から来る革命であり、レヴオリューションは下から来る革命である。軍司令官は問ふた。「ルーデンドルフ將軍の態度は如何」と。「無論我輩の味方である」と。其の時丁度ルーデンドルフが馬車で驅つて、三人に説いて云ふには「我輩も實は全く不意を打たれたのである。然し事ここゝに到つては如何ともし難いではないか」と。そこで三人も不承無承に承知して了つた。

そこでヒットラーは二挺のピストルを兩手に持つて演壇の上に現はれ、聴衆に向つて云つた。「諸君今日より我輩が獨逸の宰相であり、ルーデンドルフ將軍は獨逸の軍司令長官であ

る。」と。

此の光景を實見して居た人の話に依ると、聴衆はあきれてゐたと云ふよりは寧ろ大喜びであつた。其の理由とする所は丁度其の頃獨逸はインフレーション時代であつた。インフレーションとは、大戰當時に無暗矢鱈に不換紙幣を發行し、戦後之れを廢止する積りで輪轉機の續く限り紙幣を増發したのである。従て其の價格が下落した結果、百萬マーク、十億マーク、一兆マークと云つた様な札を出した。嘗に國家が紙幣を發行したばかりでなく町村も亦小單位の紙幣を發行した。中には我國の川柳の様なものを書いた紙幣が出て居る。従て一家の主婦が買物に出るのにトランクに札を一杯入れて、さてこれを以てパン半片が買へるか否かを疑つたといふ。殊に其の價格の動搖が甚だしく、朝七階の家を賣つて、午後半斤のバタが買へなかつたと云ふ。今日ベルリン近郊の人は一軒の家を賣つて明日町へ出る切符が買へなかつたと云ふ。誰れでも斯の如き場合には實物を持つて居るのが一番確實である事を知つて居る。然し紙幣を眼の前に山の様に積まれては家や屋敷を賣らない譯には行かぬ。かくして今日はあの立派なベルリンの建築の半ばは外國人殊に和蘭人の手に渡つて了つた。

かうした状態に於て政府は其の紙幣を一時に廢止した。其の結果として獨逸人の百人中九十人迄は無産者に落ちて了つた。即ち銀行預金も零となり、郵便預金も零となり、公債も零となり、貸金も零となり、持金も全く零となつた。戦前の獨逸は金が唸つて居た。然るに戦後の獨逸は誰れとて百萬や十萬の金を失はない者としてなく、全部が無産者となつた。従て彼等の望みは如何にかして尙一度中産階級に成り度いと云ふ事である。それが爲には政府の變革より外には望みがない。そこにヒットラーのクーデターに對して同情が湧いた理由がある。

所がヒットラーは例の三人の官吏を解放した。彼等は家に歸へるとたちまちベルリン政府に電話をかけてヒットラー討伐の許可を受け、軍隊を動員して其の捕縛に向つた。軍人の同情を持つて居たヒットラーは豊富なる爆彈を所持してゐたから市街戦に於て勇敢に戦つたが、衆寡敵せず同志十六名を失ひ、自分も腕に傷ついて山中に逃れ、森の番人に捕へられて裁判所に引かれた。ルーデンドルフ將軍は軍功に依つて無罪となつた。彼はこれを「軍服に對する侮辱である」と云つて憤慨した。ヒットラーは五ヶ年の禁錮に處せられた。然し九ヶ月にして遂に保釋となつた。

此の九ヶ月の牢獄生活はヒットラーの爲には非常に有益であつた。此の間に於て彼は自分の取つた行動に對して冷靜な批判をなすことが出来た。即ち獨逸人はイタリヤ人とは違つて、暴力ファツシヨでは駄目である。先づ議會運動に依つて輿論を獲得し、然うして後に獨裁政治に轉すべきであると考へた。又此の九ヶ月間に於て彼は自叙傳を書いた。それが彼のマイン・カンプ（私の闘争）の一卷である。これは彼の政治運動以來讒誣中傷の記事が新聞雜誌に現はれたが、此の書はこれに對する一つの答辯であり、これによつて彼の出處進退を明かにすることが出来た。彼は小學教育以外には學校生活を知らぬ。それにも拘らず深き教養を持つて居る事が此の書によつて知られる。殊に彼は藝術家的の心理觀を持つてゐる所に彼の著者の興味がある。彼は確かにセルフ・メイド・マンの一人であつた。

二 ヒットラー成功の原因

九ヶ月の禁獄で保釋出獄したるヒットラーは、其の同志が左右兩翼に分れて互に争ふ事を見た。彼は數ヶ月の沈黙の後に漸く其の同志を和解せしめて、再び陣様を立なほすことが出来た。

た。然し其の保釋期間中はやゝ遠慮の氣味であつたが、一九二八年後に於ては再び猛烈な運動を始め、此の年の選舉に於て十二名の同志を議會に出した。更に一九三〇年には代議士の數が一躍一〇七名に増加し、一九三二年の七月三十一日の選舉に於ては其れが二百三十名に増し、同年十一月六日にはやゝ減退して、一九六名に減じたが、翌三十三年一月三十日一度政權を取つてナチスの内閣を組織する事になると、三月五日を以て總選舉を行ひ、黨員二八八名に激増し、其の勢を以て五二名の獨逸國權黨を合併し、こゝに議會に絶對多數を得る事に成るや、凡ての他の黨派を解散せしめてこゝに一國一黨主義を實行することとなつた。そして一九三二年の大統領選舉に於ては彼は一千三百萬票の投票を集め得たに過ぎなかつたが、一九三三年の十一月に於ける國際聯盟脫退の人民投票に於ては彼は三千七百萬の投票を集める事になつたのである。其の進歩の勢は丁度洪水の澎湃として何物も抵抗する事の出来ないすさまじさであつた。

かうした成功の原因は確かに彼の雄辯が其の第一であり、彼のクーデタルに見られた大膽不敵な膽略が其の第二であるが、其の第三の原因とも見做すべきものは彼の組織の才である。彼

の陣營は左右兩翼に渡つて居ると云ふ事が出来る。先づ其の最右翼に資本家黨が居る。彼等はミュンヘンの町が屢々共產革命によつて脅やかされた事の原因から、非常に左翼に對する恐怖を有し、ヒットラーが國民運動を以て猛烈にマルクス征伐を始めると共に、盛に軍資金を提供してこれを應援したのである。殊にライン地方の重工業家チーセンは彼の大パトロンであると云はれて居る。

次にプロシヤの王室も亦彼の味方だと云はれて居た。一九三二年の大統領選舉の際の如きは前の皇太子はポツツダムに來つて盛に其の同志にヒンデンルクに投票せずしてヒットラーに投票することを勧めて居た。只一九三四年六月三十日發覺したレーム大尉一派の突撃隊の幹部がヒットラーに叛いて社會主義を實行せんとした陰謀には前獨逸皇帝や皇太子が加膽したと云はれたが、果して其の真相が如何であるか明白ではない。

次に來たるものは獨逸の貴族や農民である。殊に北部ポメラニヤ州、東部ポロイセンの農民は殆ど全部ヒットラー黨と云はれた。

次には獨逸の學生であるが、其の八割は完全にヒットラー黨で、殘部の二割が共產黨及び社

會民主黨であつた。教育ある學生としては獨逸が漸次衰微して行くのを見てゐる譯に行かなかつたのも當然である。此の點は滿洲事變前の我國とは全く反對の傾向であつた。

次には獨逸の商工業上の使用人であるが、これは殆ど全部ヒットラー黨であつたと云つてよい。

最後に來たる者は工場労働者であるが、これは多數は共產黨で次は社會民主黨であつた。殊にベルリンに於て然りであつた。只共產黨の一部がヒットラーに走つた。私は或黨員の共產黨から來た者に其の轉向の理由を尋ねた。彼は答へて云つた。共產主義は理窟としては面白い。然し實際は駄目である。けれども共產黨から脱退すれば殺されて了ふ。ヒットラーの陣營にはいれば保護してくれるから其の心配はない。これが共產黨員の轉向して來る理由である。

かうした廣汎に渡つたヒットラーの陣營は一度權力を取る様になつてから、其の勢が壓倒的となり、遂に一國一黨迄押寄せたのである。その最も大なる成功の原因は其の黨内の組織であつて、其の組織の主なるものは三十萬人の突撃隊員である。これは失業せる青年を糾合してこれを軍隊的に訓練したものである。名は一種のスポーツ隊と稱してゐるけれども、實は舊プロ

シヤ軍隊の精神を傳へて、鐵の如き圖志が溢れてゐると云はれて居る。彼等は毎週の末日に行軍を行つてこれを週末演習と云ふ。それは夏も冬も野外に野宿して軍隊教練を行ふ。只彼等は武器を携へないだけで、右手を革帶の上に當てゝ何時でも銃を擔ふ事が出来る様な姿勢をして居る。恐らくは獨逸十萬の正規兵よりも他の十五萬の警察隊よりも更に勇敢なる軍隊ではないかと云はれて居る。彼等は茶褐色のシヤツとズボンを着け、ゲートルを穿き、學生帽に似た帽子を頂き、勇壯にして水火を物とせず突進すべき氣魄に溢れてゐる。彼等は常に共產黨と闘つてこれを征服したのである。従て數百の死人と數千の負傷者を出した。ヒットラーが今日の如き成功を得たのは全く彼等の御蔭である。

ヒットラー成功の第四の原因と云ふべきは彼の狙ひ所のよかつた事である。彼は愛國心を説くと共に、勞働者を以て其の味方とした。獨逸の如き工業國に於ては國民の八割は工場勞働者である。従て彼等がマルキシズムに誘惑される危険は充分ある。マルキシズムは勞働者に利己主義を教へて、其の多數の力によつて社會主義を實行せんとする。従てヒットラーも其の勞働者の味方であると云ふ點に於てはマルキストと何の變りもない。勞働者を味方とせずして獨逸

の政治に成功せんとする事は不可能である。従て彼は今日に於ても必ず五月一日に勞働祭を行ふ。一九三四年のメーデーの如きは彼は伯林テムベル・ホーフの練兵場に二十萬の勞働者を會し、鎌とハンマーとゲーテの肖像を掲げて、農民と工場勞働者と知識階級の三者を象徴し、自ら無産階級の味方である事を示し、又働かざる者は食ふべからずと云ふ精神を明にした。只彼のマルキストと異なる所は勞働者にマルキシズムの利己主義を捨てて事を説いて、國家の爲に殉すべき義勇奉公の精神を教へ、其の當然の結果として階級闘争に反對し、階級調和を説いたのである。この見解こそムツリニーにも現はれたるフアツショの精神であつて、要するにムツリニーもヒットラーも此のマルキシズムを征伐する爲に生れ出でたる文化的の一現象に外ならぬのである。

若し社會主義が實行せらるべき最も適當なる環境が世界にありとするならば獨逸の今日以上のものはないのである。何となれば國民の百中九十九は無産階級であつて、而も産業の發達と其の合理化は世界第一である。然るにヒットラーは如何なる誘惑に對しても決して乗ぜられる事なく、徹頭徹尾社會主義の實行を拒絶しつゝあるのである。

従て彼の國民社會主義なるものは只從來の獨逸が餘りに貴族本位、ブルジョア本位であつた事に反抗し、斷然として平等主義の下に其の社會を改造せんとした事にその特色がある。従てナチオナル・ゾチアリスムスを國家社會主義と翻譯するのは大なる誤であつて、我國の青年が動もすれば此の點に於て誤らんとするのは遺憾至極の事である。

ヒットラーの使命の一つは革命の終結と云ふことである。今日の獨逸は殆ど内亂狀態であつた。内亂とは必ずしも一萬二萬の軍隊が相對抗して戦ふからだけではない。十人二十人の共產黨員とナチス黨員とが遭遇するとたちまちピストルを射ち合つて死傷者を出す。そして何人も其の犯罪に對して檢査される者がない。これは巡査が社會民主黨であつて、反對黨が殺されることを見て見ぬ振をして居るのである。或晩の如きは百二十名のヒットラー黨が夜の集會を終つて、夜道を家に歸らんとする。危険だと云ふので警察に電話をかけて六名の護衛巡査を頼み、歸へつて行く途中たちまち共產黨の襲撃に遭ひ、マンジ巴になつて戦ひ死人が出來た。それで何人も罰された者がない。これは革命の末期に於ける兆候であつて、生命財産の安全が全く失はれたのである。

一九三三年頃私が伯林に居た當時には人は窓から首を出すことを敢へてしなかつた。それは反對黨に狙撃されるからである。又アパートの鍵の穴は三つあつて皆これをかけて寢た。其の上に門をかけた。なぐり込みを恐れるからである。これが一七九九年フランス革命の末期と同一の状態である。當時フランス革命はロベスピエールの赤色テロ時代を過ぎて、却つて王黨の白色テロが來らんとし、左右相殺して止まる所を知らない。憲法は中止せられ、法律は行はれず、強盜は各地に横行し、生命財産の安全は全く失はれて了つたのである。其の時此の革命の慘狀に結末をつける爲に立上つた者がナポレオンであつた。彼の十五年間の獨裁政治は全く革命を終結して、こゝに秩序を持來すことになつたのである。ヒットラーの使命は全くナポレオンと同じく獨逸革命を終結する爲であつて、彼の獨裁政治は此の意味に於て其の歴史的必要から生れたのである。従て彼は一九三三年一月三十日政權を取ると同時に、獨逸革命は今日を以て終結すると云ふ布告を出したのである。

三 ヒットラー政權を得

一九三三年一月三十日ヒットラーは遂に政權を得た。三二年の八月ブリュニング内閣は瓦解してパーベン内閣が出来た。ブリュニング迄は所謂ワイマール内閣と云ふもので、社會民主黨と中央黨とが聯立内閣を作つてゐたのである。所謂マルキシズムの内閣であつて、長い間獨逸の經濟的不況を招き、失業者六百萬人と稱する慘狀を呈するに到つた。これに代つたパーベンは素と軍人出で、世界大戰中米國に於ける獨逸大使館付武官であり、獨逸出の米人と結托して盛に米國の開戰を妨げたものである。従て彼は獨逸軍人中に於ける政治家に相違ない。彼は中央黨の最右翼に屬してゐたが、彼の内閣は寧ろ國權黨と中央黨の聯立内閣であるかの形を取つた。彼の内閣は遂に十二月始めに瓦解してシュライヘル將軍が之れに代つた。此の人は自由主義的色彩の強い人で、社會民主主義とも一脈の連絡があつたらしい。さう云ふ關係から大統領周圍の保守的人物から惡まれて、一九三三年一月末、一ヶ月と二十四日間の短命を以て遂に瓦解して了つた。

それより以前パーベン内閣にも、シュライヘル内閣にも、ヒットラーは入閣を勧められたが、あく迄オール・オーア・ナツシング（全部が然らずんば無か）の主義に従て斷然聯立内閣を

拒否して來たのである。然るに三二年十一月の選舉は非常な不況であつて、二三〇名の黨員が減じて一九六名になり、加ふるに同日柏林の突撃隊が俸給値上からストライキを起すと云ふ内輪争動のあつた爲に、一時ナチス凋落の徴ありとして内外に傳へられた關係から、彼も亦やゝ焦り氣味となり、獨逸國權黨の領袖フーゲンベルグと會合し、パーペンを通じて大統領ヒンデンベルグと握手し、こゝに一種の妥協的聯立内閣を造ることとなつた。それが一九三三年一月三十日の事である。此の内閣に於てはヒットラーを首相とし、パーペンを副首相兼プロシヤのコミサールとなして、フーゲンベルグを以て經濟大臣・農林大臣となし、國權黨の鐵兜隊長ゼルテを以て勞働大臣となし、そこに妥協點を見出したのである。それ以外にナチスの身内の者からは下院議長であるゲーリングを無任所大臣となし、空軍を指揮せしめ、兼ねてプロシヤの内相として警察の實權を握らして了つた。別に雄辯家ゲーベルスをして宣傳大臣に任じ、プロンベルク將軍をして國防大臣たらしめた。

こゝで彼はがつちりと内閣を構へたのだがそこには未だ聯立内閣の弱味があつた。従て此の異分子を放逐せねばならぬ。それにはよき機會が來た。それは一九三四年ロンドンに於ける列

國の經濟會議に於てフリーデンベルクがロシヤに對する不謹慎な宣言をなした爲に本國に召歸され經濟大臣の職を奪はれた。又同じく六月副總理パーベンはレーム大尉一派の謀叛に加つたと云ふ嫌疑の廉で、これ又謹慎の身となり、やがてオーストリーの宰相ドルフスが暗殺されると、其後始末をする爲に彼は大使として埃國に派遣され、こゝに完全に異分子を排斥して純ナチス内閣を造る事が出来た。

ヒットラーは一月三十日内閣を組織すると二月一日を以て先づ議會を解散し、其の夜ラヂオを通じて全國民に訴へた。其の演説は彼の來たるべき四年間に於ける施政方針とも云ふべきもので、こゝにそれを略記しよう。彼は云ふ。

「彼の不幸なる日（一九一八年十一月に於ける革命の日）獨逸國民が數多の空手形に眩惑されて、過去の貴き所有物を忘れ、（社會民主黨の政治）獨逸國の榮譽と自由とを捨てゝ顧みなかつた所の彼の呪はれた日より既に十有四年の月日が過ぎた。此の不幸な日より今日迄、天は獨逸國民に其の恵を與ふることを止めた。衰落の運命は容赦なく其の進行を辿つた。恐るべき意欲と嵐の如き暴虐を以て、彼の共產主義のからくりは、それに恐れ戦く民衆を荼毒壊滅せんと

企てた。十有四年の長きに渡つてマルキシズムは獨逸を荒廢に歸せしめた。ボルシエヴィズムが若しこゝ一年續くならば獨逸は遂に亡びて了ふであらう。……………十有四年の長きに渡つて彼の十一月政黨（ワイマールの憲法を造つた諸政黨）は獨逸國民を困窮の深淵に陥入れた。十有四年の間に彼等は幾百萬の失業群を作上げた。

國民政府は鐵の如き決心と不拔の忍耐とを以て下の如きプランを進行せんとする。即ち四ケ年の間に獨逸農民を窮乏の淵より救ひ四ケ年の間に失業を徹底的に克服せねばならぬ。この二つを達成することが同時に凡ての經濟進行の前提である。……………國民政府はこの經濟回復の使命と共に國家及び地方團體の行政財政の改革を使命とする。故に國家は最も鞏固なる全體の上に建たねばならぬ。以上の計畫の核心をなすものは勞働義務の觀念と移住政策とである。

國民政府は確く決心して居る。四ケ年の内に十四年間の罪惡を除去すること、十有四ケ年の間マルクス派の政黨は其の驥足を伸ばす機會を待つた。然し其のもたらしたものは荒廢の燒野原である。獨逸國民よ我等に藉すに先づ四ケ年の時日を以てせよ、然る後に我等を批判し、我等を審判せよ。」

斯の如き覺悟を以て起上つたヒットラーは獨裁政治を行はうと云ふ大決心をなした。従て一方に於ては新聞紙其の他の出版物に對し取締を嚴にし、ストライキを煽動したり、國家の重大利益を害すべき公の不正なる記事を掲げたるものに對しては發禁の制度を設けた（二月六日）。又ナチスの突撃隊を以て警察の補助機關として國家の治安及び取締に任ずる職權を與へた（三月六日）。是は伊太利ファシストと同一である。

同年二月二十七日の夜獨逸の有名なライヒスタツハ（議事堂）に放火事件が起つた。同日の午後に共產黨の打合せの集會があり、夕頃六時に散會した。然るに出火したのは九時四十五分である。彼のビスマークが佛獨戰爭で勝つた償金で建てたと云はれる有名な議會、それはチャー・ガルテンの一方に金色眩ゆい屋根を輝やかして、伯林市の一大名物であつた此の建築の一大傑作も、今は一場の夢と消えなんとして居る。市民は惡魔の焰の舌が金色の屋根から躍り狂つて居るのを見た。それは疑ひもなく共產黨の仕業である。

此の慘劇を機會としてヒットラー政府は翌二十八日を以て獨逸國及及び國家保護の緊急命令なるものを發布し、凡ての自由に關する憲法の保證を撤回し、家宅搜索の獨裁權を宣言した。

これと同時に獨逸中央政府は、各聯邦の治安維持の爲に、聯邦政府に代つて政治を行ふことの命令を出した。疑ひもなくこれはビスマルク以來七十年實行せんとして其の目的を達し得なかつた聯邦廢止、國家統一の事業を一日にして完成したものである。これと同時に共產黨關係者約二百名を検束してこれを監禁して了つた。其の中には共產黨の總理チールマンも居たが、彼は今日に到つても尙獨逸の牢獄に閉籠められて居る。

同じく三月五日には總選舉が行はれ、其の結果はナチスの大勝に歸した。即ち其の得票は二百八十八であつて、これに五十二名の獨逸國權黨の投票を加へると合計三百四十名となり、全議員が六百四十七名であるから、優に過半数を得る事となつた。今其の得票と議員數を前二回の投票に比較して統計を作れば下の如くなる。

政黨	項目	得	票	數	議	員	數
選舉	年月日	一九三三・七・三	一九三三・一・六	一九三三・三・五	一九三三・七・三	一九三三・一・六	一九三三・三・五
國民社會主義勞動黨 (ナチス)		二、七四五、六〇	二、七三七、〇二	一七、二六五、八二三	二三〇	一九六	二八八
獨逸國權黨 (ドイツ・エナチ・オナール)		二、一八六、〇五二	二、九三九、〇一一	三、一二二、五九五	三七	五三	五三

社會民主黨	中 央 黨	バイエルン國民黨	獨逸人民黨	キリスト教徒團	國家黨	共產黨	其 他	合 計
七、九四九、七二二	四、五八九、三六六	一、一九三、〇八四	四三三、一〇三	三六四、五四二	三七一、七九九	五、二八二、六二六	—	三七、一六三、〇八四
七、二四七、九九九	四、二三〇、六四四	一、〇九五、四三七	四三六、〇一四	四〇三、六七四	三三六、四三二	五、九八〇、一六三	—	三五、七五九、〇七二
七、一七六、五〇三	四、四三三、一六一	一、〇七三、八九三	六六一、七九四	三八四、一一六	三三三、四八七	四、八四五、三七九	—	三九、三二六、八七三
一一三	七五	三三	七	三	四	八九	八	六〇八
一一一	六〇	二〇	一一	五	二	一〇〇	七	五八四
一〇〇	七三	一九	八	八	五	八二	一	六四七

かうした結果に於てヒットラーは遂に完全に國民の信任を得るに至つた。此の國民の信任を記念する爲に三月二十一日にポツツダムのガルニゾン・キルへ、（譯せば兵營の教會）に於て開院を擧行した。ポツツダムはプロシヤ中興の英雄フレデリック大王の宮殿のある所であつて、云はゞホーヘンツォルレルン家の京都とも云ふべき所である。従て一九一八年の社會民主主義の革命が「ポツツダムよりワイマールへ」と云ふ言葉で象徵された。ワイマールは社會民主主義

の共和國の憲法を議決した所である。今日ヒットラーがポッツダムに於て議會の開院式を行つた標語は所謂「ワイマールからポッツダムへ」と云ふ、云はゞ維新復古の意味を表はしたものである。然し眞の議會は伯林のクロル劇場即ち焼失したる舊議事堂と相對したるオペラハウスに於て同日開かれたのである。此の開會劈頭に於てヒットラーは二時間に亘る大演説をなし、此の新政府の精神を明かにしたのである。それは徹頭徹尾マルキシズムと共產主義をこき下したものであつて、ナチス運動の精神と見られたのである。其の中の一部を紹介して見ようと思ふ。

「一九一八年十一月マルクス主義的組織は革命に依つて政治の權力を篡奪した。帝王は王冠を奪はれ、國家及び諸聯邦の官憲は其の職務を剝がれ、其の憲法は破壊された。革命の成功は此等篡奪者を司直の訴追から免れしめた。彼等は世界大戰を起した責任は獨逸國家及び其の政府に在りと主張し、其所に彼等の篡奪行爲を道德的に正當とする理由を見出さんとした。然し斯の如き敵國側に有利である不當の責任呼ばはりは、遂に獨逸全國民に悲痛極まりなき屈辱を蒙らしめた……………革命のもたらしめた所のは國民層の最小部分にとつてのみ有難いもので

あつて、壓倒的大多數の勞働に依つて其のかてを得つゝある人々に對しては無限の悲痛であつた。……………我國民は、十四年間の月日の間に、其の生活の凡ての方面に渡つて、凡そ想像する事のできない程の没落に遭遇した。然るにかゝる没落が或程度以上に深刻化せず済んだと云ふ理由は、獨逸民族の根柢に横る貴き資質と、常に嚴乎と存在したる政治的經濟的秩序に依るものでなければならぬ。……………然しながら此の十四年間に於ける最も特色ある象徴は、經濟發展のカーブが常に下降しつゝあつたと云ふ事である。此の憂鬱なる事實の認識は大衆失望の最大の原因である。そして此の認識こそは獨逸國没落の根本原因が何所に在るかを明かにせしめ、此の原因である所の思想や制度から轉向する事が、何よりも必要であることを痛感せしめたのである。

かうした理由から國民社會主義運動をして遂に權力を掌握するに至らしめ、そして三月五日獨逸國民は彼等の行動に同意を與へたのである」。

更に彼は論を共產黨の行動に進めて曰く、「過ぐる世紀のリベラリズムに端を發した此の闘争は必然的にコンミズムの混亂に墮して了つた。原始的本能の動く所、政治的妄想を馳せて、

掠奪、放火、鐵道爆破、暗殺等を始めとし、彼等の特色であるテロリズムに於て僅かの時間に三百名以上の國民社會主義勞働黨員の命を奪ひ、一萬餘人の負傷者を續出せしめた。獨逸議事堂の破壊は其一例である。即ち吾人は斯の如き放火犯人を最も迅やかに逮捕し、此等を公衆の面前に於て斬首の刑に處し、以て其の罪に報ゆべく凡ゆる手段を講すべき筈である。

斯の如き行動を實に獨逸國の爲のみならず、全歐羅巴の利益の爲に根絶する事は國民政府に課せられたる最高の使命であらねばならぬ、而も國民政府は此の際かゝる組織を否定すると云ふ消極的問題のみならず、獨逸勞働者を國民國家の完全な味方にするると云ふ積極的使命を遂行することが肝心である事を認識して忘れないであらう。何となれば獨逸内に於ける共產黨の一掃は單に獨逸内政上の問題に止まらず、西部歐羅巴諸國に於て想像も及ばざる程の激しき政治的經濟的影響を及ぼすものたるべきことを思ふ時、世界各國はこれに付き共同の利害を有するものである。……………」

四 ヒットラーの獨裁政治

ヒットラーが一月三十日政權を取つてから彼は矢繼ぎ早に獨逸の政治の改革を實行した。それが爲に此の五ヶ月間に出した法律の數が殆ど七百に上つたと云ふ。其の事業の主なるものを挙げたなら、第一は獨逸各聯邦の獨立性を廢して、國家の統一を計つたと云ふ事である。元來獨逸は人の知る如く十七の聯邦から成り、此の聯邦は皆獨逸人中の異なる人種から成立つ所の歴史的所産であつて、彼等は各々特種の事情に依つて、各利害關係を異にし、且つ互に憎み合ひつゝあつたのである。斯の如き獨逸帝國內の痛はヒットラーに依つて完全に取去られ、三月三十一日及び、四月七日に發布されたる諸聯邦統一法と云ふ法律に依つて其の解決を見るに至つた。それは各聯邦にシュタットハルター即ち監察官と云ふものを置いて、中央政府の爲に地方行政を監督し、各聯邦政府の首相及び各省大臣の任免を掌らしめた。且つ此の監察官は必要に應じて各聯邦政府の内閣會議の議長となる事が出来る。そして此の監察官の任命したる各聯邦の首相や各大臣に對して、各聯邦議會は不信任を決議する事が出来ない制度とした。

次にヒットラーは「官吏の革新」と云ふ名義の下に、ユダヤ人排斥を實行して居る。其の規定の第一には無能官僚を排斥することを記してゐるが、其の次には直ちに非アリアン人種にし

て官吏たるものはこれを罷免すと規定してゐる。それはユダヤ人を指すのである。但し一九一四年八月一日以前に於て既に任官したる者、又は世界大戰に参加し——獨逸國の爲に戦ひし者、又は其の父又は息子が戦死せし者は此の限りに非ずと規定した。それと同時に共產黨及び其の補助機關に携はりし者は官吏たるの資格なしと規定して居る。

かうした規定に基いて一九一八年の社會民主黨の政治以來、官界及び學界に根を張つてゐたユダヤ人の官公吏は完全に一掃される事となつた。其の他藝術家、醫師、辯護士等の自由職業の部門に於ても、ユダヤ人は續々として退去を命ぜられた。中には獨逸の學者、文士が多數に含まれて居る。例へば伯林大學の經濟學者レーデラーとか有名な景氣學の大家ワーゲマンとか、物理學者アインシュタイン等が其例である伯林の市内の三千の辯護士中にユダヤ人にして法廷に立ち得る者は僅かに三十五名に過ぎない事となつた。又有名なベルリナー・ターゲ・ブラツトと云ふ新聞の出版者であつたルードルフ・モツセとか、同紙の主筆ウォルフとか、悉く國外に退去を命ぜられた。兎に角同年八月迄に獨逸國外に逃れ去つたユダヤ人が其の數二十萬に達したと云ふ。

五月一日に勞働祭を行ふ制度が定められた（四月十日の法律）。宣傳大臣ゲーベルスは四月二十五日に次の如き檄を發して國民に呼びかけた。

「全獨逸國民に告ぐ、國民革命政府は五月一日を以て國祭日と定めた。政府は此の日を以て、獨逸全國民と國民勞働との、そして又勞働者及び雇主の結合が、永劫動かざる所以を明かにせんとするものである。幾十年この方の内部的分裂と政黨政治の紛争の後、今や再び闘争と憎惡を超越して、獨逸民族不朽の精神は、創造的勞働の恵みに輝やき出し、清められて擡頭した。マルキシズムは地上に碎け伏し、階級闘争の組織は壊滅して了つた。我等が人類文化を危殆に瀕せしむるボルシェヴィズムに抗争したのは、反動的動機乃至は國民勞働者を敵視するが如き理由に斷じて出でたものではない。獨逸の勞働に自由の道を拓く爲にはマルキシズムは死滅せねばならなかつた。階級闘争と門閥自慢の障壁は、國民が本來の姿に立歸へる爲に撤去されねばならなかつた。今や吾人は單に獨逸勞働者を社會的平和に立歸らしめるだけでなく、彼等を權限ある國民の一員として國民層の中に編入すべき困難にして責任ある問題に直面して居る。從來マルキシズムの呪の曲の響きし所、其所に我等は全國民の一致をもたらさねばならぬ。

會て赤色魔神の咆哮せし處、其處に我等は階級平和への破口を穿たねはならぬ。會て荒寥たる唯物主義の凱歌を奏でし所、其所に我等は我國民の自由と勞働と生存との不易の見地に立つて、新らしく輝やかしき理想主義の精神を以て凡ての階級、門地、職業の國民的一致共同を我國民の前に、將又全世界の前に確立せんとするのである。

勞働を尊び、勞働者を重んぜよ。額と拳とは離るべからざる團結を爲さねばならぬ。鉞とる農夫、かなしきに坐す勞働者、推進機を操る工夫、研究室の机に向ふ學者、病床に臨む醫師、設計に従事する技師、彼等は凡て國民勞働祭日に於て自覺するであらう。國民と其の將來は何ものにも勝りて重要にして、各人は各々其の立場に在りて、祖國及び一般社會に最善の貢獻を爲さん用意ある事を知らねばならぬ。

政府は國民と共に此の祭日を、偉大なる國民的祝賀を以て迎へんとする。全國民はこれに積極的に參加すべきである。此の一日日輪轉機は止まり。機械は休止する。そして其の祝福に輝いて更に一ケ年の活動を續ける。

男よ！ 女よ！ 吾人は都市にも田舎にも汝等に敬する。

獨逸若人よ！ 吾等の訴へは就中汝等に向けられて居る。

五月一日は獨逸國民が一致團結以て全世界に對して獨逸國民が目覺め、そして自由と生存への道を求め、且つ之を見出した事を示さねばならぬ。此の日に於て勞働は休止せられねばならぬ。

新しき綠葉と國旗とを以て汝等の家々、町々、村々の道路を飾れ！

凡ての貨物及び乗用自動車の上には、國民的更生の旗の翻へるを見よ。

如何なる汽車も、電車も、花と綠に飾られずして獨逸國內を走つてはならぬ。

工場 of 各事務所は堂々國旗を掲ぐべきである。

黒、白、赤の國旗又はマン字の旗を持たない子供は一人たりとも發見されてはならぬ。

官公署、停車場、郵便局は新鮮なる綠に包まれて立たねばならぬ。交通機關も旗を以て飾らるべきである。

吾等は貧しき國民となつた。然し歡喜に満ちた生命の肯定、創造への勇氣、凡ての障礙を克服する不屈の樂觀は、何人も之を奪ふ可らず。

勞働に對して當然拂はるべき尊敬を拂ふ事は獨逸全國民が自らを敬ふ所以である。

凡ゆる階級、門地、職業の獨逸人よ！ 汝等の握手を差伸べよ！

いさや我等は一致團結、新しき時代をさして進軍せん！

獨逸國、獨逸國民萬歲！」

此の檄文こそ國民社會主義の精神である。國民共同、階級調和の精神を高唱したものであつて、これが即ちマルキシズムと國民社會主義の根本的相違である。

次に五月十日には世界を驚かした焚書の祭が舉行された。此の日伯林大學其の他の圖書館から、マルクスやレーニンの著書、ソヴィエト文獻、風俗を紊亂さした書籍約二萬卷を引出しウンテルデンリンデンの眞中、大學と國立オペラとの間の廣場で、フレデリック大王の馬上姿の彫像が潑瀾とし躍つてをる其の面前に於て、堆高く積重ねられて焼捨てられた。ルマルクの「西部戰線異狀なし」も亦其の中にあつた。宣傳相ゲーベルクは其の得意の雄辯を振つた。

此焰は僅かに伯林の街頭に輝いたに過ぎない。然し其の精神の焰は世界中を照して輝やいたのである。此の日を以てマルクスの思想は人類の文明とは兩立することが出来ないものだと言

のである。此の日を以てマルクスの思想は人類の文明とは兩立することが出来ないものだと言ふ事が明かにされた。殊にマルクスの生れた其獨立の本國から呪はれ、排斥され、焼捨てられた事が天下に明かになつた。日本の今日迄赤の書物で財産を作つた人々は大いに周章てふために、赤色原稿で食べてゐた文士共をそのかして、抗議を提出せしめたい。或獨逸學者はこれは文明に對する破壊運動だと叫んだ。所が或新歸朝の獨逸人は答へて、『今迄の獨逸文明を破壊しても、これからは更に優秀な獨逸文明が生れるであらう』と叫んだ。或日本人はこれを秦の始皇帝の焚書に比した。然し秦の始皇はマルクスに比すべき危険思想を支持するが爲に、支那の傳統的文献を焼却したのである。これに反してヒットラーは獨逸の傳統的精神を保存するが爲に、始皇の危険思想に比較すべきマルクス文献を焼いたのである、詭辯もいゝ加減にせねばならぬ。

更にヒットラーは非國民的政黨の解散を行つた。ヒットラーの政府が成立するや、先づ共產黨の議員は議會に現はれる事を禁止された。社會民主黨は黨首ウエルスを免職し、幹部は悉くチエツコスロバキヤに逃れ、黨は第二インターナショナルから脱退することを聲明して赦免を請ふたが、ナチスはこれを許さない。六月二十五日に内務大臣は突如として、獨逸社會民主黨

の解散を命じ、其の一切の財産を沒收し、其の選出代議士の失格を宣言した。そして其の理由とする所は、此の黨首ウエルスが第二インターナショナルを脱退したのは偽りであつて、同黨の首脳部がブラーグにあつて獨逸に對する反逆陰謀を企て居ることは事實である。又ゼネバの國際聯盟に訴へて、世界の勞働者を獨逸國民政府に反抗せしめて居るのは不都合であるといふのである。是と同時に國家黨と云ふデモクラット黨も解散を命ぜられた。

六月二十八日に至つて國權黨のフリーデンベルクが辭表を提出してヒットラー内閣から退いた。これと共に國權黨其の者も自己解消を行ひ、これに附屬したるスタールヘルム（鐵兜團）も自己解消を行ひ、同團長ゼルテはナチスの突撃隊の副團長となり、團員も夫々突撃團に加へられた。七月四日にはバイエルン國民黨と稱するカトリックの政黨が解消せられ、翌七月五日に至つて、有名な獨逸カトリック黨である中央黨も亦完全に解消せられた。こゝに政黨の數三十五に及んだと云はれた獨逸政界も完全にナチスの爲に統一されて、ハーケンクロイツの旗風が津々浦々に翻る様になつた。

機會を捕へるに敏なるヒットラーは十月十四日に至つて國際聯盟を脱退した。其の理由とす

る所は、軍備平等條約を得たいと云ふのである。彼は其の運動を起す當初からヴェルサイユ條約

る所は、軍備平等權を得たいと云ふのである。彼は其の運動を起す當初からヴェルサイユ條約の廢棄を以て其の生命としてゐたので、軍備平等の主張は要するにヴェルサイユ條約の破棄である。此の主張に對しては獨逸國民一人と雖も反對すべき理由はないのである。従て彼は此の名目に依つて議會を解散すると共に人民投票を行つた。其の結果は次の如くであつた。

國民投票

選舉權者總數

四五、一四一、九五四

有效投票數

四三、五四九、六六二

内 贊

四〇、六〇一、五七七(九五%)

内 否

二、一〇〇、七六五(四、九%)

× × ×

國會選舉

有效投票數

四三、四五二、六一三

内 贊

三九、六三八、七八九(九二、二%)

これは要するに向ふ四年間に渡る政府に對する信任投票であつて、これは軍備平等權と云ふ名目を以て、國民に訴へた事は政治家としての非凡の才能を持つてゐることを示したものである。

ヒットラーの政策の中で最も偉大な効果を收めたのは失業に對する政策である。十四年間の社會民主主義の政治は六百萬人の失業者を生じて、如何なる政策を以てするもこれを救ふ事が出来ない。二千萬の勞働能力者の中で其の三分の一は失業してゐる譯である。これに對してヒットラーは最も簡單なる政策によつて驚くべき効果を收めた。それは「婦人よ家庭に歸れ」と云ふ一言を以て盡すことが出来る。從來獨逸に於ては男女共に工場に働いて居り、而も社會民主黨の如き政府黨の者は夫婦共職を得て、其の反對黨は夫婦共職を得る事が出来ず飢ゑに泣いてをるといふ有様であつた。これに對してヒットラーは婦人を家庭に歸らしめ、其の職を男子に與へたのである。其の結果として四百萬の者が職を得て、失業者は僅かに二百萬に減じた。

これは既婚の婦人に對して有効であつたが、未婚の者に對しては適用が困難であつた。従てヒットラーは未婚者に結婚を勧めた。そして其の結婚費用も、家具を買ふ費用も低利資金を以

て貸出したのである。而も現金は少しもこれを使用しなかつた。一種の切符を發行して、これを結婚せんとする者に與へ、この切符を以て結婚の費用や家具の代價として支拂はしめた。商人はこれを租税其の他の形で政府に收めた。從て其の切符を幾度も廻轉さして、一文の現金を使はずして四百萬人の者に職を得さした事になる。

要するにこれは人間の自然性を利用したものに過ぎない。女は家庭にあつて子供を育つべきものであつて、決して工場に於て働くべきものではない。ヒットラーは只此の自然の法則に従つただけである。近時マルキシズムが世界に勢力を得るに從て、男女平等の不健全の思想が廣く行はれ、獨逸は殊にマルキシズムの爲に全く家庭を破壊されて了つた。ヒットラーの立上つた目的の一つは再び獨逸の家庭を根柢から立てなほさうと云ふ爲である。從てそれは單なる政治運動ではない。精神運動であり、道德運動であり、文明運動であり、宗教運動であり、人類運動である。かうした深き意義を持てるヒットラー運動は人が考へる様な内閣更替と云ふ様な一時的な變動に依つて覆へさるべきものでない事がよく理解される。從て獨逸國民は深き確信を以てナチス運動を支持してゐるのである。確かにファッショ運動はマルクス主義の世界的没

落を物語るものである。

五 ヒットラーの將來

前述した様に獨逸はインフレーションの爲に國民の九割九分迄は無産階級となり、社會主義を實行する爲に最も適當なる環境を作つた。然るにユダヤ人排斥の結果として、世界のユダヤ人が團結して獨逸の商品を買はない事に決めた爲に獨逸の輸出は非常な減少を來たし、五百艘の蒸氣船がめざしを並べた様にハンブルクの棧橋に立往生してゐると云ふ悲境に陥つた。これが爲にナチスの人々の中には思切つて社會主義を實行したらどうかと云ふ主張が盛になつた。そこで此の青年ナチス共は突撃隊長レーム大尉を中心としてヒットラーを倒して、國家社會主義を實行せんとする計畫を立てるに到つた。

所が昨年迄、ヒットラーの幕下にゲオルグ・シュトラツサーと云ふ野心家が居た。それはヒットラー陣營中の左翼派で、頻りに政權獲得を急いで、その爲に首を齧られた男である。彼が中介になつて、レーム大尉とシュライヘル將軍とを握手せしめた。シュライヘル將軍は軍人政治

家で、ヒットラーの前に一ヶ月と二十四日政權を執つた人である。ヒットラーがバーベンと組んで、彼の内閣を倒して了つた。それより以後彼はベルリンの近郊に住んでゐたが、其の不滿に乗じて陰謀に誘惑せられたらしい。そして一九三四年七月三日火曜日を以て遂に事を舉げると云ふ手筈になつてゐた。

所が此等多數の運動が決して洩れない譯には行かない。殊にプロシヤの警察を一手に握つてゐるのは、下院の議長であり、プロシヤの内相であり、獨逸の航空大臣であるゲーリング將軍である。此のゲーリングと云ふ人は有名な飛行將校であるが、鐵の如き意志を持つた愛國者で、ヒットラーを助けて、今日あらしめた人である。従て彼の鋭敏な警察眼にはレーム一派の運動の全貌が映つて居た。そこで先を越して、陰謀者を捕へる事になつた。ヒットラーは先づ六月末に突撃隊全體に對して歸休を許した。而も非常なる賛辭を以て歸休させた。但し其の歸休期間中茶色の制服をつけてはならんと命じた。

レーム大尉は其の故郷であるミュンヘンに歸つた。そして彼のヴィース・ゼーと云ふ湖畔にある別荘に赴いた。ヒットラーはライン地方のゴッテスブルクに赴くと見せて、急に方向を轉

じて一九二四年六月三十日の夜、午後二時ミュンヘンの飛行場に着陸した。彼はバマリヤの内務大臣ワグナーに導かれてミュンヘンの「褐色の家」と呼ばれたナチス本營にはいつた。其の時ナチス本部には誰云ふとなく一種の風説が起つた。それは「ヒットラーは突撃隊に反對し、フランスの注文に依つて之れを解散せんとする意志を持つて居る。そしてライヒス・ウエール（正規兵）の力を借らんとして居る」と云ふ事であつた。本部を守つてゐた突撃隊の青年連は此の風説を聞いて、不満の聲を上げ、凡て大道に出た。本部も大道も大騒ぎであつた。そこにヒットラーが着いたのである。

ヒットラーが着いた時には本部には有名なバイエルン洲のシュタットハルター（監察官）エツプ將軍、突撃隊長シュミットもゐた。ヒットラーが着くと、内相ワグナーは大道に出て、先づ初めヒットラーの親兵隊（シュツツ・シュタツフェル略してS・S隊と云ふ。そして突撃隊はシュツルム・アプタイルク略してS・A隊と云ふ。）に對して突撃隊長シュナイダーヒューバー、同じく隊長シュミットを免職せねばならぬ立場を告げた。それは彼等にとつて大きな驚きであつた。更に突撃隊に對しても同様の訓示があつた。そこで突撃隊は悉くこれを兵營に歸へ

して親兵隊だけが残つた。午前五時、貨物自動車が三臺本部の前に止つて、親兵隊は急に乗込を命ぜられた。それは何の爲であるかを知らない。ブツフ少佐が其の隊長となつて、小村々々を過ぎて進んだ。遂に車はヴィースゼーのレーム大尉別荘の前に止つた。そこには突撃隊が警戒線に立つて居た。親兵隊の服裝を見て、彼等を無事に通した。命令が下つた。「凡ての出口を警戒せよ。一人も出る事が出来ない。犯す者があれば銃殺する」と。三十名の親兵隊が先づ玄關に配置された。廊下の中では大騒ぎである。やがてレーム大尉は部下を従へ潜り戸から出て來た。ブツフ小佐は進んで云つた。「ヒットラーの名に於て君を逮捕する。抵抗せずについて來給へ」。レーム大尉は有名な豪の者で、大戦の時既に二回も負傷し、其の二回目は虎の聯隊に加つてヴェルダン、チオーモンの砲臺の突撃に傷いたのである。それ程の勇者にも拘らず従順に導かれて自動車にはいつた。彼等はミュンヘンの町に歸へつた。然るに其の後ではヴィースゼーの別荘でブツフ少佐が自ら手を下して、泥酔して睡眠中であつた突撃隊の幹部ハイネスを襲ひ之れを銃殺した。

かくしてナチスの突撃隊の主なる人々は二百名ばかり逮捕された。シュライヘル將軍も嘗て

身邊の危險を憂へて、友人から獨逸を退去する様に勧められたに拘らず、傲然として「プロシヤの軍人は決して逃げない」と稱して伯林に留つてゐた。三十日の朝自動車に乗つた男が彼に面會を求めた。それが彼を逮捕に來たのだ。彼は抵抗した。忽ち銃殺されて了つた。それをかばつた夫人も亦腹部に重傷を負つて其の夜死んだ。

かうした事情を考へて見ると、ヒットラーの英斷は非常である。無論如何なる革命でもかうした犠牲を拂はねばならぬ。元來革命人と云ふ者は情熱的人間であるから、之を服従させるのは容易の仕事ではない。増して不平の徒が必ず其の間に起るものだ。これは決斷を以て處分する以外には方法がないものだ。日本の維新の革命にした所で、明治元年に革命政府が政治を執つた様でも、それで革命は終結したのではない。尊王攘夷と云ふモットーで權力を執つたが、尊王は實行しても攘夷は實行しない。だから明治初年には守舊派の不平が絶えなかつた。先づ明治二年には開國派の横井小楠が暗殺され、其の九月には徵兵令を主張した大村益次郎が暗殺された。翌三年には廣澤參議が殺された。明治六年には征韓論が起つた。これは守舊派の主張である。丁度岩倉具視が西洋から歸へつて西郷隆盛と激論に及んだ。彼も亦暗殺者の爲に傷付

られて居る。とう／＼征韓論者は暴動に轉じた。江藤新平先づ佐賀に叛き、前原一誠萩に亂を起し、神風連は熊本に於て血の雨を降らした。そして其の最後の不平黨が鹿兒島に於て亂を起したのである。つまり西南戦争は維新革命の終結であつた。然し大久保利通は翌年とう／＼其の犠牲になつて斃れた。

かうした點から考へると、ヒットラーの清黨運動？は不平組の成敗として止むを得ないにしても、如何せん、突撃隊は五十萬の大衆であつて、ヒットラーをして今日あらしめた功勞者である。この功勞者を犠牲にする事は彼をして非常な危険を踏ましめるものである。私は伯林に於て屢々ヒットラーの演説を聞いた。スポーツ宮殿に二萬人の聽衆を集めて彼が演説した時、その入場の時も、演説中も、退場の時も、常に彼の身邊を守つてゐた者が此の突撃隊である。今此の突撃隊がヒットラーに叛いたとすれば誰れが彼の身邊を守るか。

ヒットラーはもと軍人である。一九二〇年ミュンヘンで政黨運動を起す時彼は少尉であつた彼は軍隊の許可を得て、其の後援によつて運動に成功したのである。殊にヒンデンブルグの參謀長ルーデンドルフと提携して事を始めたのである。一九二三年十一月八日のクーデターの時

は、ルーデンドルフと共に市街戦に敗れ、共に腕に傷ついて居る。従て最近突撃隊と獨逸正規兵との衝突が起つて來た時には、彼が突撃隊を捨て、軍隊に歸へると云ふ事は決して不自然ではない。彼は單に出發點に立戻つただけである。

然しながら何と云はうとも突撃隊は彼に對しては功勞者である。之れを全廢する事は不可能であらう。更に之れを改造して、異心なき者だけを以て新突撃隊を作ること、それが將來のヒットラーの運動であらう。然しながらあれだけの幹部を犠牲にして、そこに一人の復讐心を抱く者がないと云ふ事は不可能な事實である。それに復讐心を抱く者がヒットラーに近づいて、一發のピストルで彼の生命を奪ふと云ふ事は甚だ容易である。

ヒットラーがかうした難局に立つと云ふ事は彼の爲にも氣の毒であり、獨逸の爲にも困つた事である。ヒットラーは無論獨逸大衆の人望があり、軍隊の後援がある。然しこれだけでは充分な護衛とすることは出来ない。若し獨逸人が眞に愛國的國民であるならば、ヒットラーを殺さずして、彼をして其の政治的使命を完ふせしめるであらう。

何となれば、ヒットラーのなき後の獨逸は再び内亂状態に立戻るからである。六百萬の共產

黨、八百萬の社會民主黨、七百萬の中央黨が又再び混亂状態にはいつて止まることを知らない。それは支那やロシヤの状態にかへる事だ。従てヒットラーを殺すか、殺さないかは、獨逸人が偉大な國民であるかないかの試金石である。昔ローマの參謀本部では云つた。「獨逸人は恐るゝに足らず。何となれば彼等は互に争ふが故なり」と。今日の獨逸人も未だに此の性癖を残して居るか。獨逸人は正に其の國民性の試験の前に立つて居る。

第五章　フアツシズムの國家理論

第一節　伊太利フアツシヨの國家理論

一　個人主義の没落

フアツシズムの國家理論はまだ本當に完成しては居らぬ。然し大體に於て伊太利と獨逸に於て其の一致點を見出したのである。伊太利の代表的理論家は司法大臣のロッコであり、獨逸に於ては新聞部長デイトリツヒ博士である。彼等は共に個人主義に反對して、社會本位主義を取る事に於ては互に相一致して居る。

伊太利のロッコは説いて云ふ。最近の政治思想は伊太利に於ても伊太利外に於ても、個人主義の絶對的支配を受けなかつたものはなかつた。個人主義は先づ宗教改革に其の因を發して、十七世紀十八世紀に於ける自然法派の主張に依て發達した。イギリス革命やアメリカ革命や、

フランス革命に依つて制度化するに到つた。そしてそれが十九世紀二十世紀の政治論、社會論を支配して、マルクスやウイルソンや、レーニン等の學説を生出す様になつた。此の學説を機械論とも又分子論とも云ふ。

此の派の主張に依れば社會は個人の人爲的に作つたものであり、従て單に個人の總和に過ぎない。故に社會の目的はこれを構成する個人の目的を出る事が出來ず、要するに社會は個人の爲に存在することゝなり、個人の手段である。斯の如き分子論的の社會觀は必然的に非歴史的のものとなる。何とならば社會を單に空間的方面からばかり見て、時間的方面から見ないからである。社會生活を其時一代の存在に追詰めて了ふ。かくして社會は或瞬間に於て生活する一代的なる存在であつて、其の時代に於ける特定の個人の總和となつて了ふ。此の分子論的非歴史的なる學説は非常に唯物物的性質を帯びる様になる。何となれば現在を過去と未來とから遮斷する結果、我等が祖先から受取つてこれを子孫に傳へる所の思想や感情の精神的遺産を排斥することになるからである。これは當然人間社會の統一と精神生活とを破壊するものに外ならない。

此の個人主義的基礎は現代の凡ての政治理論を支配し、其の間に共通の論理的連鎖を作る様になつて了つた。従て自由主義から社會主義に到る、近代歐羅巴を支配した凡ての學説は假令其の方法に於て異なる所ありとしても、其の求めて居る目的に於ては一致するのである。即ち個人の幸福を社會の目的と考へる事これである。何となれば社會は即ち現代の個人から出來てをるものに過ぎないからである。此の個人主義者から見ると、社會も、又其の法的組織なる國家も、要するに個人が其の目的を達する爲の道具であり、手段であるに過ぎない。只彼等に異なる所は其の目的を到達する爲に要求せられたる方法の相違に過ぎない。

自由主義は市民の幸福を保證する最良の方法で、彼等の活動力の自由なる發展の爲には成る可く干渉しない事に在ると考へた。従て自由主義の國家の仕事は人間の自由を秩序立てる爲めに衝突しない様な保證を與へる事に在ると考へる。カントは此の學説の代表的なものであつて、「人は目的であつて手段でない」と云ふ言葉はよくこれを代表するものである。

かうした見地から自由主義は自由を秩序立つることを以て満足し、國家が其の機能の範圍を超えて、個人の自由を犠牲に供すると云ふ如き危險がない様な保證を要求する程度に自らを制

限する事に歸着した。かうした自由主義の國家の仕事は消極的である。即ち此の制度に於いては支配者の行爲を制限する事を以て満足した。それが即ちモンテスキューの三權分立主義であつて、それが凡ての市民が立法に参加すると云ふ事に終つたのである。そして此の國家の行爲を制限する任務の爲めに、僅かに小數の選良が全國民を代表する事になつたのである。

然しながら此の近世國家の組織には根本的の非論理と矛盾があつた。若し社會や國家の目的が個人の幸福に在りとするならば、人間の自然性や社會の組織に依つて生じ來たる所の不平等の結果を如何に處置すべきであるか。其の不平等の結果は幾多の人間を貧困に導き、從て個人に對して幸福を與へると云ふことは、自由放任の制度に於ては到底求むることは出來ないことになつた。從て國家は自由の保護と云ふ消極的仕事だけに制限する事は出來なくなつた。市民の幸福の爲には更に積極的に轉向する必要が出來た。即ち社會の大多數の者の物質的、知識的、道德的狀態を進歩せしめる爲には、失業者に仕事を見出し、人民を教育し、衛生の事務を考へねばならぬ。其所から國家は單なる小數に任かす事が出來ず、凡ての爲に存在し、凡てに依て支配されねばならず、主權は人民の中に存在せねばならぬと云ふ結論に歸着した。其所から人

民主權説と平等主義が生れたのである。それがデモクラシーである。

此のデモクラシーが消極的な自由主義から積極的に轉すると共に平等主義を生出し、此の平等主義から共和政治が生れる事になつたのである。

斯の如き分子説は當然の結果として一步進まねばならぬ必然性があつた。それは大工業の發達と勞働者大群の發生と共に、其所に忽ち勞働問題を惹起するに到つた。即ち家庭工業時代に於ては忍耐出來た社會的不平等が、大工業時代にはもはや忍耐出來ないものとなつた。そこで次の如き理論が當然發生せねばならぬ。「若し國家が個人の幸福の爲に造られてゐるものとするならば、一方に於て小數なる搾取する所の資本國家が存在し、他の一方に於ても搾取せられる勞働大衆が存在せねばならぬ。」そこで再び國家は干渉して所有權を廢して、更に公平なる組織を立てようと考へたのである。そこで此の勞働の生産物を單に勞働階級だけに分配する制度を考出した。これが社會主義である。かくしてデモクラシーが自由主義を包含しないから、更にこれを超越したるが如く、社會主義はデモクラシーを包含して更にこれを超越することゝなつた。要するにそれは同じ個人主義から出發して、只それを推進したものに過ぎない。

所が其の社會主義も又更にボルシェヴィズムと云ふ極端なる説を生み出す様になつた。それは要するに資本の所有者を暴力を以て排することである。即ち無産者の獨裁政治であつて、それは資本家の搾取から勞働階級を救はんとする一方法に過ぎない。

斯の如くにして自由主義も、デモクラシーも、社會主義も、要するに其の學説に於て起源を一にし、只論理的に一が他を生み出したといふ事に過ぎない。そして此の自由主義と社會主義は一時反對の如く考へられたが、其の起源は全く同一のものであつて、只經濟的環境を異にするだけであつて、自由主義は小工業時代に生れ、社會主義は世界的な大工業時代に生れたのである。

ニ ファツシズムの科學的原理

前述せし如く自由主義もデモクラシーも社會主義も只方法の違ひだけであつて、其の根本目的に於て何等相違する所がない。所が新に起つた所のファツシズムは前三者に對して觀念の相違であり、目的の相違である。従てファツシズムは方法から云へば自由主義やデモクラシーや社

會主義と類似する所がある。フアツシズムがかうした方法に無頓着であると云ふ事は、そこに理論の不統一の非難を招く事がある。けれども其の方法が前三者に似てゐるに拘らず、其の精神的態度や結果に於て全くこれと異なる。即ちフアツシズムは根本的に個人主義に反對する。元來人間は單なる物質ではない。我等は動物と違つて人間に獨特なる精神的目的を持つて居る。そして此の目的は凡ての社會がこれを到達する事を要求して居るものである。即ち凡ての社會團體なるものは言語や、文化や、宗教や、傳説や、習慣や、これを一言にして云へば感情や意志の精神的共通點を有するものである。そしてそれは經濟的利益とか、生活の資源とか、土地の統一共通とは別個のものである。

此の定義は個人主義時代の學說とは異なる眞理を現はすものであるが、これに對して他の異なる眞理が付加へられねばならぬ。それは即ち社會概念が生物學的概念の一面を有する事である。何となれば社會團體は人類團體の一分派に過ぎず、そして其の各分派は各々特種な組織を有し、需要や目的を異にせる異なる文明の程度に於ける特種の階段を形造くるものである。換言すれば其の各社會は皆夫々の生命を持つて居る。若し社會團體が人類の一分派とするならば

人類共同の性質を有さねばならぬ。それは即ち社會は人類の歴史的生活の產物であつて、決して個人が人爲的に造上げた一つの集團ではない。

從て凡ての社會的團體は決して其の時々に於てこれに屬してゐる個人の總和ではなく、寧ろ人類を構成する所の過去、現代、未來のゼネレーション（諸代）の無限の引續きに過ぎない。社會は個人の總和ではなくて却て時として個人の利益に對して反對の利害を持つ。從て戰爭の場合の如きは個人に犠牲を要求する事がある。要するに社會は一つの歴史的に發達したる有機體であつて、それも決して社會學の歴史に現はれたる「社會有機體說」の意味の有機體ではなく、人類の部分として成立する社會團體はこれを構成する個人の目的や生命を超越する所の特殊の生命や目的を持つことを意味する。此の國家の有機體的概念は、社會に對して個人の生命を超越したる永續的の生命を與へるものである。

かう云ふ見地から見ると國家と市民との關係はファッシズム理論に於ては全く個人主義と反對である。即ち自由主義・民主主義に於ては社會は個人のためにあるのだけれど、ファッシズムに於ては個人は却て社會の爲にあるものである。

然しながらフアツシズムは個人を全く社會團體の中に沈めて了ふと云ふ譯のものではない。只個人を社會に従屬せしめるだけである。従て個人の發達は社會の發達の爲に常に大切である。然し其の個人の重要味は社會の手段として、大切である。従て何處迄行つても、社會は目的であつて、個人は手段に過ぎない。だから個人の權利は國家の權利と矛盾しない程度に認められ、こゝに義務主義がフアツシズムの最高道徳として發見されるに到つた。

無論自由主義の主張の中にある眞理をフアツシヨが絶対に排撃すると云ふ譯ではない。只自由を異つた様に解釋するだけであり、そこにはリベリズムの解釋があり、又其所にはフアツシヨの解釋がある。我々と雖も個人の自由なる發達に對する必要な状態を保證すべき事を認める。又個人の人格を壓迫することは近世國家に於て許すべからざる事も知つてをる。然しながら個人を以て國家以上のものとなし、個人をして社會に反抗する事を認める所の法律は我々はこれを認める事は出来ない。我々の自由に關する概念は、個人の人格を發達することは國家の利益の爲になさるべき事である。——それは社會の各員の發達は國家の發達の爲に必要であるからである。然し此の個人の發達は正常的であらねばならぬ。或特別の階級だけの個人が異常

な發達を遂げると云ふ事は生物有機體の場合の如く社會に對して有害である。だから自由は社會の利益の爲に用をなすと云ふ條件の下に、階級や又は個人に與へらるべきものである。

第二節 ナチスの國家理論

一 デイトリツヒ博士の所論

イタリヤのファツシヨ運動には、これに伴つた國家理論が生れた事は我等がこれを論じた。そしてそれは司法大臣ロツコの哲學であつた。然らば獨逸のナチスの運動にも亦其の哲學が發生せねばならぬ譯である。獨逸は元來哲學の國であるだけ、ヒットラー運動に關する哲學は更に華々しきものがなければならぬ。そして我等は既に其の萌芽を、新聞雜誌に散見するのであるが、我等はここに主なるもの三つを紹介したいと思ふ。其の一つは獨逸新聞部長デイトリツヒの哲學であり、他の一つはドイツ教授のナチス運動に關する深き考察であり、更に他の一つはヒットラーの思想上の片腕であるローゼンベルクの演説である。

デイトリツヒはケルン大學に於てナチスの國家理論を展開して云ふ。我等は今二つの時期の十字路に立つて居る。それは要するに精神及び哲學の視野に於ける思想上の危機である。そしてそれは單に獨逸に於てのみならず、世界全體を通じて新舊の思想は互に争ふて、新しきものが古きものから解放されて、既に形を取つたかの觀がある。それは即ち從來支配して居つた個人主義の哲學に對して、こゝに限りを知らない形而上學上の戦争が開かれた。即ち個人主義の思想は人間を孤立の存在と考へた事に於て、そこに取返へしのつかない缺點を示して居る。

事實上に於て世界に存在して居るものはそれは孤立の人間ではない。それは人類の種族であり、民族であり、國民である。個人としての人間は自然科學の研究の對象たり得ても、精神科學の認識對象とはなり得ない。何となれば個人は常に社會の一員だからである。

從て其所には個人主義思想の代りに普遍的^{ユニヴァーサル}思想が起らねばならず、そこには機械的世界觀の代りに有機的世界觀が起らねばならぬと云ふのである。即ち個人主義に對抗するものはウニヴェリザリズム即ち普通主義であり機械的世界觀に對するものは有機的世界觀だと云ふのである。

元來十八世紀の思想は常に社會を以て個人の人爲的に作つたものであると考へて、從て社會は個人の手段であると考へる傾向を持つて居た。故に社會は個人の人爲的に組織したるものであるから人と人との關係は要するに機械的であり、僅かに法律の力に依つて其の秩序が保たれるのである。

然るにナチス運動は、社會は決して個人によつて人爲的に作られたものではなく、自然的に發生したものと説くのである。從て社會は個人の手段ではなく、却つて個人が社會の手段である。從てこれは個人主義に對して普遍主義と稱すべきものである。其の社會は自然に發生したものであるから、それは機械的のものでなくして有機的のもものと説くのである。

此の社會の見地から見られたる新しき思想上の原理は、此の國民社會的革命的時代に於ては、精神の世界を意味深からしめるものである。ローゼンベルクは歴史科學に就いて下の如く云つた。『そこには固有の意味に於ては決して世界歴史なるものは存在しない。種々の人種、種々の國民の歴史が存在するだけである。』と、これは要するに人類の文化は種々なる人種の文化、種々なる國民の文化の總合に過ぎないことを意味するものである。從て人種學でも、法律學で

も、經濟學でも、言語學でも、凡て此等の科學の基礎は悉く國民社會主義の原理に従て研究さるべきもので、社會的見地から見るべきものであつて、決して個人的見地から見るべきものではないと云ふのである。

斯の如き傾向は決して單にイタリヤや、獨逸だけに發見されるものでなくして、世界全體の傾向である。イタリヤのファッシヨは獨逸の國民社會主義の思想と親族關係に於てある。ファッシヨ黨の第一の政綱は次の原理から導かれたものである。「國民は生きたる個人の單なる總加ではない。それは無限のゼネレーションの引續きを抱含する所の有機體である。此の國民は凡ての物質的及び非物質的なる財産の最高の綜合である。」かの勞働憲章の第一條に於ては下の如く説いて居る。「イタリヤの國民は一つの有機體である。其の目的、其の存在其の方法は個人又は權力團體の目的や存在や方法に對して、更に優越するものである」と、こゝにファッシズムは個人主義の原理に對して正反對のものである。然しながらファッシヨの國家理論はポルトロットが彼の著述なる「ファッシズムと國民」に於て述べた如く、抱容的な普遍的觀念の深さに到達し居らぬ。何となれば彼の國家理論は個人主義を非難しながら、普遍的な原則に迄到

達せず、個人主義と普遍主義の間に第三の原理としてコルボラチビズム即ち職業團體主義なるものを提唱して居るからである。

普遍主義の思想は、社會を以て最高の原理となすこと宛も國民社會主義が、個人とか人類とかを最高の原理となさずして、國民を以て唯一の實在的な有機的に發生したる全體と考へると同一である。個人は社會に依つて存在するが故に、自由も亦社會から導かれ、社會の爲に存在すると考へられる。國民社會主義の見地からは、自由は個人の能力を發生する爲に、これを必要と認めるけれども、要するにそれは社會の手段であつて、從て社會を害して迄自由を認めると云ふ事はある得ない。

要するに獨逸國民社會主義は、社會を以て歴史的の產物と見做し、それを特種の人種、特種の言語、特種の宗教、特種の傳統、特種の歴史が生み出したものと考へ、此の意味に於て有機的である。有機體に於ても生物の身體が目的であつて、細胞は其の手段に過ぎない如く、社會に於ても個人は社會の手段であつて、決して社會が個人の手段ではない。だから個人主義は人間の關係を機械的に組織し、普遍主義は人間の關係を有機的に組織して居る。

獨逸は元來哲學の國として知られて居る。從て科學と最高の世界觀を得んとする努力は獨逸國民の血液の上に残つて居る。獨逸は此の科學的努力と強き精神的本能を單に國內に於てのみならず、これを世界に擴張せんことを欲する。

二　ドイツ教授の所論

次にドイツ教授の論する所に依れば、國民社會主義は普通人が考へる如く、決して政治上の一體系ではない。然しそれは來るべき千年の間獨逸國民の精神の上に、人生觀上の革命を起すべき一つの思想上の戰鬭形態である。若し外國人からこれを見たならば、又普通の理智主義の法則に則つてこれを考へたならば、ナチスの熱烈なハートから迸り出づる猛烈なる爆發は一つの野蠻なる原始力の破裂とも見えよう。然しながら今日のデモクラシー及びリベリズムは過度の知識的傾向によつて彈力性が失はれたる人生觀の瘤に過ぎない。從てそれは遂に没落の運命を辿るに過ぎないものである。今日此の過度の知識的傾向は國家内に於ても、國際間の關係に於ても、常に有機的な協力を妨げ、機械的な關係を誘起して遂に却つて鬭争を導き來たる

といふ結果に陥る。これが即ちマルクス主義であつて、マルクス主義は要するに人間の過度の理智主義の結果生れた破壊的思想と云ふのである。

従て今日は此の過度に尖鋭化された理智主義と、それによつて凡てが不安化されたる此の情態から社會を救ひ出し、其の代りに再び單純にして健全なる、換言すれば自然的に組織される人間の悟性を恢復し、新しき創造的な秩序を造り出して、これを以て凡てのものを新に解放せんとするものである。若し獨逸の歴史、殊に獨逸民族史を研究するならば、ナチス革命の目的は自ら明かに發見される筈である。

昔獨逸國民の神聖獨逸帝國は、ルーテルに宗教改革の基礎を與へて、獨逸革命の第一部を完結せしめた。此の獨逸神聖帝國は獨逸國民の神聖羅馬帝國と衝突し、こゝに北部獨逸の精神がローマに對して湧然として勃興し、バルチック沿岸の北部民族が、地中海沿岸の諸民族の精神に對して反抗することとなつた。此の鬭争の結果として獨逸の信念はローマの信念に打勝つて、こゝに獨逸教會の一部分の解放を生み出した。其の結果としてルーテルの宗教改革が全く意識しなかつた副産物が生れた。即ち北部の新教的精神はローマ教會の保守的精神に反對して、

自然科學を尊重した結果、遂に工業の勃興を見出す様になつた。獨逸の工業は大體に於て北部諸州に發達して、南部諸州には發達しないと云ふ結果を見た。かくして自然科學とテクニツクは煩瑣哲學と獨斷信仰から解放されるに到つた。

斯の如き北部獨逸の經驗的傾向は自然科學とテクニツクの基礎となつたが、宗教改革から引續いた宗教戰爭、アメリカ發見、喜望峰の發見等是不幸にして煩瑣哲學や獨斷的信仰の鎖から獨逸の法學、獨逸の國家學、獨逸の經濟學を解放することを妨げた。此等の學問は今日迄依然として理智的であつて、獨逸の國民とは關係なきものとして存在した。今や此の法學政治學、經濟學を、今日迄三百年間自由主義的、資本家的時代の鐵鎖の束縛から解放せんとして居る。この束縛の結果として最近百年間に於て此の工場の奴隸共が一時に叛逆を試み、今日も尙即ち其の混戰亂闘の中に、我等は生活して居るのである。

我等のヒューラーなるアドルフ・ヒットラーと彼によつて創造されたる教理と運動とは、これを國民社會主義と稱するものなるが、それはルーテルによつて始められたる獨逸改革の第二の部分即ち獨逸の一新を完結せんとして居る。その運動は獨逸の精神を誤れる理智主義から完

全に解放してこれによつて獨逸人を千年以來の解放運動に於て勝利に導かんとして居るのである。ナチス運動は二十ヶ月間に於て其の支配が單なるローマンチックな理論的の運動に非ずして、それは大々的な經驗派の運動であることを證明してゐる。其の運動は凡ての不自然にして人爲的であつたものを再び自然にして單純なものに引きなほす運動であり、政治も法律も文化も藝術も經濟も再び單純にして健全なる人間悟性の原則に一新せられるものである。從てナチスの本質は獨逸國民の生活行動の領分に於て、深き道德的改革を意味するものである。從て國民社會主義の世界觀と、其の結果として來る政治上、文化上、經濟上の目的觀とは、全く非帝國主義のものである。

これを要するに到る處に於て有機的なる、カントの自由主義の原則は知識的の原則と全く反對するものである。有機的な自由の創造的な原則は外部に於ては自然的なる結合を以て、内部に於ては行爲の自由と、自己責任の觀念を以て、知識的な非創造的な自由と反對するものである。從て過度の知識的時代、理智に奴隸的服従をなした時代の後にこゝに健全にして自然的な新しき秩序が到る處に支配せねばならぬ。

三 ロゼンベルグの所論

次に紹介するのはアルフレッド・ローゼンベルグの獨逸の國民觀念に關する演説である。それはベルシヤの學者であり詩人であるフィリドージに對する獨逸學生の歡迎會に於てなされたものである。

『私はナチス運動の名に於て、ベルリンに於てあなたを歡迎し得ることを喜ぶものである。殊に私は此の運動に對する世界に於ける人々の考へが種々であり得ることを知つてゐるからである。凡ての大なる革命は、同様なる經驗を持たない凡ゆる外國に於ては、全く縁遠くして理解の出来ないものと見ねばならない。我等は其等の外國がナチス革命の眞の本質を理解し、そしてそれが我々が欲する如く眞に尊敬されるに到る爲めには、幾多の年月を費さねばならぬことを知つて居る。若しそれがさうでないならばそれは極めて不自然の事である。何となれば其所には多くの黨派が現に存在する一黨派によつて解散せられて居るからである。然しながら若し斯の如き狀態が起らずして、他の諸黨派が依然として存在するならば、それは單なる國民社會

黨の變化に過ぎないのであつて、決して眞の革命ではあり得ないのである。

我等は一つ思想が外國に於て種々誤解せられることを知つて居る。そしてそれは國民社會主義に關する觀念である。人は動もすると國民社會主義は他の凡ての正當なる外國人の國民的感情に對して大を缺く所の壓迫であるかの如く説き、自らの世界觀を他の人種及び他の國民に對して強制するかの如く説くものがある、殊に面白いのは此の非難が屢々數十年間、國民の觀念を忘れ又これを亂用したる方面（社會民主主義）から起つたことである。あなた方も亦各々何れかの國民に屬すると感じ、從て或一定したる國、或一定したる文化、或一定したる傳統を尊敬せらるゝに相違ない。十九世紀のテクニツクの又世界經濟的特徴の一つは經濟的の擀取と共に、凡ての國民思想を全く同一のものと考へ、又大なるトラストやコンツェルンの職業利益を以て國民感情や國民的必然を同一視するの傾向があつたことである。かうした世界經濟的擴張は國民的感情と常に結合したるものであるが、彼等は世界に對して最良なる文化の擴張者ではなかつた。其等のナチス運動に對して非難を加へる世界經濟的自由主義の人々は、國民思想を世界經濟に結び付け、それによつて屢々關係なき高等なる民族を亡ぼし、同時に又自己の國家

内に於ける國民感情を危ふしたのである。

然るに熱烈なる國民愛から生れたナチス運動が、これ等に對して獨逸國內に反抗運動をなした時に、彼等に對して非常の苦痛を與へたのである。それはナチス運動がインターナツシヨナリズムから自らを分離したが爲であり、又獨逸の國民感情を或經濟的政治的團體の利益勘定から清めたからである。

私は假令その形は種々異なるとも、かうした國民感情の自覺が外の國にもあり得ると思ふ。そして國民主義中の決定的なナチス運動は、即ちその教義に於て獨逸の國民的自覺を提唱し又これを實行に移したのである。そして此思想が外の民族に對して行はれる時に、屢々利己主義なる考へが伴ひがちであらねばならぬ。

かう云ふ道理から國民社會主義運動は、外國に於て其の信念を宣傳することを拒絶するものである。何となればそれは獨逸の生活の中に外國の傳統を輸入し難いのと同一の理由に依つてである。

私は信ずる。獨逸の國民社會主義者の熱烈な運動は固有に發生したる外國の文化を認め、そ

して此の閉ぢられたる國家及び文化が互に交換されて、政治的經濟的關係を互に尊重し得ることの假定の下に立つて居るものである。かうした了解の下に、新に有機的に打建てられたる分離せられたる世界が、創造され得べきである。

外國の生活に對して、自負と自尊の感情の上に建てられたる國民間の協力は、實際上の解放に對する可能性を創造し得るもので、それが我々の仕事であらねばならぬ。あなたは又歐羅巴を研究してゐられる。どうぞナチスの運動をかう云ふ見地から研究し、そしてそれはあなたに對しても或價值あらんことを望む。然らばあなたの祖國に於ても凡ての國民の平和的協力の役に立つべき或國民生活が形づくられるに到るであらう。」

以上譯出したる三つの論文は各々其の特色を持つて居る。第一のデイトリツヒのナチスの國家思想は全くイタリヤのロツコの國家思想と類似して居る。只ロツコのファツシヨの觀念は社會を以て其の社會生活の所産であると説いたのに對して、デイトリツヒは更にこれを布演^{フエレン}して有機的なものであると論じ、個人主義の社會が機械的であるといふことに對照した所に面白味がある。此のファツシヨの社會觀を個人主義に對して普遍主義^{ユニヴァーサルイズム}と云ふ名前を與へた所に獨逸

的な獨創がある。

此の個人主義社會を機械的として、フアツシヨの社會を有機的と名付けたと云ふ事、そして前者が人爲的であるのに對して後者が自然的だとなした所に、我が皇道主義の歴史的、自然的、有機的な特徴が歐洲ナチスと相類似するものあることを示して居る。

ドイツに於て最も興味ある點は、ナチス運動を過度の知識主義に對する反動と説く所にある。我國に於ても知識中毒の傾向は到る處に現はれて居る。殊にマルクス主義の跋扈に現れたる如く、全く人が科學的分析のみに重きを置いて感情は涸渇し、道德觀念は低下し、只利益觀念だけを追ふてゐた日本の病を短的に指摘したかの感がある。

今日に於て日本に最も必要なことは此の知識中毒の弊を止めて、傳統的な國民の情操を養ふことにある。此の意味に於て我等は日本の皇道主義が理窟を抜きにした純粹感情である事を決して慨いてはならぬ。今日に於て最も尊きものは感情生活の恢復である。知識生活は餘りに多過ぎた。只感情生活に歸へるのが今日の日本の急務であらねばならぬ。

最後のローゼンベルクの演説は我等の日頃の主張を裏書したかの感がある。我等の國民生活

は要するに其の特種の文明を生むことに於て意義がある。此の國民的特種の文明が集まつて、始めて世界文明が出来るのである。従て國民生活を尊重し、其の國民生活の基礎たる國家を守る事は要するに人類文明を守ることであり、人類に貢獻する事になるのである。そこに國家と人類との調和がある。そこにローゼンベルクの文化哲學がある。

無論我等は外國文明を輸入することによつて、人類に對して負ふ所が多い。然し如何に人類から負ふ所が多くとも、それは我等の爲には單に手段に過ぎない。國民は目的であつて人類は手段である。それは國民は目的であつて個人が手段であるのと同様である。何處迄行つても我等は國民生活を尊重しなければならぬ。そこにフアツシヨ哲學の眼目がある。

第六章 結 論

我等はフアツシヨの精神が全體主義に在る事を示した。全體主義は多數主義に對する觀念であつて、其の根柢に利益と云ふ觀念が横つて居る。従て國家主義者の中には此の利益の觀念を排する結果、全體主義に對して疑をはさむ者がある。然しながら我等の利益は必ずしも物質的利益を意味するものでない。宗教や道德の如き精神的利益をも含むのである人間の人格が向上し、道德が進歩すると云ふ事は確かに一つの利益に相違ない。又全體の利益と云ふ時は、其の全體は決して現在の國民全體だけの利益を意味するのではない。過去や未來の國民全體の利益をも包含するのである。世界大戰の始め、獨逸はフランスを襲撃しようと思つて、道をベルギーに求め、ベルギー國民に向つて最後の通牒を發した、「若し獨逸軍隊をして無事にベルギーを通過せしむればよし、然らざればベルギー國を粉碎して通るであらう」と。其の時ベルギーの人民は會議を開いて、議して云ふには、「ベルギー國は決して現在のベルギー人だけのものではない。過去のベルギー人及び未來のベルギー人に屬するものである。従て我等は生命を培し

てベルギーの自由の爲に戦はねばならぬ」と。とりもなほさずベルギー人は自分の生命財産を犠牲にして過去現在未來のベルギー全體の利益を計つたものである。従て此所で云ふ利益は物質以上のものであることは云ふ迄もない。

伊太利のロツコも、獨逸のデイトリツヒも、ファツシヨは個人主義に對する國家主義の反動であると説く。國家は決して個人の手段ではなく、却て個人は國家の手段であると云ふ。かうした國家主義の説き方からすれば、個人の利益は全く眼中に無いかの如く見える。

然しながら私の見る所を以てすれば、日本在來の所謂る皇道主義なるものは、私の説く所の全體主義とロツコやデイトリツヒの説く所の國家主義の結合であると考へる。即ちそれは單に國家の利益を説くだけではなく、國民全體の利益を説くものだと考へられる。私はこれを天皇全體主義と云ふ名を以て呼ぶ。こゝに天皇は國家を象徵し、全體主義は人民の利益を意味する。即ち天皇の利益と人民全體の利益とは密接に結合して離れる所がないと云ふのが、日本の歴史が示す所の皇道精神の特質であつて、仁徳天皇はこれを「民の富は朕の富なり」と仰せられた。

從て日本歴史を研究する時は時々此の皇道が精神が曇を生じた事があるが、其の曇は何かと云へば、要するに國民の一部が利己を計つて、天皇の御稜威を汚しまつて、これと同時に國民全體の利益を害したからである。即ち天皇の御稜威を汚したと云ふことは國家の利益を汚した事であり、同時に國民全體の利益を害した事である。其の第一の危機は所謂建國以來の氏族の精神が發達し過ぎて、或特種の家族が餘りに其の勢力を擴大し過ぎ、遂に皇威に對して我儘を働くと云ふことが起りがちであつた。其の第一は武内宿禰の功勞が大であつたが爲に、其の子孫の中から蘇我氏が起つて、其の蘇我の入鹿及び蝦夷が權力を振ひ、横暴を極める事になつたのである。これを誅戮したのは中大兄王子と藤原鎌足であつた。中大兄王子は更に進んで當時の氏族の横暴を抑へる爲に、大化の改新を斷行し、こゝに氏族の政權獨占の制度を廢して、人材本位の制度を建てられたと云ふのは、要するに社會一部の利己主義を抑へて、天皇全體主義の光を明かにしたのである。

次に承徳天皇の御代に弓削の道鏡が異志を挿んだ事に對し、和氣清麿の忠誠より出する一喝が彼の私欲を挫いて了つたと云ふのは、これ又天皇の御威徳と國民全體の利益を救つて、天皇

全體主義の危機を脱せしめたのである。

朱雀天皇から御冷泉天皇に至る百三十年間に渡る藤原氏の專横時代に於て、皇室の御威光と國民全體の利益が脅威を受けて、天皇全體主義はやゝ光を失ひ始めたが、平安朝の末期に於て法王の親政が其の危機を救ふこととなつた。次に平家の利己主義が天皇全體主義を危ふからしめたが、これ又源氏の力によつて其の横暴が抑へられる様になり、こゝに其の危機を脱するところが出來た。

只鎌倉幕府以後七百年に渡る封建制度に於て一時皇室は力を失ひ、國民全體は武門に抑壓されて、天皇全體主義は光を失ふの觀があつたけれども、他の一面より見れば日本國民の根本精神たる忠義の感情は、他の一大特性たる武勇の精神と結合して、こゝに武士道の精神なるものを發達せしめ、國民の責任觀念と義勇奉公の觀念とを極度に鋭敏にして、世界に並びなき國民性を發達せしめた。

此の國民性こそ明治時代に於て歐米の侵略に對して、國を守るに必要な力を養成せしめたものであり、要するに封建制度は世界の五大強國となるべき準備と見做すことが出来る。此の

封建時代の根本精神なる忠義の心は明治以後に到つて、皇室に對する忠誠の感情と變じ、維新の革命も此の勤王の精神に依つて完成され、こゝに再び天皇全體主義は光を放つて、日清日露の兩役に於て國を興すこととなつたのである。

これを要するに我國の歴史的危機と稱するものは、國民一部の利己主義に依つて、皇室と國民全體とが其の利益を害されて、天皇全體主義が光を蔽はれんとしたものであり、そして其の危機の脱出は常に皇室の尊嚴を恢復することに依つて、國民全體の利益を救ひ、再び天皇全體主義の光を恢復したことに依るのである。

從て日本の皇道精神に於ては、天皇と國家とは同一義であるから、天皇全體主義は國家と國民全體との利益の結合を意味するものであつて、こゝに私の説く所の全體主義とロツコやデイトリツヒの説く所の國家主義とは、日本の皇道精神に於ては、天皇全體主義の觀念の中に包容されるのである。

伊太利勞働憲章

第一條 伊太利國民は一個の有機體にして其れを組成する個々人又は團體の持つ物よりも、その力と繼續期間に於て優越なる目的と生命と行動の方法とを所有する。國民は一個の道德的、政治的、及び經濟的統一體にして綜合的にファツシスト國家を具現するものである。

第二條 勞働は智能的、技術的、又は筋肉的、其他凡ての形體に於て、一個の社會的義務である。勞働が國家に依て保護されるのは此の爲であり、而も此の爲のみである。國民的觀點から考察する時は、生産の各種形體は一個の統一體を構成するものであつて、其の多くの目的は生産者の利福として、及び國民の力の發達として、一に歸着する。

第三條 職業組合を組織する自由は、勞資何れを問はず、原則的には完全だが、國家に依て法的に承認されてゐる組合、從て國家統制に服従する組合のみが、次の權能を許される。即ち其の組合員の雇主又は雇はれ人の意志を法的に代表する事、及び國家と他の職業的組合に對して、彼等の利益を保護する事、又同職業に屬する凡ての成員を拘束する勞働の團體契約を締結する獨占權を有する事、又此等同職業者に對して、會費を徴收し、國家を代表する公益的機能を行ふ獨占權を有する事、これである。

第四條 團體契約に於ては、生産に参加する種々なる要素間に於ける連帶關係は其の具體的な表現として、雇主と勞働者の間に於ける反對利益の協定、其の兩者が生産全體から見ての優越的利益に服従する事に表はれねばならぬ。

第五條 勞働裁判所は國家が勞働爭議を解決する爲の機關である。其の爭議は既成の規則又は協約の適用に關するもの、若しくは勞働の爲に制定さるべき新條

件に關するものの凡てを含む。

第六條 法的に認可されたる職業組合は雇主と被雇人間に於ける政治上の平等權を保證する。生産及び勞働の規律を統一し、兩者の能率の増進を計る。

協働組合 (corporation) は生産に關する勞資諸勢力の統一的組織を構成し、其の協働的利益を全體的に代表する。此の勞資を全體的に代表するが爲に、協働組合は法律に依て國家の機關と認められる。それは生産の利益は國民の利益であるからである。

第七條 協働組合の國家は生産の範圍に於ける個人企業を以て、國民的利益の最も有効にして最も有益なる方法と認める。生産の私的組織は國民的利益の機能となすが故に、其の私的企業の幹部は、其の生産の組織に關し、國家に對して責任を有する。生産諸力の協力はその間に權利・義務の相互關係を産出する。技術家と事務員と勞働者は經濟的企業の能動的協力者であつて、其の企業の經

營は雇主に屬し、雇主は企業に對して責任を有す。

第八條 雇主組合は凡ゆる可能的方法に於て、生産の量を増大し、其の質を改善し、そして生産費を低減すべき義務を持つ。自由職業若しくは藝術に従事する勞働者の職業組合、及び國家に屬する組合は生産の質を改善し、協働的目的の完成の爲に藝術、科學、文學の利益の促進を計る。

第九條 國家は次の場合にのみ經濟的生産に干涉する。即ち個人企業が缺如してゐる場合、若しくは不十分な場合、或は國家の政治的利益が含まれてゐる場合、これである。かゝる場合の國家干涉は獎勵又は直接經營の形式を其の場合々々に應じて取り得る。

第十條 團體間の勞働爭議に關し勞資協働的機關が勞資の調停を計り得る可能性のある場合に於ては、司法上の手段に訴へざることを得。勞働の團體契約の解釋に關する、個人的爭議の場合に於ては、職業組合は其の和解に關して、盡力す

るを得。此の場合に於て勞働裁判所は、當事者勞働組合に依て任命されたる代表者と共に活動すべき權限を有す。

勞働契約と其の保證

第十一條 職業組合は團體契約の方法に依て、雇主と勞働者の双方間の關係を規定すべき義務を有す。

第十二條 職業組合の活動と協働機關の仲裁と勞働裁判官の宣告とは勞働賃銀をして生活の正常的必要、生産の可能及び勞働の生産高の三者に調和せしむることを保證すべし。賃銀の決定は凡ての一般法を以て律す可からず。それは各個の團體契約に於ける當事者間の協定に一任すべし。

第十三條 産業的恐慌に依て惹き起された損失及び爲替の變動に依て惹き起された損失は、公正に生産の諸要素（資本と勞働）の間に分配されねばならぬ。生

産及び勞働の現状に依る統計、爲替の變動に依る統計、生活費の變化の統計は凡て政府の各省に依て、又中央統計局に依て、又法的に承認せられたる各職業組合に依て發表せられ、此等の統計は協働省に依て整理せられ、各階級の利益をして産業全體の恒久利益と調和せしむべき法則を打建つべき標準となるものなり。

第十四條 賃銀が出來高拂に依て、支拂はれる場合に於て、其の支拂が二週間以上の長期の間隔を於てなされる時は、四週間又は二週間拂の計算方法を講ぜられねばならぬ。正規の定期交替に含まれざる夜業は、或パーセンテージに於て、正規の日常に加へて支拂はられねばならぬ。賃銀が出來高拂で支拂はれる時は、其の支拂は勤勉なる能力ある職工が法定最低賃銀を取得し得る様、其の賃銀率を決定せねばならぬ。

第十五條 技術家は日曜を以て其の休日と爲す權利を有す。團體契約は現存の法

律と合致し、又當該企業の技術的必要と合致する限りに於て、此の日曜休日制を適用し、又地方の祭日、國祭を尊重する様其の休日を定むべし。技術者に關しては勞働時間は嚴格に適用することを要す。

第十六條 缺勤なしに一年間勤勞したる後には、技術者は正規の一年一度の休暇を持つ權利を有す。

第十七條 繼續的勞働の企業に於ては、過失なくして解雇されたる勞働者は彼の勤務せる年限に相當する賠償を受ける權利を有す。此の賠償は死亡の場合も同様とす。

第十八條 繼續的勞働の企業に於ては、其の企業の所有者の變化は、勞働契約を無効にするものに非ず。從て其の企業に屬する被雇人は所有者に對して從來の權利を保存す。或一定の期間を超過せざる疾病に關しても、勞働契約は其の效力を失はず。又兵役或は國民的民兵に召集せられたる場合も同様とす。

第十九條 勞働者側の規律を破り、及び企業の進行を妨ぐるが如き行爲は其の犯罪の輕重に應じて、科料、執務停止、或は重大なる場合に於ては無賠償の卽刻解僱に依て處罰される。勞働者に科料、執務停止、無賠償解僱を課し得る場合は、豫め明示されねばならない。

第二十條 新企業に入らんとする技術家は一定の試用期間に服する義務を有す。此の期間内は相當の賃銀を拂つて、當事者双方から勞働契約の解除を申し出すことが出来る。

第二十一條 勞働團體契約は家庭勞働者に於ても適用される。此の場合國家は家庭勞働の警察及び衛生上の監視をなすべし。

職業媒介局

第二十二條 國家は獨り勞働者の雇入及び執業を立證、監督し、生産と勞働の指

導を爲すことを得。

第二十三條 職業紹介局は、雇主及び労働者の同數より成る委員會より成る協働的機關の監督に服す。雇主は當該局に記名されたる労働者中より雇入るべき義務を有し、ファツシスト黨に屬する記名労働者中より、記名順序に依て選擇を爲すことを得。

第二十四條 労働組合は技術の練達、道德の涵養の目的を以て、労働者の間に運動を爲すべき義務を有す。

第二十五條 協働組合機關は労働災厄、労働警察に關する法規が組合を脱退する場合に嚴正に遵奉さるべき目的を以て監督を行ふべし。

保險、慈善、教育

第二十六條 保險は雇主と労働者の協力的原則の最も高き表現なるが故に、此の

兩者は各々其の應分の出費に依てこれに参加することを要す。國家は協働機關と職業組合の助力に依て、其の力の及ぶだけ、保險の組織を整理し、統一することに努力すべし。

第二十七條 フアッシスト國家は次の五つの事務を行ふ。

一、災厄保險の改善

二、母性保險の改善及び擴張

三、職業的疾病、結核に對する保險の創始、及び凡ての疾病に關する一般的保

險の立案

四、自己の意志に反したる失業に對して保險制度の完成

五、若き勞働者の爲の結婚持參金保險の採用

第二十八條 勞働組合は勞働災厄及び社會保險の規定に關し、行政・司法の兩面に於て、組合員の權利を保護すべき義務を有す。勞働の團體協約の中に、雇主と

労働者の協力に依つて疾病相互保険を組織することが技術上不可能なりや否やを研究すべし。此の基金は協働機關の監督の下に、當事者双方の代表者に依て管理さるべし。

第二十九條 労働組合は、組合員たると非組合員たるとを問はず、労働者の救済をなすべき權利及び義務を有す。かゝる救済機能は直接に労働組合の委員に依て行はるべきもので、他の設備に依頼してはならぬ。但し生産の性質に依り、他の生産要素と共同の利害ある場合は此の限りに非ず。

第三十條 教育殊に職業教育は、その組合員たると否とを問はず、職業組合の主なる義務に屬す。職業組合は就業後の時間に於て、國民教育及び他の教育を支持すべき義務を有す。

國民社會主義獨逸労働者

黨の綱領 (一九二〇年)

獨逸労働者黨の綱領は一つの暫定的のものである。綱領の中に定められたる目的の達成に關し、單に黨の存續を可能ならしむると云ふ理由の下に、單に大衆の不満を満足せしめる丈の爲に、此の綱領を變更することは許さるべきではない。

一、我等は民族自決の原則に基き、全獨逸人を一大獨逸國に結成せんことを要求する。

二、我等は他の諸國民に對する獨逸民族の對等なる權利を要求し、ヴェルサイユ條約及びサン・ジェルマン條約の撤廢を期する。

三、我等は獨逸民族を養ふが爲に又獨逸の過剩人口の移住の爲に國土(植民地)を要求する。

四、獨逸國家の市民たり得る者は單に獨逸同胞に限る。獨逸同胞とは宗教の如何を問はず、獨逸人の血液を有するものに限る。從て猶太人は凡て獨逸同胞の中に入らず。

五、國家の市民たらざる者は獨逸に於ては單に外來客としてのみ滞在し得る。然して外國人に關する立法に服さねばならぬ。

六、獨逸國家を指導し其法律を決定する權利は單に國家市民のみに許されて居る。從て我々は國家に於ても州に於ても又自治體に於ても、其の種類の如何を問はず、獨逸に於ける公職の權利は國家市民にのみ許されて居る。

我等は性格・能力の如何を顧みず、單に黨派的見地より地位を獲得せんとする腐敗的議會經濟に對し敵として戰ふものなり。

七、我等は國家は先づ第一に國民の生業及び生活の可能を計ることを以て其の義務とすべきことを要求し、若し國家の全人口を養ひ得ざる時は、他民族に

屬する者（獨逸の國家市民に非ざる者）は即時これを國外に退去せしむべきことを要求する。

八、獨逸人に非ざる者の移住は一切禁止しなければならぬ。我等は一九一四年八月二日以後獨逸に移住したる一切の非獨逸人を、即時國外に退去せしむべきことを要求す。

九、獨逸の國家市民たる者は平等の權利と義務を有すべきものとす。

十、獨逸の國家市民たる者は其の第一の義務として、精神的に又肉體的に創造せねばならぬ。但し各人の活動は全體の利益に反することを許さず。全體と抵觸せざる範圍に於てのみ各人の利益を追求せねばならぬ。

十一、從て我等は不勞所得を廢止することを要求する。

十二、凡ての戰爭なるものは生命及び財産上國民の甚大なる犠牲なることを思ふ時、戰爭に依る個人的致富は國民に對する犯罪と認められなければならぬ。

故に我等は一切の戰時利得の徹底的沒收を要求する。

十三、我等は凡ての既に社會化されたる企業（トラスト）の國有化を要求する。

十四、我等は大經營に於て利得の分配を要求する。

十五、我等は大規模の養老建設を要求する。

十六、我等は健全なる中流階級を創立し又これを維持することを要求する。大商館を即時公有化し、これを低廉なる價格にて小經營業者に貸與し、又國家、州、自治體の物品購入に當つては、各種小經營者の立場に最も注意すべきことを要求す。

十七、我等は我國民の必要に則れる土地改革、公益の爲には土地を無償沒收するの法律を制定し、地代の廢止、一切の土地投機の廢止を要求する。

十八、我等は公益を害するが如き行爲をなす者に對しては遠慮なく戰はんことを要求する。一般的國民犯罪者、高利貸、不正商人等は其の信仰及び人種の

如何に拘らず、須らくこれを死刑に處すべきことを要求する。

十九、我等は唯物主義的社會秩序を助ける羅馬法を廢止し、これに代るに獨逸普通法を以てせんことを要求する。

二十、有能にして勤勉な獨逸人の凡てをしてより高き教育を受けしめ、よつて又世の指導的地位に立ち能はしめんが爲に、國家は我全教育制度の根本的改革を計るべし、凡ゆる教育機關の教育方針は須く實際生活の必要に即さねばならぬ。國家觀念の養成は學校教育（國民教育）の劈頭に於て達成されねばならぬ。我等は貧家の子弟にして特に有能なる者を、その身分乃至職業の如何を問はず、國家の費用を以てこれを教育せんことを要求す。

二十一、國家は母子を保護し、幼年勞働を禁止し、法律に依て體操義務乃至スポーツ義務を制定して、身體の强健を計り、青年の體育に従事する凡ゆる團體を大いに援助し、以て國民健康の向上を計るべきである。

二十二、我等は儲兵軍隊を廢止し、國民軍を樹立せんことを要求する。

二十三、我等は故意の政治的虛構及び新聞に依るその流布に對して、法律に依るこれが撲滅を要求する。我等は獨逸に於ける新聞發行の可能條件としての次の如き要求をなす。

A、獨逸語に依て發行する新聞の主筆及び其の協力者は凡て獨逸同胞たならざるべからず。

B、非獨逸語新聞の發行は獨逸國家の明文に依る許可を要す。而して獨逸語にて印刷するを許さず。

C、獨逸新聞に對して非獨逸人が財政的に關與し、或はこれに干渉することは一切法律に依て禁止される。然して右禁止を犯したる場合は其の刑罰として該新聞の發行を禁止すると共に、其の關係非獨逸人を即時國外に放逐すべし。公益に反する新聞は禁止されねばならぬ。我々は我々の國民生活に對して破壊的影響を及ぼす文藝一派に對して法律に依る其の撲滅を期し、又前記

の諸要求に反する催し物の禁止を要求する。

二十四、我々は國家の存在を危うせざる、又我がゲルマン民族の倫理感・道德感に反せざる限りに於て、國家内に於ける凡ての宗教的信仰の自由を許す。

我黨は黨として宗教的に一定の信仰に因はれることなく、一つの積極的なキリスト教の見地を主張す、我黨は我々の内外に於けるユダヤ的物質主義的精神に反對する。我黨は公益を先にし私益を後にすると云ふ原則に立つてのみ、我國民の永久的復活が行はれると確信する。

二十五、我々は以上一切の實現の爲に、強固なる中央權力の建設を期し、全國及び其の全組織に關し中央政治議會の絶對的權威を要求する。

我等は國家に依りて發令されたる規定を各聯邦に實施せんが爲に等族議會シタム乃至職業代表議會を開設せんことを要求する。

我黨の指導者たる者は必要なる場合に於ては自らの生命を捨てるを辭せず、以上の目的の達成の爲に邁進すべきことを誓ふ。(終)

以上の目的の達成の爲に邁進すべきことを誓ふ。(終)

昭和十二年四月 十日印刷
昭和十二年四月 十六日發行

ファツシズムと其の國家理論 金八十錢

著 者 五 來 欣 造

發 行 者 東 京 市 神 田 區 一 ッ 橋 二 丁 目 九 番 地
井 田 勝 久

印 刷 者 東 京 市 牛 込 區 西 五 軒 町 五 十 二 番 地
白 井 祐 吉

複 製
不 許

發行所

東 京 市 神 田 區 一 ッ 橋 ・ 教 育 會 館 內
振 替 口 座 東 京 一 二 七 七 番

青年教育普及會

圖書一覽抄

(圖書目錄)
(無料贈呈)

東京神田一ツ橋・教育會館内
振替口座東京一二七七番

青年教育普及會

國學院大學 教授文學博士	武田 祐吉	國文學に現れたる上代の日本思想	金 送料四錢
國學院大學長 文學博士	河野 省三	日 本 民 族 の 信 念	金 送料四錢
國學院大學長 文學博士	河野 省三	我 國 體 と 日 本 精 神	金 送料三十錢
國學院大學教 授文學博士	植木直一郎	國 史 と 日 本 精 神	金 送料二十錢
東京帝大講師 文學博士	紀平 正美	日 本 精 神 と 辨 證 法	金 送料四十錢
廣島文理大學 教授文學博士	清原 貞雄	日 本 精 神 と 其 顯 現	金 送料四十錢
九州帝大教授 文學博士	鹿子木員信	新日本主義と歴史哲學	金 送料四十錢
廣島文理大學 教授文學博士	西 晋 一郎	歷 史 と 教 育	金 送料四十錢
文學博士	中村 孝也	現代思想の歴史的批判	金 送料四十錢
廣島文理大學 教授文學博士	西 晋 一郎	我 が 國 の 教 育	金 送料四十錢
東京帝大教授 文學博士	吉田 熊次	國 民 理 想 と 教 育	金 送料四十錢
京都帝大教授 文學博士	牧 健二	日 本 國 體 へ の 反 省	金 送料四十錢

京都帝大教授
法學博士 牧

健二 日本國體への反省

金三十錢
送料四錢

(取)

新

(刊)

取

(刊)

文 部 省 藏 版

國民精神作興叢書 (第一期三冊)

金 三
送料十錢

協 調 會
農 村 課 長 松村勝治郎

農 村 更 生 と 農 村 調 査

金 三
送料十錢

京 都 帝 大 教 授
文 學 博 士 高 田 保 馬

我 が 國 の 農 村 問 題

金 四
送料十錢

國 民 精 神
文 化 研 究 所 河 村 只 雄 編

思 想 問 題 年 表 (世界・國內・學生欄の三段相對照年表)

金 一圓八十錢
送料十八錢

ト イ ツ
宣 傳 大 臣 ゲ ッ ベ ル ス 述

人 民 戰 線
に 對 する ナ チ ス の 宣 戰

金 五
送料十錢

伯 爵 金 子 堅 太 郎 述

帝 國 憲 法 制 定 の 精 神

金 三
送料十錢

明 治 大 學 教 授 森 吉 義 旭 著

近 代 思 想 の 動 向 と 日 本 憲 法

金 八
送料十錢

東 京 文 理 大 學
教 授 文 學 博 士 吉 田 靜 致

人 格 の 生 活 と 現 代 の 社 會

金 三十五錢
送料六錢

國 民 精 神 文 化
研 究 所 所 員 山 本 勝 市 著

私 有 財 產 制 度 の 意 義

金 四
送料十錢

京 都 帝 大 教 授
經 濟 學 博 士 作 田 莊 一

現 代 國 民 經 濟 の 趨 勢

金 六
送料十錢

國 民 精 神 文 化
研 究 所 所 員 藤 澤 親 雄 著

近 代 政 治 思 想 と 皇 道

金 七
送料十錢

京 都 帝 大 教 授
經 濟 學 博 士 作 田 莊 一

日 本 國 家 主 義 と 經 濟 統 制

金 七
送料十錢

早 稻 田 大 學 教
授 政 治 學 博 士 五 來 欣 造 著

フ ア ツ シ ズ ム と 其 國 家 理 論

金 八
送料十錢